大正六年九月十四日　郵便物認可
大正九年九月一日　第一種郵便物認可

建築ト社會



第三輯
第九号

大正九年九月一日

日本建築協會

日本建築協會會則

第一條　本會ノ目的ハ我國建築界ノ眞實ナル發展ヲ期スルニ在リ

第二條　本會ハ日本建築協會ト稱ス

第三條　本會ノ事務所ヲ大阪市ニ置ク

地方ニ支會ヲ設クルコトヲ得

第四條　本會ハ人格、學識、經驗アル建築家ヲ以テ會員トス

會員ノ氏名住所ハ會員名簿ニ之ヲ記錄ス

會員タラムト希望スル者ハ會員五名以上ノ紹介ヲ以テ入會希望書及履歷書ヲ本會ニ提出スヘシ其諾否ハ理事會ニ於テ議決ス

第五條　本會ハ其目的ヲ贊成シ事業ヲ援助スル者ヲ贊助員トス

贊助員ヲ分チテ左ノ四種トス

一　名譽贊助員―地位又ハ學識アル名望家

二　終身贊助員―金百圓以上又ハ之ニ相當スル物件ヲ本會ニ寄附スル篤志家

三　特別贊助員―建築ニ關聯スル特種ノ技術家又ハ事業家

四　普通贊助員―建築ニ關係又ハ興味ヲ有スル者

贊助員ノ氏名住所寄附ノ金額又ハ物件ハ各贊助員名簿ニ之ヲ記錄ス

第六條　名譽贊助員ハ例會ノ決議ニ依リ本會ノ之ヲ推薦ス

終身贊助員タラムトスル者ハ會員貳名以上ノ紹介ヲ以テ申込書及寄附ノ金額又ハ物件ヲ本會ニ提出スヘシ其諾否ハ理事會之ヲ議決ス

特別贊助員タラムトスル者ハ會員二名以上ノ紹介ヲ以テ申込書及履歷書ヲ本會ニ提出スヘシ其諾否ハ理事會之ヲ議決ス

普通贊助員タラムト欲スル者ハ會員ノ紹介ヲ以テ申込書ヲ本會ニ提出スヘシ其諾否ハ理事會之ヲ議決ス

第七條　會員ハ會內ニ於テハ第十九條ニ關スル權利ヲ享有ス

會員ハ會內ニ於テハ其言行ニ付會外ニ於テ責ニ任ゼザルコトヲ得

名譽贊助員ハ本會ノ優遇及第十九條ニ基キ相當ノ利得ヲ受ク

終身贊助員、特別贊助員及普通贊助員ハ第十九條ニ基キ會誌ノ配布其他各相當ノ利得ヲ受ク

第八條　會員ニシテ脫會セムトスル者ハ其旨ヲ本會ニ申込ムヘシ

前項ノ規定ハ贊助員ニ之ヲ準用ス

第九條　本會ハ會員ニシテ本則ノ規定ニ違背シ又ハ本會ノ名譽ヲ汚ス行爲アリト認メラルル者ニ對シ理事會ノ決議ヲ經テ其權利ヲ停止シ若ハ之ニ脫會ヲ勸告シ又ハ例會ノ決議ヲ經テ之ヲ除名スルコトヲ得

前項ノ規定ハ贊助員ニ之ヲ準用ス

第十條　脫會其他ノ事由ニ因リ會員タルノ資格ヲ失ヒタル者ハ既納會費ノ返還ヲ求メ又ハ其債務ヲ免カルルコトヲ得ズ

前項ノ規定ハ贊助員ニ之ヲ準用ス

第十一條　本會ニ左ノ役員ヲ置ク

一　會　頭　一　名

二　副會頭　一　名

三　理事長　一　名

四　理　事　六　名

會頭ハ會務ヲ總監シ本會ヲ代表ス

副會頭ハ會頭ヲ補佐シ會頭事故アルトキ其職務ヲ代理ス

理事長ハ會務ヲ總理シ會頭、副會頭事故アルトキ其職務ヲ代理シ理事會ヲ代表ス

理事ハ會務ヲ處理シ理事長事故アルトキ理事會ノ決議ニ依リ其職務ヲ代理ス

第十二條　役員ハ會員中ヨリ例會ニ於テ之ヲ選舉ス但會頭、副會頭ノ任期ハ貳ケ年トシ理事ノ改選ハ每年半數トス但引續キ重任スルコトヲ得ズ

第十三條　本會ニ左ノ職員ヲ置ク

一　主　記　一　名

二　主　計　一　名

三　編　輯　三　名

四　編輯補　若干名

五　書　記　若干名

主記ハ庶務ヲ、主計ハ會計ヲ、編輯ハ編纂ヲ處理ス

編輯補ハ編輯ノ旨ヲ受ケ編纂ヲ分掌ス

書記ハ理事長、理學ノ命ヲ受ケ會務ニ從事ス

第十四條　主記、主計、編輯ハ理事之ヲ互選ス

編輯補ハ會員中ヨリ理事會之ヲ指名ス

書記ハ理事會之ヲ任命シ有給ト爲スコトヲ得

第十五條　本會ハ隨意研究ノ必要ニ應ジ例會ノ決議ニ依リ各部ノ委員會ヲ設ケ各部ニ委員長一名委員若干名ヲ置ク

委員長及委員ハ會員中ヨリ理事會之ヲ指名シ委員長ハ當該委員ノ互選トス

理事會ハ特殊事項ニ關シ會員外ノ專門家ヲ臨託委員ト爲スコトヲ得

第十六條　委員長ハ當該委員會ヲ代表シ委員長事故アルトキハ當該委員會ノ決議ニ依リ委員其職務ヲ代理ス

委員會ノ經過ハ例會ニ於テ之ヲ報告ス

委員會ノ調査研究報告ハ例會ノ決議ヲ經テ本會ノ名ヲ以テ之ヲ發表ス但シ緊急事項ニ付テハ理事會ノ承認ヲ經テ當該委員會ノ名ヲ以テスルコトヲ得

第十七條　本會ハ每月一回會員ヲ召集シ例會ヲ開キ重要事項ヲ審議シ報告會、談話會、討論會又ハ講演會ヲ催ス但理事會ハ必要ト認ムルトキ臨時之ヲ開催スルコトヲ得

例會ニ於ケル議案其他ノ重要ノ事項ハ理事會之ヲ會員ニ報告ス但緊急事項ニ付テハ此限ニ在ラス

第十八條　本會ノ事務ニ關スル諸般ノ事項ハ左ノ如シ

一　建築ニ關スル調査研究

二　建築ニ關スル重要事項ノ議決

三　決議事項ノ實行促進

四　會誌ノ發刊

五　建築ニ關スル圖書ノ刊行

六　建築ニ關スル講演會ノ開催

七　建築ニ關スル展覽會ノ公開

八　建築ニ關スル視察

九　建築ニ關スル有志者ノ親睦會

十　理想的建築ノ計畫

十一　其他建築ニ關スル有益ナル事項

第十九條　會員ハ會費年額金拾八圓ヲ本會ニ據出ス

但例會ニ出席シ難キ地方ニ在ル會員ノ會費ハ半額トス

一時ニ金百圓以上ヲ出ストキハ當該前項ノ會費ヲ免ル

會員タルノ承認ヲ得タル者ハ入會金五圓ヲ本會ニ納付スヘシ

特別贊助員ハ特別贊助費年額金九圓ヲ、普通贊助員ハ普通贊助費年額金六圓ヲ本會ニ前納スヘシ

但六期以內ニ之ヲ分納スルコトヲ得

第二十條　本會ノ經費ハ會費入會金寄附金贊助費其他ノ收入ヲ以テ支辨ス

第二十一條　本會ノ財產ハ理事長之ヲ監理ス

本會ノ財產ニ關スル權利義務及每月ノ收支ハ主計其計算書ヲ作リ翌月理事會ニ報告ス

本會ノ財產權利義務及每年ノ收支ハ理事會其決算書ヲ作リ翌年一月例會ニ於テ報告ス

第二十二條　本會ノ會則ハ例會ニ於テ之ヲ變更スルコトヲ得

第二十三條　本會及本則ニ關スル詳細ノ事項ハ例會ノ決議ニ依リ細則ニ之ヲ定ム

第二十四條　本則ハ例會ノ決議ニ依リ之ヲ變更スルコトヲ得

コルクタイル

最新の機械と製法を發明せる我社は品質優良
と價格低廉なる点に於て他社の追従を許さず

床敷用

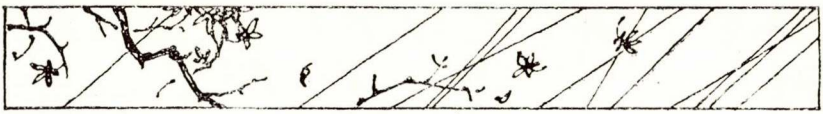
■コルク、タイル　■リノ、タイル　■下敷用コルク板
■コルク疊床　■絶縁用コルク　■其他一般

半額で提供す

他社製品と同等品ならば

製造所　大阪府東成郡城東村鴫野
コルク工業合資會社
電話鴫江三四

一手販賣所　大阪市南區心齋橋筋二丁目
株式會社高島屋吳服店裝飾部
電話南三八二三 裝飾部專用
自南三一 至南三五



『建築と社會』第參輯第九號

目次

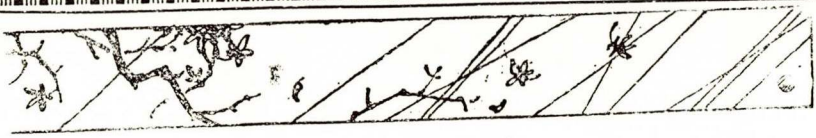
口繪
- 西尾氏須磨本邸（三色版）
- 同平面圖（寫眞版一）
- 懸賞改良住宅設計案二等當選（寫眞版自二至四）

〔卷頭〕
□建築と時代相 …… 一

〔論說〕
□財界の混亂と都市建築（三） …… 會員 工學博士 片岡安 …… 二
□市民の建康に及ぼす住宅難の影響（下） 京都帝國大學醫科大學教授 戸田正三 …… 七
□都市計畫の基礎的問題 東京市會議員 都市計畫委員 辯護士 尾中勝也 …… 一一
□道路の改善と木敷道路 …… 林學博士 志賀泰山 …… 一六
□國立土木建築研究所の創設を望む（一） …… T Y生 …… 二六

〔研究〕
□最近避雷針の進歩（三） 京都帝國大學教授 工學博士 青柳榮司 …… 三〇
□米國建築界の同盟罷業に就て（B） （在米）會員 大林組技師 本田登 …… 三七

〔住宅〕
□居構百選（其九） …… 會員 葛野建築事務所主 工學士 葛野壯一郎 …… 四五
□新聞記者の見たる名士の邸宅（7） …… 讀賣新聞記者 梅谷孫吾 …… 四八



〔庭　園〕
□日本庭園考（六）……會　員・農學士・大屋靈城……五四
〔都　市〕
□將來の市加古市(4)……ウオルター・ディ・ムウデイ著・Z Y 生譯……六二
〔談　叢〕
□生活の改造として何よりもローマ字を……醫學博士櫻根孝之進夫人・櫻根たか子……七一
〔資　料〕
□大阪市都市計畫參考資料、其六）
〔紹　介〕
□住宅改善の方針……一　記　者……七四
□須磨西尾氏本邸新築工事概要……七八
〔漫　錄〕
□太平洋を横ぎりて（三）……會員・工學士・波江悌夫……八〇
〔批　評〕
□『建築物語』を讀む……T N 生……八五
〔藻　苑〕
□俳　句……蘆田秋双選……八八
▲時　報……九一
▲會　報……九五

附　錄

□ベネチヤ市建築條例（上）……六頁

大阪煖房商會
大阪電氣商會

營業課目

暖房。通風。衛生。乾燥。電氣暖房

工事設計請負

昇降機及リフト製作販賣

電氣諸機械材料販賣

電氣工事設計及監督請負

大阪電燈製作所委托販賣

工事代理

大阪電燈株式會社
大字治川電氣株式會社
日本電氣株式會社
名古屋電氣株式會社

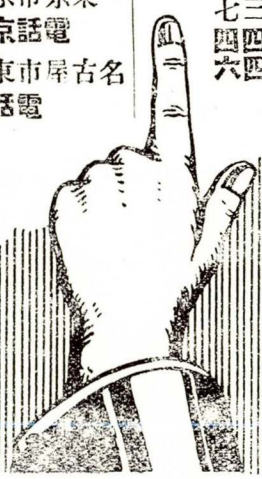
本店

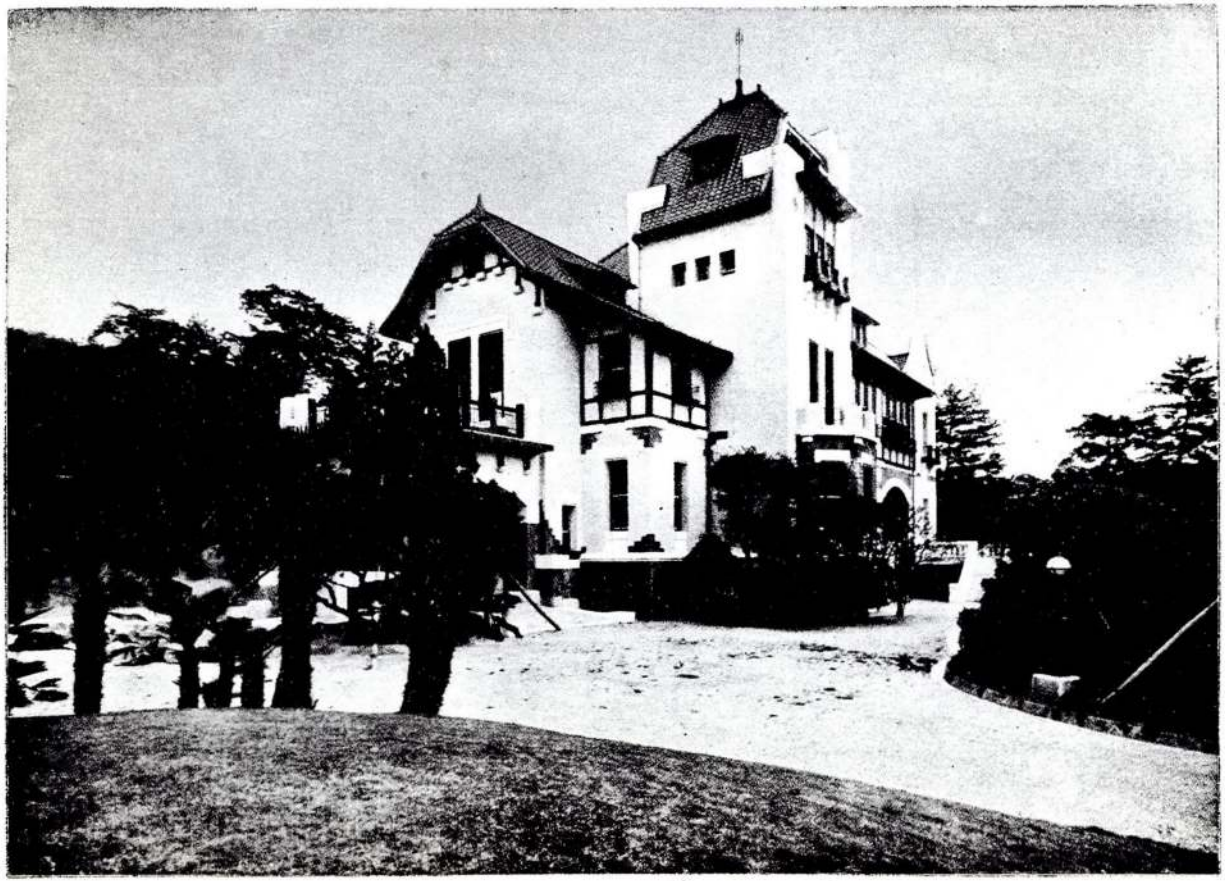
大阪市西區江戸堀一丁目三通南
電話土佐堀四一五五長四四六四

出張所

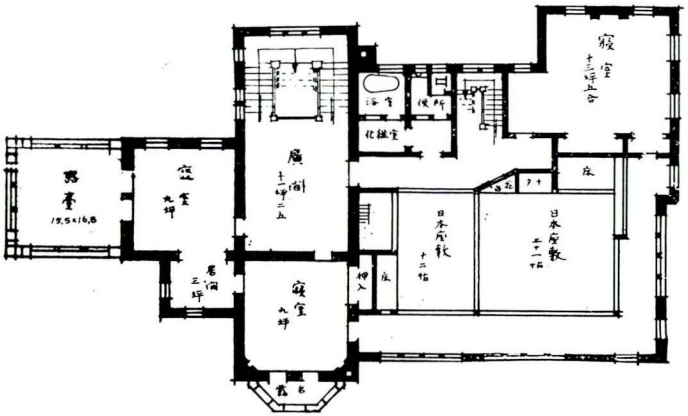
東京市京橋區西紺屋町五
電話京橋三二〇六長

名古屋市東區東重本町二丁目
電話二三二六長

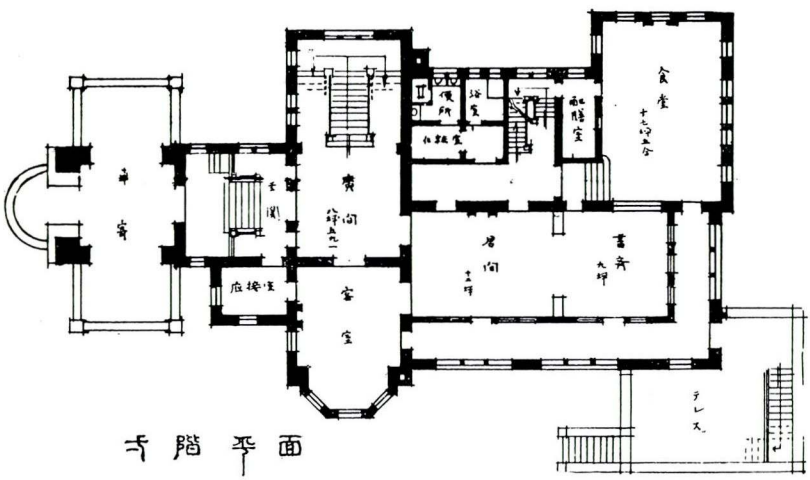




在兵庫縣須磨西尾氏本邸　（設築建築事務所設計並に施工監督）


寝室
十三坪五合
浴室
便所
化粧室
廊下
十二坪二五
露臺
15.5×16.5
寝室
九坪
書斎
三坪
寝室
九坪
押入
日本間
十二帖
日本間
十一帖
縁
玄関

二階平面

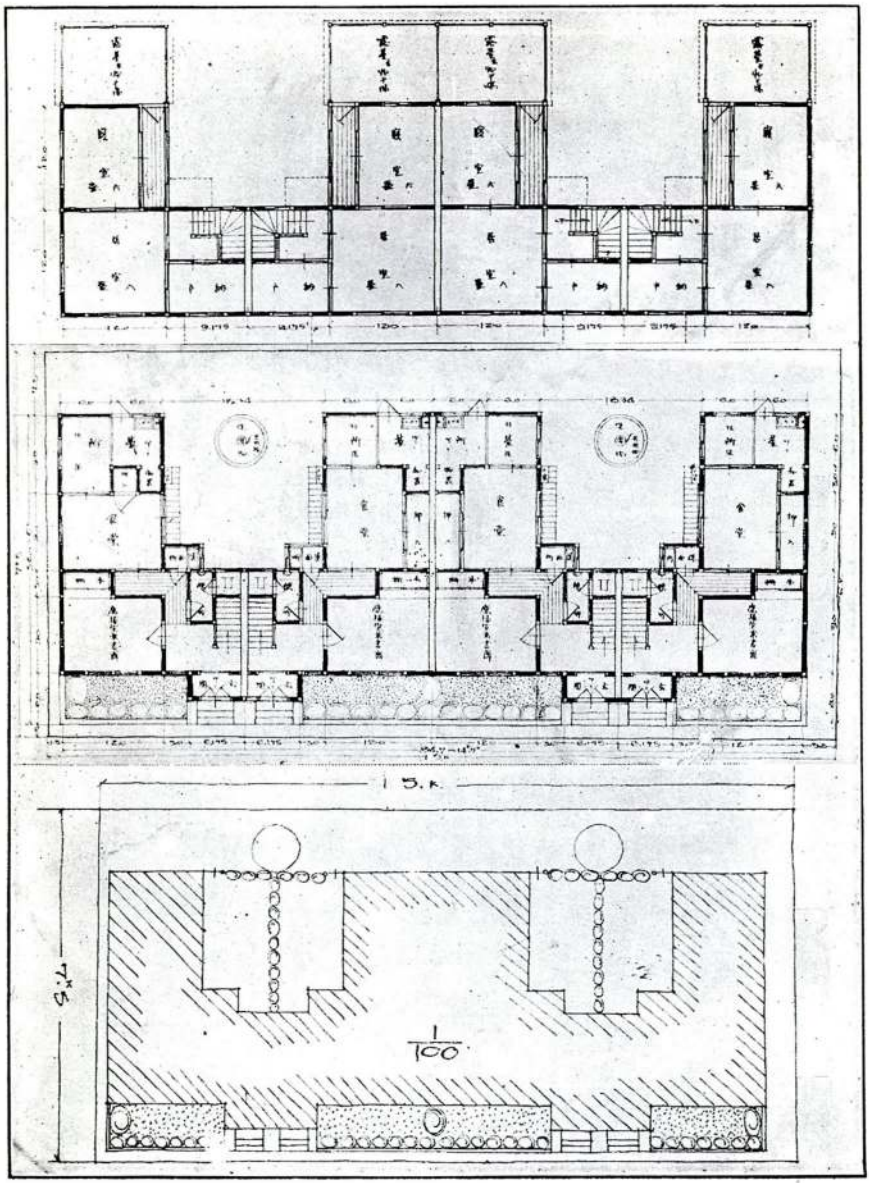

食堂
十九坪五合
便所
浴室
化粧室
配膳室
車寄
玄関
廊下
十一坪五合
応接室
客室
居間
十二坪
書斎
九坪
テレス

一階平面

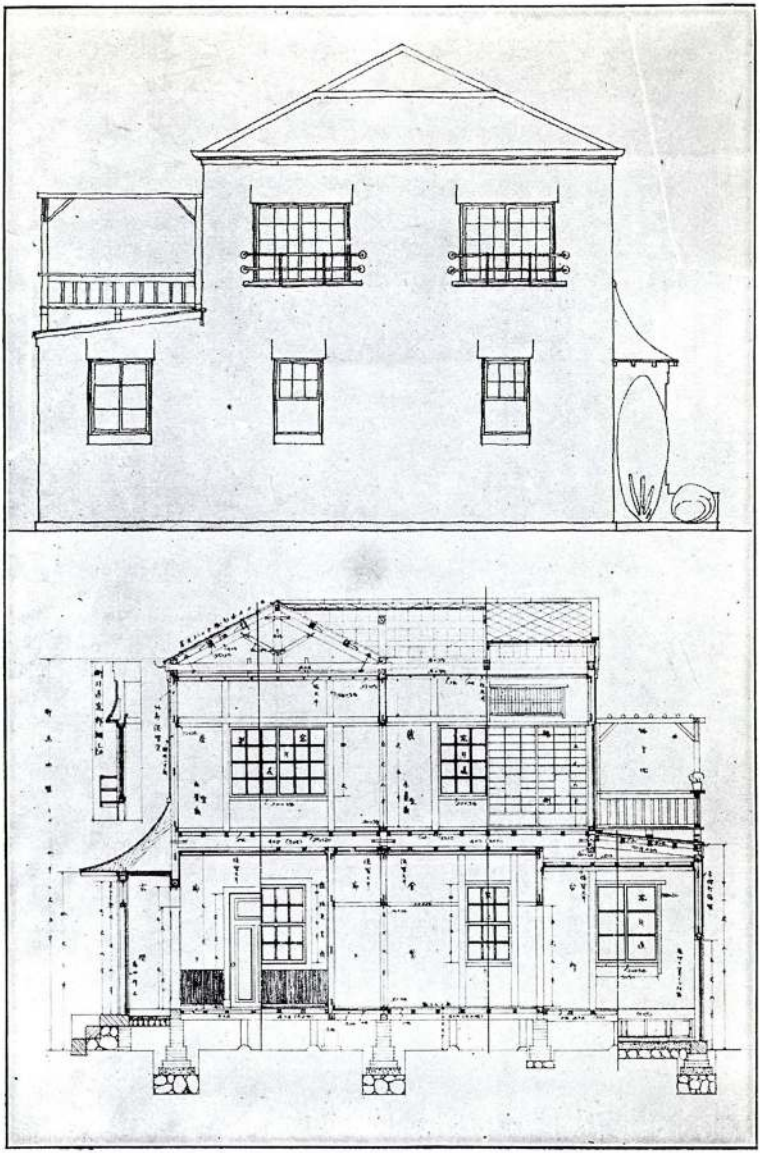
懸賞改良住宅設計外選第二席當選＝設計者　山岸政治君



其二



其三



◉電話番號變更

從來の電話番號土佐堀一九七三番(卓上直接)を左の通り變更致し直通相成候間御承知置被下度候

土佐堀四二九三番

◉會員の消息

當協會の會員(名譽賛助員、會員、普通賛助員、終身賛助員、特別賛助員)各位に關する御消息は本誌上にて成るべく精細に報告致度候間乍御手數御轉住、御轉職、慶吊に關する事項、其他御身上に關する萬般の事項を勿論御差支へなき限りに於て其都度御通知を得度特に御願申上置候

大正九年九月一日

日本建築協會主記

事務所設備費寄附收納

（第二回）

當協會新事務所設置に就て其設備費寄附續々御申込相受け候處其內既に御拂込被下候分左に掲載して篤く謝意相表し候と共に更めて領收の証と致候

（自大正九年七月二十九日
至大正九年八月廿五日正午）

大正九年九月一日

日本建築協會主計

河合　清殿　金參圓　　澁川彥衛殿　金拾圓
山本藤次郎殿　金五圓　　渡邊憲殿　金四圓
小林安太郎殿　金壹圓　　山崎孝麿殿　金壹圓
島熊平殿　金五圓　　田中勇殿　金拾圓
呼子正殿　金五圓　　田邊滿一殿　金參圓
武田經一殿　金拾圓　　藤野松九郎殿　金五圓

前回廣告に係る拂込額合計一千八百拾六圓累計一千八百七拾八圓外に電話使用權壹箇

追て前回廣告中左の通り訂正

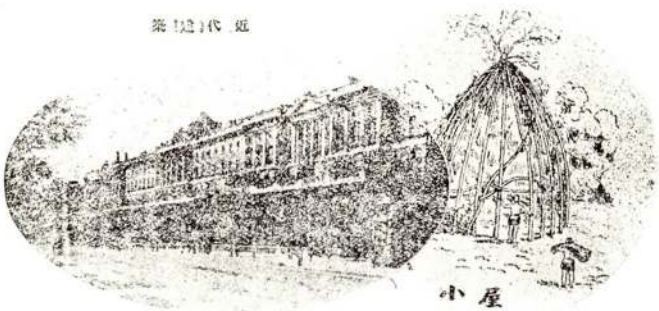
島田良馨殿は島田良馨殿、前田直正殿は前田武正殿、荒木茂夫殿は荒木義夫殿の誤植



建築と時代相

建築は各時代其ものゝ印刷機にしてその建設されたる社會狀態の歷史を寫出す

——モルガン——



原始建築



〔論　說〕

財界の混亂と都市建築（三）

會員　工學博士　片岡安

七

從來我國の建築工事施工に就ては、其方法の時代後れなるを批難されて來たことは事實であるけれども、實際その局に當りて施工を擔任せるものは、監督者側に於ても請負者側にありても、其批難に深く耳を傾けなかつたのである。否傾ける場合が數次あつたであらうが、其改善方法を深く研究する迄にそれを受取らなかつたのである。言葉を換へて言へば、從來建築工事關係者は其施工手段の改善を怠つて來たのである。而して、其怠慢の罪は、建築請負業者にあるか、或は設計監督の任にある技術家の負ふべきものなるか、或は又社會一般の程度が其範圍を越へしめなかつたのであるかは相當に研究を要するのである。或者は之を建築請負業者の怠慢と言ふ、而してそれは事實であるとも見得るけれども、我國

の現在に至る迄の建築請負業者の組織即ち其實力の程度にては、之を怠慢と言ふよりも不可能事であつたと見るを眞相と言はねばならぬ。近來有力なる請負業の覺醒著しきものあり、從來にては不可能事であつた其の怠慢の跡を一洗して大に改善の實を擧げ、一大發展を施工上の道程に打立てんとするの傾向を發見し得るに至つたは大に慶賀すべきことである。

建築技術家が何故に最近に至るまで施工上最新の技術を應用すべく努力しなかつたかは、大に追窮の必要がある。素より或る程度の改善や發達は之を見得るのであつて、近來に至りては十數年前の施工方法よりは其趣を一變したのは事實であるから、見樣によつては相當に努力したとも言はれるけれども、世界一般の著しき發達に比するときは駑馬式のものとして批難されても仕方がないのである。

施工方法の改善が甚だ後れて居た事の今一つの原因は、我國の社會狀態が如何にも暢ん氣にして、現代の科學應用旺盛の進運に並行せざりしことである。工業の種類によりては歐米各國のそれと全く並行して其發展を期しつゝありしものを多少數へ得るのであるが、それ等とても常に彼地の後塵を拜する程度に止まり、僅かに其存立の命脈を繋ぎつゝあつたことは此次の大戰亂後の世界的物資缺乏によりて十分に曝露されたのである。一般の金屬工業や化學工業が近來に至り其大部分已に其前途の存立さへも疑はれて來たのは、必ずしも我國の天然資源窮乏の結果のみでなく、其經營上科學應用の未だ十分ならざる部分が胎されて居るからであると見るを至當とする。即ち我國の社會狀態は今日まで如何なる事業又如何なる社會活動に於ても、其能率を十分に發揮すべき緊切なる手段を講ぜず、一般に現狀尊重主義を基礎とし唯部分的の小改善に甘んじて來たことは明白な事實である。建築施工の方法が改善されずに來たのも矢張り其の社會的缺陷の影響であると見得るのである。

以上述べた三方面の原因は相依りて牢乎たる現狀尊重主義と成り、今日の如き時代後れの建築施工法を存續して居るので、其何れかが緊張して其因襲から脫すべく努力したならば、或は適當なる解決の途を切り開いたであらふと思はれる。けれども、不幸なるかな、以上三方面とも平坦無事に其徑路を辿り來り現代文化の坂路を登るべく努力しなかつた爲に、今や吾人の位地は甚しく其水平上の高さを異にし全く時代後れの境遇に彷徨するの狀態に到達したことを悲まざるを得ない。

建築施工の改善は目下の急要なる事柄となつて來た、殊に財政沈衰の此の時期に於て其準備を整へ、從來の因襲に捉はれたる處の凡ゆる不利益な手段を一掃するを要する。その方法に就ては今此處に詳述するの餘白を有たぬけれども、其大要を摘記すれば、約そ左の數項となる。

一　生産業者殊に建築に關聯する各種産業と密接なる關係を保ち、需給の圓滿なる調節を圖り、

一　内地に於て製産不可能なる材料及製品の輸入を調節し、其供給の迅速にして豐富なるを期し、

一　各種の工事を通じ動力を利用して人力を省くべく、又精密機械の利用を盛ならしめて、精巧と迅速を圖ること。

以上は我建築界の現在に於て當然實行されて居る筈の事柄であるにも不拘、其實行の程度甚しく低く殆んど見るに足るものさへなく、人力の浪費、輸入の難澁、材料の不揃等、頻々として工事の進行を澁滯せしめ、工費を嵩めたのである。此等の現實の缺陷に鑑み、我建築請負業者の或者は近時其改善に對して大に奮勵すべく各種の調査研究を始めたのは、遲蒔ながら吾人の意を强ふするに足るのである。乍併その改善の實行は之を請負業者の側にのみ依頼して置くべきものではないので、社會もその努力を助け、設計監督者の側に於てもその助長に盡力せねばならぬのである。其助長の方法とは如何なることを

言ふのであるか、之を積極的に言へば、請負業者の資本的組織の增大を期し、有力なる人士の加入を誘ひ、又其施工上の合理的利便を講策すべく其材料、製品に對してあらゆる統一整理を圖るにある。其手段としては、前編に述べたる如く材料の品質形狀を統一し、製品の規格を單純ならしめ、製產上のカルテルを企つる等可成り廣汎なる方面に努力せねばならぬのである。而して此等の努力は實際に於ては廣き方面の可成り苦しき犧牲的行爲の連續法に俟たざれば其成果を得ざるのであるから、吾人は建築界に關係ある內外の人士に向つて、其連合的にして繼續的なる此の犧牲的精神の發露を期待して已まぬのである。

八

我國に於ける都市の狀態は、其實質に於て現代文化の最高地位を占むるまでにはまだ可成り遠き距離を見るのである。殊に其建築物の狀態に於て其甚しきを感ずる、而して其建築物が近來漸く其中古時代の舊套を脫し、現代文化の洗禮を受けんとして其改造の機運に到着したことは、吾人の欣幸に禁へないところであつた。然るに、突如として襲來せる此次の財界混亂が、一般の投機的事業と共に、此の文化生活向上に緊急缺くべからざる建築物改造の機運をも或程度迄之を阻止するに立至つたことは、遺憾此上もなきことである。乍併幸か不幸か我國の建築界に於ては、其機運と並行して之が改造の大目的を遂行するには其欠陷の餘りに多きものが存在して、其大部分は未だ剪刈されずに其儘になつて居たのである。吾人は此機會に於て其欠陷を充實するとの禍を轉じて福をなすものではないかと思ふのである。

如何なる事業に於ても因襲は常に底滯するの傾向を生ずるものであるが、建築物築造の場合は殊更に

其傾向の著しきものあるは否み難き事實である。斯の傾向から見ても我建築界に缺陷の滯積するは當然であつて敢て怪むに足らぬのであるけれども、近來其弊害が社會經濟の發展に少からぬ損害を與へ、文化生活の向上に支障さへも生ずるの虞あるを見ては、吾人は其一大改善の畫策を樹立して、着々其成果を擧ぐる爲めに努力せねばならぬのである。都市計畫運動に次いで市街地築物法の成立等は其根本にして、改良住宅の懸案、田園都市生活の可否等何れも我建築界が社會的に努力すべき大事業の一である。けれども其内容的に努力すべき事業にして未だ其門にさへも入らざるもの〻多くが存在し、何れも我建築界の缺陷として指摘さる〻に値するのである。而して此等の缺陷を充實すべく畫策することは緊急の事柄でありながら、近頃まで未だ十分各方面の諒解を得るに至らなかつたのであるが、此次の財界混亂の機會に於て其欠陷充實を計畫することは最も策の得たるものではないかと思はれる。財界混亂に際し堅實なる建築請負業その他關係者が不意に傍杖を受けたる不幸の時に際し、建築界の棚下ろしをなして其改善を望むは餘りに無情の行爲とも見られるけれども、吾人は斯かる好適の時機は再び到着するものではなく、むしろ我建築界に取りては最も幸福なる機會を與へたるものと思ふのである。而して此處には其調査研究及び其プロパガンダの方法に就ては之を省略し、唯此の時機の重大緊喫なるを唱ふるに過ぎないのである。（完）

市民の健康に及ぼす住宅難の影響（下）

京都帝國大學
醫科大學教授　戸田正三

過住家屋建築の衛生的要項の缺如＝本邦氣候の特色を殺す過住家屋＝新陳代謝機能と寢室の關係

今亦進むで之等過密家屋中の過住家屋を見るに建築の衛生的要項例へば乾燥、防暑、保溫、換氣採光の如きは漸次蔑にせられ、剩へ其裏々には、屋上高きに至るまで黑板塀を繞らし、家人の肺臟に相當すべき狹隘なる裏庭には、汚物滯積して、自淨作用の暇なく、排水設備の不完全なるが爲に縱令盛夏の候と雖も尙乾燥するの隙なく、家屋の床下は之に準じて甚しく濕潤し、有機物に富める濕潤生強き壁は此の濕地に直接し、室壁が絕へず汚染濕潤せるは勿論、家人の所要空氣は絕へず之等の濕地並に床下を介して換氣せらるゝが故に、相前後して室內空氣が多量の濕氣を含有するは必然なり。

由來本邦氣候の特色とも見做す可きものは、第一其の濕度の高きにあり。第二に、夏の高濕と天氣の急變し易きに在り。之等に對する順應策として、本邦家屋は「プリミチーヴ」ながらも獨特な文明的發達を來せるものなるが、之等の衛生上良好なる設備方法の如きも、彼の過密、過住家屋に於ては漸次消却せられつゝあり、中にも彼等の寢室は其の最も下等なる部分に配置せらるゝのが常である。

吾人は、吾人日々の勞を憩め、日々の活動力を養成する爲めに、日々一定時間の安靜を要す。換言すれば、一定時間內吾人の新陳代謝機能を安靜に行はしめて、體力の余裕を養成せざるべからざるものである。而して此の重要作用は吾人の寢室內に於て行はるゝを常とする、然るに今若し吾人

の寢室が上述の如き場處に不衛生なる設備法を以て供給せられむ歟、爲めに吾人の外呼吸並に皮膚呼吸作用は漸次障害せられ、新陳代謝機能は降下して眞の安靜を求むるに難く、之を持續すれば終に生活能力に對する余祐少なき容易に虛脫し易き體質と化するは當然である。

蜂窩的家屋の建築と殺人行爲の公許 ＝貧民窟の生活機能の自然的補足＝ 憐むべし下級官吏及び吏員＝家屋は家族の衣服なり

之等の人々は、既に罹病若しくは發病要約の成立せる者にして、斯る室内に日夜常在する者の罹病並に死亡率高きは毫も疑を容るゝことが出來ないのである。實に一八九九年伯林市開催結核學會の席上に於て、ルブネル氏が結核の罹病率は家屋内の滯在率に正比例すと云へるも、將に斯る家屋の凡てに適合すべきである。

更に甚だしきは、大都市の一部分たる新市街中の貧民窟である。住宅困難に連れて蜂の巢の如き家屋までも建設せられつゝあり、斯くの如きは實に穽を形成するの類にして、當局者として斯る建築を許可するは、公然殺人を許可すると何等選ぶ處なきの感がある、予は文明國の都市に有り得べからざる恥辱であると思はざるを得ない。併し乍ら、幸か、不幸か、所謂貧民又は勞働者階級の者の常として、彼等在住者の大多數は、甚しき雨天と深夜とを除くの外は、屋外生活を主とし、又體裁を意に介せざるが故に、夏時は殆むど開放的にして、爲めに尙ほ克く彼等自身の生活機能を自然の間に滿足調節しつゝあるなり。憐むべきは下級官吏及び吏員にして、斯る屋内の生活を餘儀なくせられ、尙且つ相當の體面を保たざるべからざる者就中其の家族である。

實に、家屋は家族の衣服であり、家屋あつて溫味ある家族的生活も營まれ、恩愛敬慕の情も生ずるのである。延いては、社會道德的觀念の根底も亦養成せらるべき場處である。而も、上述の如き家屋すら求むるに難き此の間に乘じて、不健康家屋のみが續築せられんとしつゝあるの勢である。

女工宿舍の蜂窩以下なる寢屋＝機械的文明の余弊＝自然の恩惠を無視する纖維工場＝外界に對する適應能力と寢室＝女工と結核病＝何よりも先づ住宅改造が問題＝之は外政よりも遙に怖るべき問題也

今亦飜て女工宿舍の類を觀察せんか、體裁に過ぎざる應接室の如きには比較的善美を盡くせるに拘はらず、彼女等の「ポテンシャル・エヂルギー」を養成するに最も必要なる寢室は、其の所要立積の狹小なること彼の蜂の巢以下なる場合多し。例へば、彼女等の多數は、十六疊乃至二十疊内外の室に十五人乃至二十人迄も收容せられ、一人に對する立積四乃至五立方米突に過ぎないのである。斯くの如きは、奈何に吾人が其他の設備を完全にするも尙且つ溫度と濕度並に爾他の室内空氣成分の關係に於て、夜間八時間乃至十時間に要する所要換氣作用を營維せしむることは困難である。況んや、冬期に何等見る可き暖房設備なきは云ふ迄もなく、從て亦斯る室内にも火鉢を要求するは當然であり、夏季には溫熱の鬱積を來すことも甚だ容易であつて、吾人が先人の報告に見る諸種の方法に基く換氣量の如きに比して到底問題にならぬ程度のものと見做して差支ひないのである。

斯る間に起臥して、彼女等が、溫度と濕度との共に高き纖維工場内に終日、甚しきは若年の身を以て徹夜勞役に服せざるべからざるに於ては、是れ洵に器械的文明の余弊が歷然として顯はれたるものにして、彼女等の多數が數年ならずして虛脫に陷るも亦當然の事柄である。

纖維工場内の溫度と濕度との共に高きは、恰も熱帶の氣候と擇ぶ處なく、而も熱帶に於ては、日々凉風と降雨とに依りて、吾人の新陳代謝機能が尙ほよく調節せられつゝあるも、之等の工場に於ては、斯くの如き自然の恩惠が無視せられてゐるは勿論、加ふるに、塵埃と過勞とを以てしつゝあるのである。併し乍ら、之等の點は、一面職業其ものの性質として或程度迄は止むを得ざるものと解せざるべからず。唯だ予が今日此處に於て反復云はんとする處は其寢室にあるのである。彼女等の寢室にして日々の疲勞を回復するに見るべき狀態に在らんか、外界に對する適應能力の飽くまで

發達し居れる人類に在りては、勞働作業の慣習と共に左のみ大なる障害を來し難いものである。更に之等の大工場に見る可き通弊よりも數等甚しきは、十人以内の少女を使役する家内工業の一部である。

奈何に彼等勞働者が農家に生れ、幼時より清風を友として練磨せられたる強健の者共と雖も、僅か二、三年乃至は四、五年の年期に滿ちずして肺結核患者と化し、飯郷を余儀なくせらるゝも亦た理の當然である。實に、予が郷里に於ける村落の如きは其適例を示せるものにして、更に予が引續き各地の村落に於ける青年男女の急性結核傳播の徑路を調査する毎に認むる常例である。同時に讀者諸彦の亦認められたる事實であると思ふ。

之を要するに、之等をも尚ほ國法を以て取締るに躊躇せざるべからざるに於ては勞働問題を論ずるも何の効果かあらん、刑法の不公平を論じ、國家社會の改造を要求するの人士續出するも亦た所以なきにあらざるの感あり。微々たる都市計畫法の如き今漸く生れたりとは云へ、大勢の落魄と市民の不注意とは其速度彼れに增し、漸次國民の健康を障害せしめつゝあるものと思はざるを得ないのである。之等の關係は、亦輓近に於ける本邦の統計に徵して明白である。（數字省略）

之と同時に、之等必要物の供給は量に於ても亦其の需要に伴はず、住むに家なきの有樣は、本邦を代表せる都市の一部に於ける現狀である。彼等の腦裡に旅の恥はかき捨て的の思想が益々養成せられんとしつゝあるも、蓋し止むを得ざるが如く斯くの如くしの釀成せられつゝある內的不安即ち生理的要素の缺陷に伴ふて知らず識らずの間に釀成せられつゝある國民の健康障害、又之れと關聯すべき國民思想上の弊害、廣義に云へば、不健康なる社會の狀況は、外敵よりも遙かに怖るべきものなる事を憶はねばならぬ。（畢）

月夜にはあらねうすらに明りゐて
秋めける空にならぶ木の數

都市計畫の基礎的問題

═先づ道路の改善と建築物═

東京市會議員
都市計畫委員　辯護士　尾中勝也

都市計畫の必要にして重大なる事は、今更申す迄も無い處であつて、各都市競つて此問題に熱心しつゝあるは、やがて來るべき大都市出現の前提として、甚だ喜ばねばならぬ次第である。しかし茲で考へて見ねばならぬ、われ〳〵は常に自己の都市の爲めに各種の計畫を樹てゝはゐるが、果してその根本問題、云ひ換へれば計畫の基礎を、確かに定めてゐるかといふこと、即ち腹が確に出來てゐるかといふ事である。私は殘念ながら、他の都市は知らず少なくも東京だけは、どうも此根本問題がはつきりしてゐないと申さざるを得ないのを遺感とする。根本が定つてゐずして、その上に何が組織樹てられるか、頗る危なつかしいものであることは、何人も想像に難くはないのである。

先づ、

×道路問題は如何てあるか

大阪に於ては既に二十間乃至二十四間幅に基礎を置いてどし〳〵やつてゐる由であるのに東京は如何かといふに日本橋銀座つづきの金杉町から品川八つ山に到る本道筋を十年前に九間巾にしたのを今度は十五間に仕度いと云つて騒いでゐる、其上此問題が出るとまた色々な請願があつて却々計畫の實施が出來ないやうな狀態だが、一体が僅かに六間を增すのである、この六間許り增して行く事、約り小刻みに增して行く事は私としては頗る贊成の出來ない事で、また十年も經つか經たぬに同じやうな運命が繰返されて、何度も何度も計畫の樹て換をせねばならぬし、またそれに從つて、幾度も幾度も道路並びの商店へ立退きだなんだで

餘計な金を掛けねばならぬ。こんな其日暮しの遣り方は、殆んど都市計畫でも何んでも無く、私に云はせると、もう五間削ると私の家が入らない、もう三間減すると私の邸が立退かなくとも宜しいといふやうな、其計畫内の人達の影からの運動が常に効を奏して、こんなお恥しい今日主義になつて行くのであるとより思はれない。即ちこれが徹底した都市計畫の意見が無い根本問題が定つてゐぬと云ふ證據である。少くとも都市計畫は、大都市永遠の計畫であるべき以上、これ以上如何に都會が發展しても、この道路この建物で少しも差支なし。人口の增加よし、繁榮よしで、百年後の都市、二百年後の都市を待つべき充分の施設をするこそ肝要で、其日のがれの方策などは、何等計畫と稱すべきものではないのではあるまいか。

× 道路の廣さの標準は如何

しかし道路は廣ければ良いといふそれだけでは足りない、無暗に廣くしたとてそれはまた無用な事で、

一、人と道路の關係、
二、建築物と道路の關係、
三、交通機關と道路との關係、

などを充分に調査の上で、道路の廣さに標準を置かねばならぬのである。

紐育及び倫敦は確か人口一千萬人迄を包容すべき計畫を樹てゝゐるが、東京は三百萬人を標準としてゐる、此點だけでも紐育倫敦の總て三分の一位の經費で計畫を立ねばならぬ譯である。

建築物に對する標準といふものは從來少しも考へられないやうであるが、道路幅の打算なども、本來これを基礎として割出さねばならぬ大切なものであらふと思ふ、伯林などは地上五階と嚴制があるそうで、從つて其建物が打ち並ぶとして、太陽光の直射線を考へ、一日中必ず一度はその全部に日が當るやうにせねばならぬ。仮りに、莫迦に高い建物だけが並んでその反射に道路が巾狹い物であつたならば、その道路は一日中日の目を見ずに終らねばならぬ、そうなつては單に衛生上から許りで無しに、面白からぬ結果を見ねばならぬ事

と成るのである。

交通機關との關係の重大なる事は勿論で、汽車電車の率は歐米都市に比して約三分の一に進んでゐる、しかし自動車は紐育など人口十人に就き一臺の割合で走つてゐるといふが、今の處我國などは十八處か百人に一臺でもないが、汽車電車同樣外國の三分一に進むとしても、十萬臺以上の自動車が走つてゐる事になる。然うなつた時に、この現在の廿間や廿五間の道路計畫で果して間に合ふであらふか。

巴里の凱旋通りは六十間幅の道路が八本も通じてゐて、如何に人數が混雜しても、蟻が匍ふ程でも無いそうであるが、これを見ても、ナポレオン一世の偉大さが偲ばれる位で、如何にも六十間幅の道路が八本もあつたならば永久に計畫の仕通しや擴張やをしなくとも宜しい譯である。

勿論我國に於て、こんな眞似は出來ない相談に相違ないが、元來が小膽で小刻みな方策許り樹てるから結果は常に遣り直し蒔き直しといふやうな事に許りなるのである。明治二十三年に上野廣小路を二十間幅の道路にしたが、當時はまだ草が生ねてゐたといふ、そして廣くて廣くて仕方がないといふので各方面の叱言が出たがそれが今では、廣い處か狹くて狹くて、一時も早く、少なくとも十間位は廣げないと、安心して歩るかれない位である、實に想像以上に發展したものであるから、やがて自動車が十萬臺に上るのも、決して遠い將來ではないのである。

× 金無してなく人無してある

ナポレオンは百年以前に彼の六十間八本道路をやつた、今にしてあれが廿間や卅間のものであつたならば如何であつたか。私は我國に於て必ずしもこんな大規模なものは要求出來まいとは思ふものゝ、も少し何んとか纏つた計畫が立てられぬものかと思ふと、自らその不甲斐無さに涙がこぼれる位である。

內務省の稍大きな原案で例へば東京でも幹線五十間乃至六十間案が出て、これならと思つてゐる中に、やがて計畫委員や何にかの論題に上つてゐ

る中に何時の間にかそれが三十間となり廿五間となつて仕舞ふ、今造つて置けば、すべての點に於て利益なる事は皆んなでよく知つてゐる、知つてゐながら尚ほ段々に切り減らして行くのだから堪らない。

今のやうな建物の時代ならば良いが、これが五階六階の建物が軒を並べるやうな時になつての計畫は、すでにその費用許りでも容易なものではないのである、目下坪三百圓替の損害で濟んでも其時代には千圓千五百圓を必要とするやうになる、計畫を行ふならば實に今なのである。然るに殆んど捉へ處のない一寸逃れのやり方は私としては實に合點の行かぬ事なのである。

少し思ひ切つた計畫を問題にすると、市の當局者などは直ぐに豫算が無いとか金の出所が無いとか云つて弱音を吹いて仕舞ふが、之れ等もまた要するに愚な話で、金は工夫のしやうで如何にでも出來ねばならぬものである。公債を募集するとかまだそれよりも良い方法は富豪の別莊稅とか、蓄妾稅とかを取り立てるとか、方法は幾何もあると思ふ、多くの富豪は、自己と金を愛する外、自己の住むべき都、自己の住むべき土地を愛する事を知らぬ、こう云ふ人達から金を出させて大都市を建設して行くのは一方ではその金で緣をつないでやがて愛市觀念を生せしむる點に於ても、頗る必要なことなのである。

斯ういつて來ると、煎じ詰めた結論が、都市計畫が甘く樹たず甘く實行されぬのは要するにそれ相當の人物無しといふ事になるやうである。然り立案者に人無し、常議員に人無し、市會議員に人無し、六大都市中一番成つてゐないのは、先づ第一が東京市である。

× 道路へ米を植えたらと

ある外國人が東京の道路を見ての感想に『日本はもう開け切りて終つて田も畑も無いなどゝ云つてゐるがそれは嘘で、道路は皆んな田であつて充分に米が取れる、あんな事をして人間を歩るかせて居るより米を植ゑたら如何なんだらふ』と云つてゐたが、御尤なことだと感心した。またある人

が頻りに道路問題を論じてゐると或る皮肉屋が『君は我國の道路などを論ずるの資格はない』といふので『如何してだ』と反問したら『我國の道路を論ずる資格ある者は郵船社長近藤廉平男一人さ何故なれば道路は陸路にあらずして既に海路だからな』と云つて哄笑したそうだ、これもまた御尤な話である。田であり、水路であり、みゝずの道であるのも、また都市計畫の根本が定らぬからその飛つ尻を喰つてゐるので、計畫の實行と共にこれなどは實に輕々しく片附いて行く問題である道路問題はさて措いて、その次に當然來るべきは建築物だが、元來日本の都會は、都會的訓練を經てゐないもので、遂い近來迄日本橋の河岸の處に葺家根の漁師の家があつて、千葉邊りの漁師が住んでゐたといふ話だが、ほんの村落から出て來た人達が、ぽつり〳〵と寄り集つて次第に出來て行つた都會だから、建築物も、その多くは風流とか風雅とかいふ調子を帶びてゐるが、要するに別莊風で、都會の建物、住宅としては甚だ不適當であるが、目下は即ちこの破壞時代だから、是はやがて純都會風になつて行くであらふ。

しかしそれに就ても只從來の如く、横にばかりだだつ廣くなつて行つても仕方ないもので、少なくとも大東京の建設、都市永遠の計畫としては、郊外へ郊外へといふやうな主義は感心出來ないのである。勿論、計畫に於て住宅地、工業地、商業地と區別するが如きは全く別箇の問題だが、限りある土地に建設せらるゝ都市である、今でさへ東京の如く住宅地範圍の廣い處は人口に比して他に少ないのであるから、此上の横廣がりは先づ出來ないと見ねばならぬ。

茲に於てか即ち上に發展し、下に發展するの道を考へねばならぬのである。都市は金魚池の如く徒らに淺く廣かるべきを必要としないから、先づ建築物を五階とか六階とかの高さに一定し、地下室も造らしめ、耐火設備を完全にして大いに上下文明を鼓吹しなくては、我々は永久に住宅拂底に惱み、自ら求めて自から苦しまねばならぬやうな事になるのである。

要するに都市計畫中の主要科目たる道路と建築物とは互に相寄り相關するものであつて、道路は建築の高さに正比例し、建築は豫定人口の數に比して定めるといふやうな事になるのである。

——談。文責在記者——

道路の改善と木煉瓦

林學博士　志賀泰山

一

都市計畫の中に於て、最も緊要にして且つ重大に、殆んど計畫其物の根本ともいふべきは、今更申す迄も無く道路問題であります。一体我國の交通機關で一番發達を遂げてゐるのは鐵道でありますが、これは海岸から直ちに山脈に連らなるといふやうな地勢の關係から、必然的に來た結果でありまして、從つて道路の大部分は此鐵道によつて占められて居るのであります。

鐵道の發達は素より結構でありますが、これは一方に於て、我國の道路の不完全を物語る次第でありまして、鐵道は如何にも遠距離の場所へ荷物を送り人を運ぶに宜しいには相違ありませんが、近い處では却つて非常に不利益でもあり困ることもあります、故に鐵道のみが發達しても道路が完全でなければ決して安心しては居られないのであります。

道路が確りしておれば、遠い處は鐵道に托しても近い處はどん〳〵馬車なり自動車なり、其他文明に伴ふ適當な機關を利用しては、最も迅速に完全に用件を達する事が出來ます。一方には鐵道が追々發達し、一方には斯うして道路が立派になれば町から町、市から市への交通は兩々相俟つて少しの不便も無く思ふやうに出來るやうになるのであります。

二

道路は地上の所謂脈管でありまして、從つてこの脈管を完全に清潔に充分にして置かなくては、決して健全を保つ事も出來ず、また將來の發展も望む事は出來ません。故に國中の何處に於ても此

道路の完成には全力を擧げねばなりませんが、就中都市――殊に東京などは一日もぼんやりして居られない問題であります、東京の道路は雨が降れば田となり、晴天になれば砂漠となり、不愉快不健康は申迄もなく、寧しろ昨今では危險を伴ふといつても過言ではあるまいと思ひます、この事はどなたでもお認めに成ると信じます。

抑々東京のやうに、都市の眞中の道路を造るのに砂利を埋めて行くなんてのは思ひ切つて亂暴な話でこれからが甚しい間違ひです。或車夫が『俺達は市へ稅金なんか納めるのは馬鹿らしい、毎日〳〵市で撒き散らした砂利の上を車で以て地均らしをして歩るいてゐるのだから、納める處か人夫賃を貰ふ方が當然だ』と云つて居ました、現狀では、この言葉もまた無理ではないかも知れませんしかし東京市も色々骨折りで愈々理想的な道路改良案も決定したといふことで、これは寔に結構な事と思ひます。

三

東京市の改良案を拜見しますと、市の道路面積は百二十六萬六千坪で其中の百萬坪許りを七年計畫で費用五千百萬圓を投じて改良されるとの事でしかも其道路の種類として、主に西洋風の石とし其外に木、アスハルト、コンクリート、マガダムなど五種と定めてあります。先づ結構でありますが、此處で私が申上たいのは即ち此五種の道路の中で、どれが一番理想的であるか、どれが一番結構であるか、それを研究して見たいのであります

元來、理想的な道路にはどんな條件が必要であるか、それからが先決問題でありませう。

1、運搬は勿論歩行にも容易であること
2、摩擦が激しくないこと
3、暑さ寒さの影響を受けてもその變化の少ないこと
4、出來るだけ重力壓力に堪ゐること
5、衛生的であること、從つて絶ねず清潔を保ち得ること
6、見榮えのよきこと
7、作成は勿論修繕其他にも成るべく費用のか

ゝらぬこと
8、一年でも長く完全に保ち得ること
9、修繕に容易なること
10、歩行の際には何んとなく足觸りの宜しきこと

此外にも色々ありますが、大体は以上のやうなものでありまして、この條件から餘りに距離ある道路は當然不適當であると見ねばならぬかと存じます。

四

で、第一に石の道路は如何でありませう、石は見たいけでも堅固でありますし、一寸素人には何を措いても第一としたいものでありましてヨーロッパには最も早くから各都市にも用ひられて居ります、勿論保存上には他の物に較べて優れて居り殊に日本のやうに平面板のやうなのよりは稍立柱形――即ち厚さのあるのが一層に結構ですが、石は實にこの特長より以上に多くの缺點を持つて居るのであります。

それには色々ありますが、先づ
1、石其物の費用が高いこと
2、石職工の手間賃が非常に高いものであり且つ長い日數を要すること
3、從つて修繕其他にも意外の費用が要ること
4、物と摺れる時に惡るい音響がすること
5、車及び歩行の感じが良くないこと
6、暑中には馬鹿に暑く寒中にはそれと反對に馬鹿に寒い、即ち寒暑の影響を甚しく受けること
7、重力壓力負擔力の思つたより弱いこと

などで、寒暑の影響を受け易すいことは木の三倍負擔力の弱いことは木のぶなや檜などが一平方センチに八十キロは大丈夫なのに、石は五十キロが面倒といふことになつて居るのであります。

五

次はアスハルトやコンクリートでありますが、これは價格に於ては、如何にも他の何れのものよりも廉いに相違ありませんけれ共、尚ほ多くの缺

點を有つ上に、夏季になると、どうもねばつこくなつて甚だ心地が惡るく、反對に冬になるとまたかん〳〵して感じが惡るい、その上に修繕が却々容易でありませんし、堪久力が甚だ短かくて、結局初めに廉い價格もこれ等の缺點から來る損害を加算すると、安いどころでは無くなつて終ふのであります。

然らば殘る問題は木でありますが、これは道路として果して如何でありませうか、私はこれから此木に就ての明治十八年以來幾多の實見を經たる研究を申上やうと思ひます。要するに私の所說は木が道路として一番完全である。即ち敷木道路が第一の理想だといふ事を申上げて此証明をするのでありますが、一体木が道路としてどういふ風に良いのであるか。

1、負擔力が驚く程強い、石やコンクリートでは到底も乘せきれぬものを平氣でのせて、びくともしない

2、寒暑の影響を受けることが少ない、石に較べて三倍の力のあることは前に述べた

3、車は勿論歩行をしても足觸りが甚だ宜しい

4、衛生的である

5、摩擦其他妙な音響がしない

6、適當なる使用法さへすれば保存は殆んど永久的である

7、修繕が頗る容易で、これは優れたる特徴の中では第一特徴だ

8、價格は勿論廉い

9、我國ののやうな山林國に於てはその量が豐富だから將來に對する心配が無い

六

以上のやうに木の道路は寔に宜しいのでありますが、只、木と云つた許りでは不可ません、木でさへあれば何んでも宜しい、どんな方法でやつても宜しいといふ譯には行きませぬ、木は木でも道路に使用すべきものとしては相當の條件を必要とする事は勿論であります。

1、木質の堅いもの、年輪の細かいものでなくては不可ない

2、摩滅しやすいものは不可ない
3、割れたり裂けたり曲つたりする狂ひの來るものはいけない
4、膨脹したり縮萎したりするものは不可ないといふやふなことで、これで見ると殆んど大概の木は不適當といふやうなことになりますが、それは總て人工を加へることによつて、また大概の種類は完全に成るのであります。

木の缺點ともいふべきは寒暑には何んでもないが、乾濕には大層感じやすいもので、從つて長さには決して變化はないが、曲つたり裂けたり多少の容積を變ずるやうなことになりますが、これは防腐劑を完全に使用しさへすれば決して心配のなくなることなのであります、即ち防腐劑の使用如何によつて木の自然より來る變化は無くなつて絶對に安全なりと云つて宜しいのであります。

七

木には素よう堅いものも軟かいものもあるが、化學上から見れば何れも性質に於て變りは無く、燃やして灰となる部分のみが無機物で、後は何れも有機物だから、これに完全なる化學作用を施して夫れ相應の處置を取れば、堅きも軟かきも結局に於ては同一と成るのであります。

木の使用に就て、一番に心に懸り且つ困ることは、腐るといふ事、虫が附くといふ事でありますが、これは木の重量の半分は水質で、これの窒素含有物が腐るのでありますから、これをさへ變質若しくは除去すれば、虫が附くとか腐るとかいふ心配は全然無く成るのであります、即ち樹液を除去して其部分へ防腐劑を注入してさへ置けば最早や何人の心配も不必要であります。或は防腐劑を煮込んで自から樹液と交替せしめるのも一の方法でありませう、或は眞空方法其他方法は澤山にあります。

木の種類に依り樹液の量が色々で、從つて防腐劑も澤山に要るのもあり、極く少量より要らぬのもありますが、要るものには要るだけ要れ、要らぬものには成るべく強い劑を與へて置くやうにせねばなりません。

八

御承知の如く我國は國の四分の三が山でありますから、樹種に富む事は世界第一でありまして、成長率も非常に早いのですから、我國の如き木材を利用せぬのは自然に戻る事でありまして、前述のやうな方法により、如何なる木でも、道路に使用し得るのではありますけれども、其中でも防腐劑が最もよく入り、從つて適材とすべきは、針葉樹では、赤松、黑松、落葉松、檜などで、檜は積の六割の藥が要り、落葉松でも三割は要ります、濶葉樹では、ぶな、しな、とねりこ、楓、いねばり、榊、楠などで、殊に赤榊などは積の五割の藥が要ります、此外にも尙ほ使用すべき種類が多數に要ります。

さて木で造る道路即ち木道のお話に戻りますがこれは東京よりは大阪の方が餘程進歩して居りましてコンクリート土臺の上へ木を並べてその種類としては松やぶなが多いやうであります。木は丁度煉瓦のやうな型に造るので或は木煉瓦などゝ云つてゐる人もありますが、木煉瓦といふのは、鉋屑を練り固め更らにそれを煉瓦風に壓搾して造つたもので、外國の貧しい村などで使用して居りますものゝ名稱で、私はそんな安つぽい物と同一の名稱を附するに忍びませんので、日本のは道敷木又は單に敷木と申して居ります。

九

此敷木は大阪のは巾四寸高さ四寸長さ六寸ですが、東京で現に一部に使用したものや、今後の計畫も三寸三寸の五寸といふ小形であります。外國では隨分早くからこれを使用して主として赤松やぶなが多いやうです。

敷木の最も大切な部分は長さや巾よりも高さの如何ですが大低外國では三寸五分以下のは無いやうです、高ければ高い程結果が宜しいやうで、日本でも針葉樹は如何にしても三寸五分以上無くては良い結果を得られまいと考へます。

敷木の道、約り木道は外國でも然樣であるが、日本でも其成績は頗る惡く、今から九年前に東京

の本郷大學通りに模範道路を作りましたが、近頃見ると隨分酷くなつてゐて腐つてゐる、でこぼこしてゐる慘憺たる有樣です。木は松とぶなを主としてゐるのですが、僅か九年許りでこんな事になつたのは要するに造り方が悪いので、決して木道其物の本來の缺點ではありません。松の年輪に對する注意も缺げてゐますし、ぶなは普通でやつたんでは、木の中でも腐りやすい方なのですから堪りません。私はぶなに防腐劑を注入することに就て長い事研究してゐましたが、却々厄介な品物で病的の眞があり、少しすると白腐れとなつて、藥など容易な事では入りません、これを木道に使用するとせば、この防腐の關係と、木取りの關係を充分に注意しなくては、忽ちの間に、ぼこ〳〵の道路に成つて終ひます。しかし、其儘使つては三年も面倒ですが、防腐さへ完全に行届けば五十年でも六十年でも大丈夫であることを保証致しますぶなは生鰯と同樣で非常に取扱ひの面倒な品ですが、扱ひやうによつては云ふに云はれぬ妙味のある木質であるのであります。

一〇

我國で現在敷木の防腐劑にはクレオソート許りを使用し、是も木材一立方尺に三舛としてゐますが、こんな事では仕方ありません、まだ澤山に注入せねばならぬのです、ぶなども入れやうによつて四升五合から五升程も入りますが、云迄も無く、入るだけ入れ、入れるだけ良い結果を得られることゝなるのであります。

處がまたクレオソートだから宜しいといふので何んでもかんでも注込んだのでは仕方ありません矢張り一定の効力ある處方を有つたものでなくては、何んの役にも立たぬのであります。從來專門家でさへ多くの失敗の歷史を殘したのは、只三升の注入といふこと許り考へて、その三升の内容に化學的注意を拂はなかつた事で、今後は此邊に充分の研究が必要であらふと存じます。

私は明治卅二年から、總ての道路を敷木で埋める事を目的として、明治卅六年には先づ試驗的に大阪勸業博覽會で此木道を造りましたが、當時の

ぶなの防腐敷木を只今では目黒の工業試驗所前の道路にしてありますが、まだ/\ともしません。

このぶなは日本の山林は殆んどぶなで出來てゐると云つても良い位に豊富で從つて其材料としても理想的でよく、價格もまた從つて廉く、それで私も博覽會で實見した次第ですけれど、只注意をしねばならぬのは、同じ處に色々な樹種を使用せぬ事で、これをやると必然其木道はでこぼこに成ります、木にも各々壽命ありですからこれは當然の事であります。

一二

木道の成蹟はヨーロッパに於ても一体に惡るいと云ふものゝ、それでも尙ほ且つ十五年以下の壽命の處は無く、多くは二十年乃至二十五年となつて居ります。英國などでは餘程早くから木材防腐を考へてゐたらしいのですが未だに甘く行かぬ樣子で此點では木材國たる我國が却つて自慢すべき程度の研究を積んで居ると申しても宜しいと思ひます。

私は曾つて明治四年に英國から輸入した枕木を丁度廿三年目に大森で國澤新兵衛氏と共に發見して調査して見ましたが、防腐なども半分位より藥は入つてゐなかつたが、まだ/\完なものでしたこんな次第で、防腐をした木材の狀況は事實が悉く証明して居るのでありますから、私は此等の事實を以て、東京の改良案に依る道路は總て木道即ち敷木を使用すべきものだらふと信じます。一箇年拾四萬圓五千坪を改良するのですが、今假りに此全部を敷木にするとしたならばどんな結果に成りませうか——三寸五寸の敷木は坪に二百四十箇、四寸六寸の大阪型で百五十箇入用ですから、東京は年に三百六十萬箇、此石數十六萬二千石で四分止りと見先づ四十一萬石の立木が必要と云ふ事になります。そして一箇年に四百町歩以上の地積の山を伐るといふ結果で、素人としては一寸大仕事に思はれますが、實際家から見れば何んでも無い事で、且つ伐採木は直ちに嫁入先が定つて居るのですから、事業家は喜んで此仕事を遺るに相違ありません。

一二

大阪の方は東京に比して大分盛んになつてゐて五箇年間に卅萬坪を改良するといふが然うすると年六萬坪で四寸六寸の敷木九百萬箇要る計算となるのである。東京にまれ大阪にまれ多少纏つた木材を必要とするのであるから、敷木道の計畫と同時に、山林との連絡を甘く取つてやり出す事は忘れてはなりません。木材の運搬、殊に、いくらでも小さくして運んで宜しいのだから容易のやうなものだが、第一山と都市との間の道路が充分で無いのだから此山との聯絡は相當に大切な事であります。

さて、色々な事を申述べましたが、最後に殘るのは一体その敷木は一箇何の位で出來るのかといふ問題に成りますが、東京型は一石から二百二十箇大阪型は百三十八箇取れますので大きな方で十錢で造るとして石十三圓八十錢、小さな方で七錢で十五圓四十錢といふやうな事になりますから、立木で五圓五十錢迄出しても宜しい次第ですけれどもそれが實際ぶなどは立木石二十錢もしませんから一石につき五圓廿錢の諸費用を拂つても即ち十錢で敷ける事になります。

これは木だけの價格で、其上へ防腐劑が加算されますが、抑々此クレオソートは我國全國で約八萬石より出來ませんので、毎年不足をしてゐるし輸入の道もないので今大阪東京に於て廿萬坪の木道を造るとせば此方だけに六萬五千石以上を使用せねば成りませんから、非常にクレオソート難を憩へる事と成ります。

一三

しかしこれは單にクレオソートのみを頼るからの事で、これと効力に於て優れるとも劣らず、價格もまた廉い物があれば、どん〳〵それを使用して差支ない譯で、私は一石十五圓内外のクレオソートを標準として近頃イソリユームと云ふのを造へて色々試驗をしてゐるが、クレオ以上の非常な好成績を得て漸く安心する事が出來たのであります。

此藥代が大阪型で三錢四厘二毛要り營業其他で一箇分二十錢と見積つても一坪七圓廿九錢で上る計算でありまして、然うすると大阪型で一坪卅二圓位により附きません。

今東京の改良豫算を見ると、石造百十五圓造七十六圓コンクリート四十二圓といふやうですが、私の豫算で卅二三圓もあれば良いと思ふ處へ七十六圓も掛けるとなれば土臺其他充分理想的に參ることゝ思ひます。

斯うした次第で、東京の銀座とか丸の内とかゝ木道に成つたならば、其体裁に於ても石道より數段と美しいものでありまして眞の都市の美觀といふやうなものを發揮することと思ひ今、より樂しみにして居りますしかし木道は出來上つたから宜しいで放擲して置かれては困るもので、石やコンクリートと同樣に充分に修繕掃除監督等にも注意し其上に下水が完成して排水が甘く行けば殆んど木道は萬代不易となるであらうと信じます。

——(談、文責在記者)——

英京の街路鋪裝

英京倫敦にては、十四世紀の頃、街路鋪石に關する條令議會を通過したりと雖も、第十八世紀に至るまでは、僅かに二三の街路に鋪石せられしのみにして、多くの街路は降雨ある毎に泥濘足を沒するの惡路となれり。然るに、千七百六十一年初めて花崗石の破片を敷くに至り、又殆んどそれと同時にフートーペーブメントも行はれぬ。次いで、千八百三十五年には、コムマーシャル・ロード(街名)に平板形の花崗石を敷き、以て車馬の往來を便ならしめしが、其後間もなく彼の有名なる土木工事家マカダム及びテルフォードの設計に依り諸所の街路は先づ其地盤を堅固ならしめたる後、これに鋪石することゝなれり。其際使用せし石材は、長方形にして、今日使用するものに比すれば其形頗る大なりしも、千八百四十年ブラックフライアー橋上に布かれしものは、既に小形となり長さ九吋巾三吋に過ぎざりき。

國立土木建築研究所の創設を望む（一）

T Y 生

今や世上總ゆるものは、文化的意義を体して、文化建設の濟美に到達すべく、それには自ら文化しゆく世に適當せる施設を全ふせんと努められている。而して世上凡ゆるものは過渡的遺風より脫しつゝ文化的に向上しつゝあるのである。されど凡てのものゝ文化的向上は、放任的不自然の裡に颺々慢然として來るべきにあらじ。凡ての向上はその民生の思想に左右せられ、思想の合理的向上は先覺者の統導によりて左右せらるべきである。故に、苟しくも思想統導の任に膺らんとする所謂先覺者の自重を要すべきは勿論である。轍ち、新思想を看板に自己の糧を求めんとする改造屋新思想屋文化屋の如き、何等顧みるところなくて無暗に文化とか改造とかを叫び且つ慫へんとする者は素より統導の資格を問然するなく具へしものと稱し得ないにしても、之等の人々は自重を忘るべきであるまい。私の茲に謂はんとする先覺者にして社會民心の統導者とは眞に統導し得る全資格を具へた社會民人の師表者を指すのである。されば社會民人はこの大器偉材の多く現はれむことを望むのである。

口

我土木建築界が、最近數年間に凡ゆる方面に及んで著しく進歩發達せるは、先覺者の指導そのよろしきを得し所以に外ならぬのである。最近一般世人が『社會文明と土木建築事業、人類生活と建築、社會政策と都市計畫』など人類生存上建築を輕視すべからざる意義を解し來りたのは、偏に、斯界先覺者の偉大なる統導の賜と稱すべきであるこれと同時に、斯業の技術、裝飾、衛生、美觀、至便等凡ゆる方面に及んで進化し、更に、理想的に進化しつゝあるは疑ふべからざる事實にして、

私は、この進化向上を觀るに及び常に先覺者の統導力に對し無限の敬意を表して止まないのである斯の如く、我土木建築界には、偉大なる統導力を有する學者技術家が間斷なく所信のまゝ大研究に渾身の力を傾注されてゐるが、悲しむべし其人々を數へ來れば極く少數である。百の凡材より一の大器偉材を待つべしと雖ども、此處に所謂學者及技術家の相互に研究し且其方針に出づべき人々の多からんには、それだけ大なる進化向上を觀るは疑ひなき事實であらう。

□

前述の如く一般世人に於てすら都市計畫は『都市は國家の重要機關にして國家を人体に譬ふれば都市は恰かも其心臟にして國家活力の中心根源である。一國商工業の消長も政治行政上の諸問題は固より文教思想等悉く此都市を中心として發現すべきものなり』との自覺より其實行の必要を感じ其他十數年一日の如く大研究に沒頭し社會文明と土木建築事業の意氣、人類生活と建築、思想衛生と建築、都市計畫の根本的意義と其實現等に就て世道世人の覺醒統導に努力せられた片岡博士の所說の如く、世人は一歩一歩と理解し來つた今日、若し直接其任に膺るべき學者技術家施工者及材料業者などの比較的この感念の薄弱にして亦用意周到を缺くに於ては、それこそ國家の大問題ではあるまいか、凡て建築の使命及意氣を解するものにして斯の感念を有せない者はあるまい。又、私は現在の學者及技術家の中或る少數者を除かば其他の人々は之等の感念に乏しく統導師表の有資格に非ずと謂ふのでなく、片岡先生の如く熱心なる大研究家にして眞に統導の範を示されむ人々の續々現はれむことを望ましいと同時に、研究的機關の創設を必要とするものである。

□

私は、貧弱なる請負業者である。併し、文化向上と俱に建築上凡ゆるものゝ進化向上を觀るべきは必定であるからこれからの請負業者は尠くとも茲に着目自覺せなくてはならぬことを深刻に感知しているのである。それに先覺者にして統導力を有する人々の統導に師事したい信念を有している

私共請負業者の自覺向上は先覺者諸賢の指導に預つて初めて其實を得べきことは曾つて貴重なる本誌上に概說した如くである。このために私はこゝに研究的機關の創設を必要視するかの如く自信して拙稿を草した譯である。私の謂ふ研究的機關とは、即ち、國立土木建築技術研究所の新設である

□

その業に己に國家が土木建築事業の意義を理解し國家的重大事業たる所以を認め民人に是を說くに於て、國家が其技術的大研究に努力すべきは當然である。恐らく我政府は土木建築事業の重大事業たる所以を認めたる上は其技術及附帶すべき諸種の問題をも重大視しているであらう。この事業性を認めたる政府にして之が研究に大なる力を傾注すべきは敢て贅するまでもない。

凡ての進步は多く研究の結果に俟ち、研究の旺盛なるところ必ず進化あり、建究の微弱なるところ必ず衰亡を見るは爭ふべからざる事實である。

我國の如き若き文明を有つ國にありては此研究的努力が一層熾烈にして眞摯であらねばならぬ。

今や我國總ては過渡時代より飜然文化的に進まんとしつゝあるではないか、この文化的進步は即ち前述せる如く統導によるべきものにして統導は研究より發現すべきではあるまいか。

殊に、土木建築事業が文明社會及國民生活に至大の關係を有するに於て、政府が之が研究に忠實なる當然のみ、謂ふ勿れ、政府に於ても夫れ〳〵此處に意を須ひ都市計畫を研究し殊に近く建築監督官を設くるも此所以に外ならざるべしと。斯くの如きは根本的政策にあらずして、投藥末節の消極的政策に過ぎざるべし、換言すれば纔かに申譯的に過ぎざるやの憾あるは、之れ、爲政者が多く人氣的、人心迎合的な政策を主として、人氣策を負ひざる政策を從となす結果にあらざるなき歟。

而かも人氣を博せざる本事業の極めて重大意義を有するに於て政府は須らく斯點に大なる力を注ぐべきは戲童尙ほ克く識るところである。

今日、我土木建築事業の進化向上を溫ねんか、その多くは民間技術者の力の致すところである。最も大學教授及其他の人々の努力與つて力ありと

すれど、之を民間技術者の努力に比較するときは極く尠少の努力と謂ふべく、之を以て觀るも政府從來の政策如何を窺知し得らるべし。

民間に於ける學者及技術家は、偏に忠實なる感念の下に從來研究し來つたものであるが民間技術家は謂ふまでもなく精神的生活及社會奉仕上自己の任務を克く果しつゝありとしても、經濟生活上物質的努力を要すべきは勿論である。今日の如く經濟生活的激甚なる世に經濟的生活の安定まで放擲し偏に研究に忠たれとするは其求めんとするものゝ非なるは勿論である。その余暇を利用して研究すべきものにして、其任意たるは謂ふまでもあるまい。この民間技術家諸賢が、從來、殆んど全力を研究に捧げたる結果今日の進化向上を目した所以で若し民間技術家諸賢を肯んぜざりしならんには、我國斯業は、或は今日の進化向上を觀るに至らざりしやも計り難し。文化しゆく世は愈土木建築事業の進歩を嘱望する、否其必要を切實に感じた秋に於て、政府當局が積極的政策を誤り何等の技術的研究機關の設立を圖るなく、何等奬勵の講ぜられるなく、恰も等閑に附すべきかの如き狀態は果して如何なる結果を齎すべきや。爲政者此處に想到し來らんか、この機關の創設を最も必要とするや論なし。

□

斯く論じ來れば、此種機關の新設を切實に感じるのであつて、政府は、彼の工業界の進歩を圖る上に國立工業研究所の新設を決行したる例に鑑み國立土木建築研究所を設け、相當の豫算を計上し大々的方針の下に、其目的の完成に努力すべきは世界一等國を以て自負する我國の當然決行すべき而かも緊急を要すべき社會政策とも謂へやう。

同研究所に斯界の大家を煩して所長の要職に招聘し、大學教授、政府に於ける技術家、民間に於ける知名の技術家を夫々兼任或は囑托とし、更に專門技術家を數十名招聘し、歐米地方よりも招聘するの雄圖に出で、同所に到れば土木建築技術は勿論斯業を中心とする凡ゆる研究の成れるありて世人を總ての方面より統導し得べき準備あることゝし、同所の新研究に基くものは新聞或は官報を以て報導し、我國の斯業を積極的に統一すべき大策の樹立を見たい。而して、凡ゆる方面に及んで斯業を中心として擡頭する諸問題の解決に當ることは、頗る文化的施設として機宜を得たものではあるまいか。（此稿未完）



「研究」

××最近避雷針の進歩

京都帝國大學教授 工學博士 青柳榮司

（三―完、本誌第三輯第七號に續く）

第四　避雷針建設工事の設計

京都電燈株式會社技師望月雄次郎氏が明治四十四年より大正四年に亙り京都大學に在職せし際建設せる避雷針の實例を基として茲に其の設計の大要を紹介する

一、避雷針施工上の種類　設計を甲乙丙の場合に分ち各に付き其の特徴とする所を左に記載することゝする

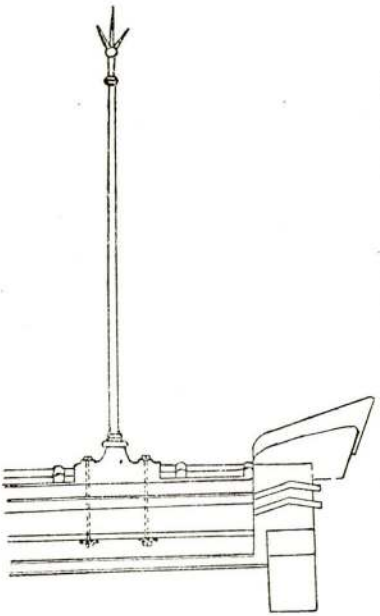
甲、木造二階或は三階建の普通住宅で實用を主とするもの

乙、煉瓦造の建物で豫算の許す範圍に於て裝飾と實用とを兼ねたるもの

丙、數寄を極めたる富豪の大邸宅で裝飾的に優良の材料を豊富に使用し最善を盡くして避雷の効力を發揮せんとするもの

二、避雷針（逮捕導體）　之れは瑞西にて逮捕導體

と呼べるもので之を分ちて大避雷針(第一圖)及小避雷針(第二圖)の二種とすることが出來る。前者は所謂普通の避雷針であるが後者は前者の金屬管を廢して其の突針を大にしたるが如き形狀を有するもので座金を用ひて直接に屋上へ取付けるのである。であるから補助避雷針とでも稱して宜しからう。棟の長き建物では大約二五尺の間隔に大避雷針を設置するを理想とするが工事費並に建物に對する體裁の關係上施工し能はざる場合が多いから大避雷針の間隔を大約五



第一圖　大避雷針

縮尺大暑三五分ノ一

○尺づゝとし其中間に一箇の小避雷針を取付けるのを宜しいと思ふ

大小避雷針とも裝飾的意味の外純金を用ひて尖頭に鍍金するの必要は無い

三、大避雷針　今前記甲乙丙の場合に就て區別し左に各に付き其の一例を略述しよう

甲、木造三階建屋上に只一基或は二基の大避雷針を設置し、其の突針及金屬管には別に特徴無く、普通品を使用する

乙、大避雷針の突針に於て中心尖頭部は銅製で徑八分長さ一尺二寸三分とし之より三方に枝的尖頭を射出する。是等は何れも頂部に圓錐三稜形を與へる。又突針受金屬管は錬鐵製で外徑一寸長さ七尺唐草模樣を附する

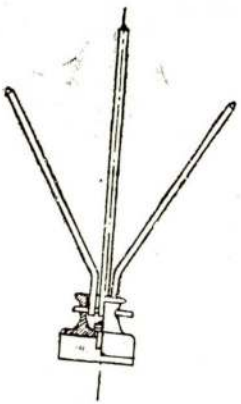
丙、突針は乙と大差なきも尖頭部圓錐形の部分は裝飾として純金燒付を施す。突針受金屬管は暗黑色の砲金製とし又座金も同一金屬製で煉瓦に應じて其の形狀を異にする

（第一圖參照）

四、小避雷針

甲、家屋の長さが短かいから之が設置を要しない。

第二圖
小避雷針



縮尺略一ノ八分一

乙、銅製で各尖頭部に全然純金を使用しない。座金は鑄鐵製である

丙、大避雷針の各尖頭部は孰れも純金燒付とし座金も暗黑色砲金製で煉瓦に相應しい美的の形狀を與へる（第二圖參照）

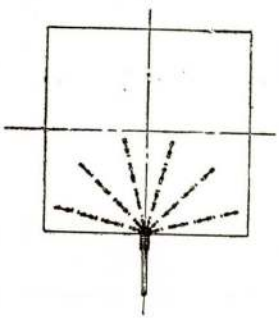
五、導線

甲、大避雷針一基に對しB・S・一二番二九本撚亞鉛引鐵線一條或は二條を用ひ之を屋上より垂れ各接地板に接續する鐵線は銅線と異なり腐蝕し易いから後日修繕及取換の起るべきを豫想する必要があるが安價であるから成るべく鐵線を用ひ銅線を廢するやうにしたい

乙、避雷針と接地板との連絡導線（避雷導體）にはB・S・一二番一三本撚裸硬銅線を使用し、避雷針相互の連絡導線にはB・S・一二番九本撚硬銅線を使用する

丙、避雷針相互間及避雷針と接地板との連絡導線にはB・S・一二番一三本撚裸硬銅線を使用し、又接地を確實ならしむる爲め地中を通じて接地板相互間をB・S・一二番九本撚裸硬銅線にて連結する

第三圖
接地銅板



縮尺略一ノ五分三大

六、接地

接地箇所は建物より適當に隔離せしむる。接地線は水道鐵管に接續するか或は金網（瑞西規定第二〇條參照）を用ふるか或は他の接地板に接續する。其の一種として第三圖に示すが

如き構造を有するものがある

今其接地方法の一例を擧ぐれば左の通りである

甲、接地は接地線を水道管に接續するを可とする、若し之が出來ない場合には接地銅板として大さ三尺平方厚さ五厘のもの二枚を用ひ、何れも別箇の既設井戸に沈下せしむる。又古鐵管を銅板に代用することもある。若し萬一井戸の穿ち難いときは接地線の撚を解き廣き面積を與へて之を埋沒するのも一策である

乙、接地銅板は巾二尺五寸長さ五尺厚さ五厘とし水面以下一〇尺以上の深さを有する井戸を穿ち其の中に接地板を垂直に沈め堅質木炭にて平等に其の両側を包圍し約八寸の厚さを與ふるがよい。此際木炭の浮遊離散するを防止する爲め之を竹籠に詰め込み其の底部に重り石を付け沈下せしめ周圍より徐々に埋立つるがよい。

丙、接地箇所が多いから各接地銅板は三尺平方厚さ五厘とし、導線との接續部は鑞付の上鉛工を施し光明丹を塗抹し之を巾三尺二寸、厚さ一尺六寸、深さ三尺三寸の竹籠に垂直に入れ堅質の木炭にて其の両側を包圍し充分銅板に密着せしめ之に蓋を施したる後水面以下一〇尺以上の深さを有する井戸内に之を沈下し周圍より徐々に埋沒する

七、導線接續法　導線は繼ぎ目なきものを使用し殊に避雷針接地板間は必要以外堅く之を避くべきである。萬一止むを得ず接續の必要ある場合には其の部分を五寸以上とし十分に鑞付を施すべきである

甲、導線は建物の外形に沿ひ適當なる箇所に敷設し、導線の素線と同一鐵線を以て建物に取付けるべきである

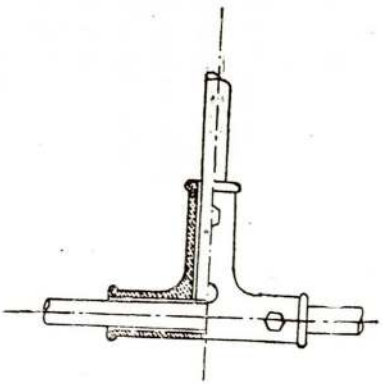
乙、導線は成る可く雨樋に沿ひ垂下せしめ所々に於てB・S・一二番裸硬銅線にて建物に取付けるのである

丙、導線は出來る丈建物の金屬物に接續する。建物に取付くるを要する場合にはB・S・一二番裸硬銅線を以てし、成る可く屈曲を避くべきである。屋根の構造上屋上の導線が壁側に

沿ふ場合には軒を迂廻する爲め急角度を生ずる恐がある、此場合には屋根瓦と類似せる銅製の瓦一枚を用ひ之を貫きて導線を引き下げるのが一法である。其の際該瓦と導線とを完全に鑞付し雨水の浸入を防止するか或は絶縁管を用ひて両者を絶縁すべきである。軒裏の導線出口には體裁善き飾座を使用し、接地板相互の連絡導線は地下二尺の所に埋設し、導線の分岐接續には直角接續用銅製端子を使用する（第四圖參照）

第四圖

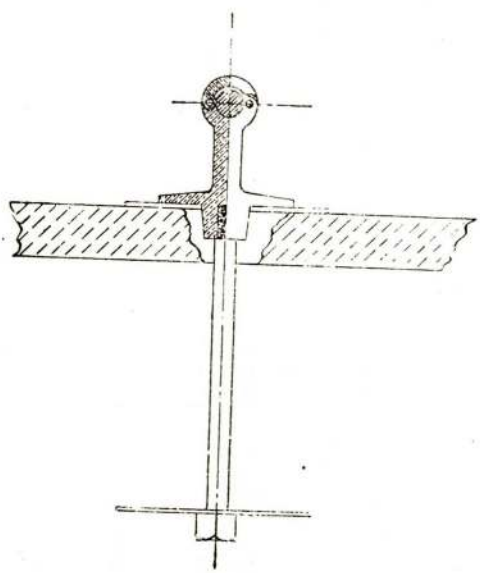
直角接續用端子解剖所



縮尺大畧五分ノ二

屋上避雷針相互間の連絡導線が練瓦に並行して若干の距離を保ち敷設せらるゝ場合に於ては其の重量の爲めに垂弛するの不體裁がある之を避くる方法として適當の距離に暗黒色砲金製の取付金具を使用する（第五圖參照）

第五圖　棟上導線取附金物

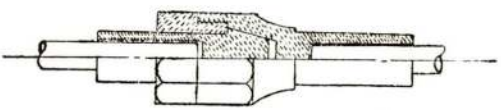


八、接地板抵抗測定

接地板の抵抗測定は適宜に（縮尺大畧三尺五分一）

三地點を撰み二箇所宛を取り三回測定することによりて之を算定し得るのは一般に識る所である。又甲乙の如く接地箇所少數なる場合には各接地箇所を獨立にする爲め避雷針と接地板との連絡導線を分離する必要がある、斯かる場合に於ては適當なる導線に對し地上約三尺の所に試驗用端子(第六圖)を取付け測定の際之を切り離せば其の目的を達し得るやう豫め施工するが宜しい。然るに丙の場合の如く接地箇所が多數で而も接地板相互間にも地中を通じて連絡導線を埋設する場合には試驗用端子を要すること多數なるのみでなく地中連絡導線に試驗用端子を取付けること稍困難であるから各接地板の抵抗は埋設當時だけ測定し置き工事完了後は

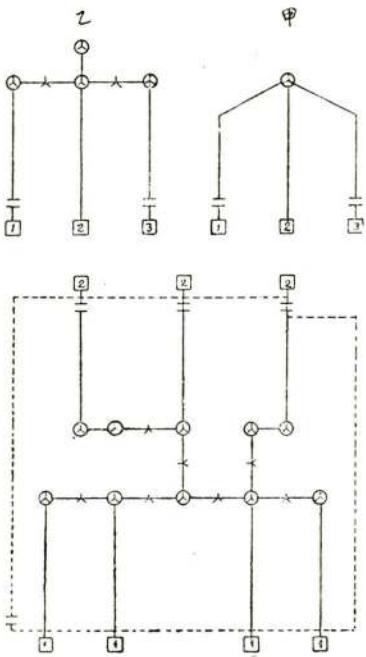
第六圖　試驗用端子



(縮尺大暑四分ノ一)

接地箇所の總體を適當なる數に區分し得る樣所々に試驗用端子を取付けるが宜しい。此際成る可く接地箇所の近きものを集めて一群とすべきである(第七圖參照)

第七圖　試驗用端子配置圖



凡例　○ 大避雷針　Y小避雷針　□接地板
┴┴ 試驗用端子　── 連絡導線　……地中連導線

第五　結　論

今日の趨勢は落雷に歸因する被害の甚大なるに鑑み出來得べき廉價なる避雷針の普及を圖るにあ

る。從て家屋建築用の金屬物は成るべく避雷裝置に續きて其の効果を大ならしむるは勿論純金を用ひて突針に鍍金するの必要はないのみでなく全然銅線を廢め之が代用として鐵線を以てするなど出來るだけ費用を省くべきである

殊に新しき考案は電燈電力線と避雷針とを結合せしむることである。此方法は一八九七年既に獨逸のコッホ(Koch)に依つて唱導されたことで獨逸には之を實行して居る所がある。此の事に關して、ルッペル(Ruppel)教授も最近其利益を皷吹して居る（一九一八年八月二十二日發行E・T・Z參照）。即ち電燈電力線は屋上に架設さるゝやうにし而も之れは安全の爲め接地さるゝ必要があるが更に其の接地を完全にする爲め水道鐵管にも續くやうにする。電線を屋上に架設する爲めには屋上用小電柱が必要であるから之を用ゐてそれから接地線を下すことにする。更に之れに避雷針用接地線をも接續するは勿論、家屋建築用の金屬物をも總て連結するのである。斯くすることに依つて電燈電力線の接地が非常に良好となり避雷針の建設費も大に節約することが出來る

今や我國は歐米に模倣する時代ではない、彼れに先ずるの氣慨を有つべきの秋に進んだ。從て電燈電力線と避雷針とを互ひに利用するの方法に就ても率先其の研究を遂げ之を實行するの覺悟を以て進まねばならぬ、苟も安全となり、廉價となるべきものあらば一刻も躊躇すべきではあるまい、接地線を水道管に接續することなども勿論さうである。然り而して避雷針の規定を設くるに方つては之れに關係を有する各專門家の協力に俟たねばならない。即電氣、建築、水道、保險等の諸學會及協會の合議を經て之を確定することに致したい兎に角建築家の考慮を煩はしたいのは差當り上述せる簡便な瑞西の規定を參考として家屋設計の際建築用金屬物を避雷裝置に利用するやう注意せらるゝことである。

終に蒭み起草上援助せられし望月技師に對し特に謝意を表するのである。（完）

∴米國建築界の同盟罷業に就て (B)

(在米)會員
大林組技師　本田登

二　罷業中彼等の生活

一月上旬より三月下旬迄約七十日間に亘る紐育市七千人以上の煉瓦工と三千人以上の石工（組合に加入せる職工）は彼等の罷業中如何に生活を持續せしや、之は捨て難き研究事項であると思ふ、若し彼等が罷業中生活を持續するに必要なる貯蓄を平素心掛けて居る者や否やと云ふ想像は第一着に小生の頭に浮んだが、然し之は到底考へ得れない事柄である、何故ならば文明が進むに從ひ現今の社會制度は決して彼等に余祐ある賃金を仕拂ふ事は出來ない制定であつて、彼等の勞力に對しても最小限度賃金を常に仕拂つて居る故である、又一方考へて見れば彼等は罷業生活を持續する丈の平素の計畫のある者とするときは何故罷業を起したか其原因は一層價値を失ふものでなければならぬと思ふ、現今の日本が割合に雇主側にも職工側にも組織的に統一せられて居らない場合は隨分職工賃金も不統一で、彼等は勝手氣儘の賃金を得て思ふ存分遊興に費し、或は勝手に作業を休み或は賃金の增額を要求して其勞銀の騰貴は何者も之に抵抗する事は出來ない様な今日であらうと思はれるが米國には各方面に組合又は協會と云ふ二種の團体があつて平素充分に調査を遂げ最も時勢に適した賃金率が定められてある故、比較的平靜な進み方であると言ふ事は出來る、斯る現代の米國にては罷業が起つても彼等は何事かに勞力を費して之に償ふ賃金を得ねば到底生活を持續する事は出來なかつたのであつた、即ち罷業中はヨリ以上の作業時間を得らるゝ職業に從事したのである。

中には全く自分の本職を捨てゝ他の新しき作業に從事した者もあつた、例へば工場製品の荷造りとか又仲仕人夫とか又或者は南部地方の暖き方面の作業に移つた者もあつた、又或者は例へ賃金が廉くとも生活費用の比較的低廉な地方に作業に出掛けた者もあつた、又或者は紐育市の協會側に關係なく請負人の作業に從事して拾弗の賃金を得て生活を持續した者もあつた、又或者は單純な勞働者として全く室内作業に就て低き賃金率なれども八時間の充分の作業をなしてヨリ以上の勞銀を得た者もあつた、彼等の罷業は眞面目で雇主に對して何等の威壓的行爲は認められなかつた、要するに煉瓦工で天候の悪い今日既定の賃金を得んと欲しても作業は妨げられる爲めに出來なく、然も生活不安定に陷る爲めに充分に作業の出來る他の職工に一時轉職するから之を認めて貰れたいとの單純な理由であつた、而して之れが大に世人から同情を寄せ其行動は徹底的である所から彼等の要求は已に成功を奏したものと見る事が出來る、遂に此問題は紐育市長「ハイラン」氏の心を動かしたる結果同氏の仲裁の力で罷業も圓滿に解決したのであるが、次に順序として市長は如何に痛切に物價騰貴と家賃騰貴とを調査研究して彼等を少しでも苦痛から救ひ出さんと決心せられたかは次ぎの項で知る事が出來る。

三　罷業と紐育市住家經營議案

最近紐育市は住家拂底と家賃騰貴とで一般市民は少からぬ苦痛を受けて居る、市會議員や市の各課の當局者は夫れ〳〵之が原因調査をやつて地主や家主に意見を訊いて見た事も度々である樣に新聞に報告せられてあつた、地主や家主は住家拂底は經營企業が縮少せられて居るからであると云ふて居る、其原因は目下建築材料單價と職工賃金不定の爲に資金利率を見積る事に困難なるより企業會社からの資金の貸出は出來ない爲だと云ふ、又今一の原因は國家が吾等に多大の戰稅(War Tax)を課賦するから吾々は戰稅の課賦されない他の企業に資金を損する事になるから住家は拂底で家賃は益々騰貴するとの回答であつた、斯樣な具合で

市の當局者も地主や家主が以上の利益を得て居る事に不滿を漏して居る今日であるから、愈々地主や家主の家賃から得らるゝ利率の調査を始める事になつた、斯る事は今尙續いて居て隨分八釜しい問題となつて議會迄持出し研究して居る樣である又一方紐育市長「ハイラン」氏の此危機に於て何は兎に角現今の家賃騰貴を防止する策として市が卒先して市の下級民の爲に住家經營を行ひ、一方に其拂底を補ひ一方に正確なる家賃の制定を爲し、今日の家賃騰貴喰止め策を講せんと考へられたのである、而して此社會改策問題は別段煉瓦工の罷業が動機となつたと見へるは固より皮相の見であるが、併し此罷業が動機となつて如何に其住家經營議案の決定を早からしめたかは知る事が出來る之れは詳細に記述する事は無駄であるから省き主なる出來事の概要を記述して此項を結ばんとするのである。

市役所の各課では市長の命令に從ひて種々の方面に家賃と拂底との原因を調査し初めた、長い間の調査は結局近來の家主や地主は兎に角高ひ利率の收入を得て居る事に一致した、同時に市民の內實際不當の家賃の爲に苦痛に陷て居る階級の人々と其家主の調査を始めた、之は最初市としての主なる調査の要項である。

三月七日市の住家課の上院議院（市會議員）の「アレキサンダー」、「ブラウンステン」氏市長に警告を發して曰く、長らく市は家賃騰貴に就て調査をやつて居るが今日の狀態では兎に角實行は第一である、即ち市は現在の時價に於ける共同住家の工費を立案し以て其工費より生ずる家賃は何程の價格に昇るかを斷定し、以て現今の高い家賃の縮少限度を調査する事は第一の方法であると、云ふて暗に市の住家經營を市長に暗示した。

又上院議院の「ジョンダンユガン」氏は自分は住家法立案委員會の委員である立場から昨日衛生課の「ローヤル、コーベランド」博士を訪問して同氏に次の事項を懇願したと云ふた、即ち目下紐育市の家賃と拂底とに苦しめられて既に住家を持つ事の出來ない市の下級人民は六千人以上に達して居る、加ふるに現今の不時の候に剩へ流行性感冒は

猖獗を極めて居る場合貴課の方でも何んとか衛生救助と云ふ目的で現今の家賃騰貴の問題を研究して貰ひたい、と希望を述べた。

上記の事柄は出來得る丈け要點を捕へて記述したのであるが、要するに物價騰貴と生活難の救助方法を至急に實行する事を市長や市の當局者に懇望したものである。

彼樣な具合で、現今の紐育市は上下階級の人を通じて其住家拂底は不安定なる生活を繼續させらるゝ事を一般に認められて居る事は、大概明瞭になる譯である、此等の輿論の力は既に市長の一億弗住家經營事業の實行を促したのである。

確か三月六日市長の愈々住家經營案實行を決心した內意を次ぎの出來事に依て窺ふ事が出來る。

市長は愈々住家經營を實行するの時に方り先づ第一に次ぎの各階級の人々に其意見を徵する事を必要と認め、市の公會堂に出席を依賴した。

一、建築業者（請負業の人々）

二、土他建物會社（信託業又は不動產管理會社の代表者）

三、造船業者の代表。

四、大地主。

五、メトロポリタン生命保險會社支配人。

六、上院議員「シ、シ、ロックウッド」

七、勞働者同盟組合の代表者。

八、建築業評議會の委員。

其他市の各課の內其問題に關係ある人々

攻ぎに市長は(八)の代表者に意見を尋ねて見た本年建築材料の時價は如何なる變動を來すや又比較的平靜な時價を保ち得るや其豫想を諮つた、之に對して(八)は曰く本年の單價(時價)は差したる變動は無からうと豫想される、然し建築材料の內には此の八月に或る變動するものもあらうが、一千九百十八年の樣な大變動はあるまい、との意見返答であつた。

次に市長は(七)の代表者に意見を訊ひた、曰く吾々の同盟組合は罷業を敢行することを目的とはして居らぬことは承知して貰ひたい、然して吾々の生活難が如何に痛切に苦痛を吾々に與へて居るかも同時に承知して貰ひたい、吾々は正當なる賃金

を確定せらるゝ事を常に雇主に穩當に希望して居る、仍て此際市と雇主とが吾々に對して或る恩典と安定とを與へる事に努力して貰ふ事の出來得るならば、余等は滿足に作業する事が出來ると返答をした。

大体に於ける意見發表の要點は以上の様なものであつた。

次ぎの重なる出來事は三月十六日の二度目の大會開催であつた。

此時は既に市長は一億弗資金の住宅經營は内心斷行した時であつたと想像する事は出來る、例に依りて次の階級の人々に出席することを依頼した。

一、土地建物會社の代表者
二、建築請負業者
三、建築材料販賣業者
四、勞働者組合の重なる人々及び勞働者の一部

先づ第一に市長は演説を試みた、其要點は次の様であつた。

愈々壹億弗住家經營を實行せんとの時は迫つて來た、先づ第一に必要なるものは資金の一億弗であるが、之は市役所に於て調査せし結果資金は公債發行募集で現今の有様では決して困難でない事は確定されたが、第二の必要條件は建築材料と勞銀の平靜を保つか否やの問題である、少くとも市は經營實施期間中一定の時價と率とを保つ事は市の最も重要視する問題となつて來た事を發表した而して市の社會政策事業と歴史上嘗て見ざる此大事業を最も有効に遂行せしめらるゝ事を希望した尚終りに附言して曰はく、紐育市は年々四萬軒の共同住家の新設を必要とするのであるが現今はヨリ以上の不足を來して居る、之は戰後兵士の歸國と、經濟界の好況は田園農民の大都市に集合する傾向を有する原因に歸着するもので、到底之を住家經營に依らねば此不足を補ふ事は出來ないものである事を述べて演説を終つた、此場合に於ける市長の演説は相當の力ありしものと窺はれる、此會合の演説で既に市長は罷業の起る事を最も痛苦として居る事は明である、此會合は即ち罷業を恐らく解決せしため端緒を造つたものと見る事は出

來得ると思はれる。

四　罷業の解決

市長の一億弗資金の紐育市住家經營議案は愈々具体的に發表されて其議案（Bill）は紐育州「アルバニーノ」議場に掲げられた、而して市の各階級を通じて此住家經營實施の圓滿に遂行せらるゝ事を懇望する樣になつて來た。

罷業を解決せしめた最後の會合は三月廿七日紐育市公會堂で開かれた、此大會は如何なる階級の人と如何なる意味合のものであるかを知る事が出來た、次ぎに之れが概略を記述する事にする。

當日大會の出席者は六百四十八人であつた、而して左の階級の人々が出席した。

一、煉瓦販賣組合の代表者

二、請負業者の一部

（是は請負業者協會の人々の代表者ではない、此人々は煉瓦工の罷業に關して種々以前から勞働者組合側と協議したが解決に至らず、止むなく其解決を煉瓦販賣組合側に依頼したので、當日は出席しなかつたとの事である。）

三、家賃値下運動組合代表者。

四、煉瓦、石工、地方組合代表者。

五、市長市會議員市の課長連。

當日の六百四十人の代表出席者は、八十萬人の代表者と、今日の新聞に記載されてあつた。

大會の委員長「アールガスキン」氏。

此會合に於て最初の演說者は市會議員の「ピー、シーバルデック」氏は社會主義の人であるとの事である、同氏は曰く、今日の會合を紀念として此處に之等の各社會の人々が新に一大組合を組織せられん事を希望する、而して既に之等の人々が一大組合を造られてあつたならば今日迄罷業とかと云ふ面倒は決して起らない筈である、との主旨であつたが、內容は社會主義の鼓吹者と見る事が出來る、「タイムス」新聞も同樣に批評してあつた次ぎに紐育市長「ハイラン」氏の議案提出の住家問題に解き進み最後に今回の一億弗は紐育市に取りては困難な事でない許りか、何故に今日迄此問題

は延引せられたかを疑ふものである、米國は戰爭中紐育市に戰時住家經營（之れは私には詳細知る事は出來ない或戰爭中の臨時建築を指すもの）として二億七千四百萬弗の企業を行つた事に記憶を及ぼさねばならぬ、若し吾人は人間斬殺の目的に斯の如き莫大な金を投ずる事に不平を洩さない者なれば、生活事業の爲に一弗を消費する事に不平を漏さない事は勿論である、と云ふて一日も早く住家經營を促した。

此演說が終つてから今回の住家經營實施の委員は之等の出席者の中から撰定された（之れが米國の思想と主義を發揮する點であると思ふ）

次ぎに紐育市判事の「ジャゴップハンケン」氏は演臺に昇つた、而して次の如き意味の事柄を說いた、紐育市の住家拂底は住家の不足にも因るが只是のみに歸因する事は出來ない、小生の調査では其粗密を大に認めたのである、即ち一方には割合に住家の多い所もある又一區域は非常なる密度を呈して居る所もある、是は家賃の程度の關係もあるが人間の心理狀態は大部分是を支配して居るのである、故に今回紐育市の新たに住家經營を行ふの際には、目下の空家の種類を先づ第一に調査せよ、而して之を基礎として何程の共同住家（家族數を云ふ）を以て最も人間の集合性に適するものかを現在の紐育市を調査して知る事は必要であるとの意味であつて、要するに何家族集合制を採ればよいかを研究せよと說明を施したのである。

次ぎに今回の市長の住家經營委員會の副委員長「イス、イ、レテ 井ウンソン」氏は次の演說を試みて曰く、今日の會合は今日迄の凡ての困難なる問題を解決する事が出來たと同時に廣き意味の借家人の大會合は開かれたと同樣である、而して會合は開かれたからには既に之等の借家人一大聯合組合は組織せられたと同樣である、私は此上面倒な事は決して起るまいと豫想して居る、而して此聯合組合は私の關係ある住家經營に對して實施を有效ならしむる爲に一致的行動を取つて遂行を助け圓滿に現今の難問題を解決してやらうではないかと暗に實施中は多く人の幸福の爲め又多く借家人の幸福の爲めに圓滿に完結せらるゝ事を示したの

であらう。

次ぎに市長「ハイラン」氏は演臺に昇つた、余の一億弗經營議案は目下「アルバニー」の議場に提出した、愈々實施の運に到るは近々の事であらう、今後一年を出でずして市民の住家は無數に新設せらるゝ事になる、之と同時に時代の要求に適した最も正確な家賃は其標準を定め得らるゝのである此議案は愈通過したる際に於て尙ほ材料の値上で勞力の罷業が繼續するならば止むなく此實施を中止せねばならぬ際幸に多くの人は市民の幸福と自己生活の安定を保つ爲に多大な力を添へらるゝ事が出來得るならば本年の夏頃迄には小數と雖も美しい家屋は現出するのを豫想する事は出來ようと思ふ、私は現在今日迄の罷業は此會合に於て全く圓滿に解決せしものと考へる事は出來得る、と說き出し最後に今回の煉瓦工との解決を自分に一任せられん事を申出でた、之が抑も解決の眞相であつた、市長の申出は何等不平なく兩者側に於て其仲裁の勞を執らんとする親切に一同感謝した、遂に市長は組合側の申出一時間一弗五十仙と雇主側の申出一時間一弗十二仙二分の一との中間を採用し新たに一時間一弗二十五仙を最小限度の賃金率と制定された、即ち一日八時間作業十弗制度は新たに作られたのである。

一昨昨年即ち一千九百十九年九月頃の賃金率の內重なるものを參考までに記す。

大工（一時間八十一仙四分の一）一日六弗五十仙

電工（一時間七十五仙）一日六弗

煉瓦工（一時間八十七仙二分の一）一日七弗

同手元（一時間六十二仙二分の一）一日五弗

大工職工長（フォーマン）一日八弗六十六仙

一週五十二弗

手傳職工長（フォーマン）一日六弗五十仙

一週三十九弗

其他此賃金と本年の賃金とを比較せば隨分本年の賃金の增額されて居ることはある、之は紐育市の賃金ではない、中部米國即ち「セントルイス」のもので、紐育よりは一割位低いものと思ふ。

（終り）



〔住宅〕

✤ 居構百選 （其九）

葛野建築事務所主
會員 工學士 建築士 葛野壯一郎

廿二 夏の家 （其二）

米國シアトル

第廿四圖は何處へでも思つたところに手輕に移築する事の出來る移動家屋、即ちポーテーブルハウスの一例として、米國シアトル市ヨーホーエンドメリット社の提供するプランで有ります。山間の避暑地等に建てる一時的別莊として至極適當したもので、其構造は純日本式の眞壁構造即ち柱を露出し其間に壁をつけるやり方で、柱の割合せの如きも三呎或は六呎と吾が間にキッチリ合せて割附けられて居ります。坪數は間口三間半桁行五間即ち建坪十七坪五合の外に玄關ホーチの一坪半と裏出入口段ブラットホームの一坪が附屬して居ります。建築費見積額は千二百圓、是を本家と玄關の坪の和十九坪に割當てると一坪當り平均七十三

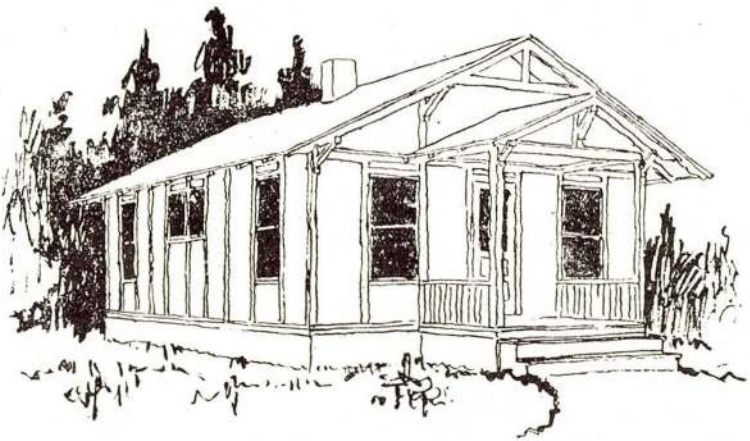
圓餘、實に安價なものであります、此の價格は昨一九一九年の發表で有りますから、現在も勿論大差なきものと見て差支へは有りますまい、尤も、此の工費には左官の壁塗費用と鉛工費、即ち浴室便所、勝手廻りの給水排水等の費用を除いた價格といふ事で有るから、是等を完備するとなると、更らに相當の增額を要する事となるは勿論で有ります。各室の大さは玄關ポーチが三疊敷居間が十二疊敷、臺所が八疊敷、寢室が六疊敷と四疊半の二室、浴室が三疊敷物入が一疊半に相當して居ります、間取は全体として至極便利に出來て居つて、少家族ならば是だけで充分愉快な生活が出來ます。我邦の紳士連も別莊等に無意味な贅澤を盡し愚民を驚かす事抔を廢めて、斯麼式のものを自分の好きな場所に年々多少の意匠を變へて造作する樣な習慣に改められるならば、非常に經濟的で無駄をも略き、而も大自然を遺憾なく享樂する上に於て遙かに優るものが有ると考へます。



由來和風の家屋は其構造一種の移動式家屋と稱し得可きもので、其接合組立方の如きも何時でも自由に取はづし移轉し得る特長を有つたやり方で有ります。基礎の如きも柱下に玉石を置くだけで充分荷重にも耐ゆれば、壁の如きも竹と土さへ有らば容易に造る事が出來る、貫材を少し大きくするか或は多少の筋違材を應用すれば其れで相當堅固な壁が出來る。小屋組の如きも梁間の狹い普通住家の如きものでは、洋風の組方よりも和風の丸太を掛け渡し束だてにしたもの、方が、ズット經濟的で堅固なものになる。重い

瓦屋根に替ゆるに石盤葺板葺或は其他特種の輕い材料を應用するならば恐らくは世界の何處を探しても是れ程手輕で便利な家屋はないので有ります。最近住宅問題の勃興につれ中流以下の改良住宅とか安價住宅とか云つた樣なものゝ考案について世間に多少の意見が發表されて居る樣では有るが、是等の考案についても私は在來和風住宅の此手輕で便利な點を無視しては到底不可能の事に屬しはしまいかと信ずるので有ります。

（クラフツマン●バンガロース千九百十九年版）（未完）



●初めて出來た組立家屋

松屋吳服店の內藤支配人が米國から取り寄せて鵠沼に建てた組立家屋につき就いて語る所を聽けば間口三間半に奥行六間半のバンガロー式五室で特徵の最とする點は床も天井も壁も悉く板張りである事だが其羽目板の接續箇所に外側と內側とからバンヤを詰めて風雨寒暑を防ぐから冬期寒さの心配はない窓が八箇に床板が三重張り屋根はスレート葺で先づ玄關入口が八疊の應接室其奥に細長い五疊程の賄部屋があつて一疊ばかりの物置きも附いて居り玄關を入つて左手に五疊と七疊の二間及び三疊程の風呂場があり又約三疊半の便所もある是等の間取りは甚だ住心地よく又至便に出來てゐて驚くばかり巧妙に考へてある。

✤新聞記者の見た名士の邸宅 (七)

讀賣新聞記者　梅谷孫吾

中橋文相私邸

一　門は三百石取りの武家構へ　天下の富豪として貧弱だ

此度の臨時議會で例の投機問題の辯明書から尻が出て一番の乏貧籤を引いた文部大臣中橋德五郎氏、あゝ成つては厭でも應でも今更どうする事も出來ない破目になつて老女石渡ひさが中橋邸を退身と同時に十六萬何千圓を吳れねばならぬ事になつて仕舞つたが、私が麹町中六番町の文相私邸を訪問した日も、丁度この問題で議會に花が咲いたどさくさの時で、實は文相と逢う爲めでは無く、貰つた貰はぬを確かめる爲めに石渡ひさ女と會ふ爲めに出掛けて行つたのである。

何んでも非常に暑い日で燒き付けるやうな陽が輝やいてゐた。中六番町の大臣横町でも中橋氏は古顔の方で、本通りから自働電話を左へ曲ると、書伯十室翠雲氏と並んでその餘り立派で無い黑い純武家風の門が左側に見えてゐる。またその並びのだら〳〵坂を下ると直ぐに、三大臣投機問題の火蓋を切つた當の敵將沼南島田三郎氏が住んでゐるんだから面白い。

中橋氏の門は本當に餘り立派でない、たゝ人生清節を守る文部大臣か次官位の門として見れば、立派も立派でないも無いけれど、苟しくも一老女に十六萬圓を吳れる天下の富豪中橋氏の門としては、立派で無いよりは寧しろ貧弱極れりといふべしで、精々局長級位の住居である。眞黑く塗つた高々三百石取りの武士の門構で左右が車夫部屋か物置か兎に角相當に利用されてあつたと思ふ。

二　直ぐ通されて一寸意外だ　百餘の狸の置物が並んだ

門を入るとすぐ二間も歩るいて二階建西洋館の表扉に突當る。これもまた餘りにせつかちな餘裕の無い邸内で、しかし左右には青葉が見ゑ、殊に玄關の石段の處へも八つ手か何んかの葉が被ひかぶさる位に茂り合つて垂れてゐたと覺ゑてゐる。この西洋館の右手に沿ふて行くと勝手口だと見ゑて、丁度私が玄關でベルを押してゐる時に、魚屋風の若い男がのそり〳〵と出て行つた。

扉を開けると若い美しい女中が現れて、しかし叮嚀に用件を問ふた。私が石渡女に逢ひたい旨を申入れると、一先づ奥へ入つたが、それでは應接室へと云つて、即ち中橋家の應接室へ入つたのである。私は實は到底一筋縄では會ふまいと思つて來たのだ、議會であんなに騒いでゐるのに、問題の石渡ひさ女を我々新聞記者と會はせる事は、中橋氏に取つて損にこそなれ決して德の行く筈は無いのだ、それが會ふと云つて通す、不思議に思つたが内心非常に喜んで、同行の寫眞班に仕度をさせ乍ら、ひさ女が姿を見せたら直ぐに一枚とかんと撮つて置く仕度をして待つてゐた。

云ひ遲れたが中橋家は、扉を開けると直ぐ廊下一帶に海老茶がゝつた絨氈が敷かれて正面には大きな屏風衝立があり、すぐ右手が應接室、その衝立の蔭から奥の方へ女中が出たり入つたりする。

石渡ひさ女の出て來るのを待ち乍ら私は應接室を一渉り見廻した。そして第一番に目に入つたのは實に無數の狸の置物が並べられてある事である置物と云つても酒德利もあれば安燒の妙竹林な狸もあり。千差萬別だが却々面白い物も見ゑる。其數約百、即ち中橋氏を狸大臣といふ所以の名稱は茲から生れたのであるかも知れ無い。

三　磊落味のない俗な應接室　牧野秘書官離け付けの場

法衣を着た狸も居れば、酒德利を下げた狸もあり、狸の正体其儘を見せたのもあれば半化半正体の者もある、實に面白い。それが餘り明るくない

應接室の中に並んで、しかも議會で狸呼はりをされてゐる主人公の不在を守つてゐるのだから尚更に面白い。

應接室は純洋風で十疊あるか無し、東と北に窓が並んで、東の方は突出し窓、その下に藤椅子が三つ四つ並んで打ち解けた客と世間話でもしやうとするには感じが良い、窓には眞白いレースが垂れてゐたのだと覺ねる。

南側は壁で薄い色の壁紙の下に茶色の勝つた長椅子その上に立派な羽根蒲團が二つ三つ西側が室の正面で、暖房の上に、大きな鏡が光つてゐた、室中が逆に映る。室の眞中には大きな卓があり、その周圍には何れも頗る夏向きで無い揃ひの茶勝ちの大きなふく〳〵した椅子が置かれてあつて、先づ處狹しの有樣だ、その上に寫眞帳があつたり細々した裝飾物があつたり、剛愎磊落な面影のさつぱり無い、一言にして云へば俗ッぽい應接室である。

然樣斯樣してゐると玄關で自動車の止る音がして、誰かしら奥へ入つて行つたが、大臣かしらと思つてゐると、また稍暫くして先程の女中が顏を見せて、頗る云ひ難そうに、ひさがお會ひする筈でしたが軀具合が惡るいものですからどうぞ牧野秘書官とお會ひ下さいと云ふ、一つ二つ押問答があつたが、石渡女にも此際の立場を考へて同情してやらねばならぬ點もあるし、牧野秘書官の馳け付けから考へて、到底も會へそうもないので、實は幾分失敗の結果で、牧野氏なら當方から願ひ下げですと笑ひ乍ら辭し歸つた。私は牧野秘書官馳けつけの場から、ひさ女口止めの場、奥の部屋に於ける一場の光景を考へて、歸りの俥の上で思はずくす〳〵と笑つて仕舞つた。

═ 德川賴圀侯邸 ═

一　餘り立派でない御番小屋　はゝツ暫く御待ち下され

元の天下の副將軍水戸家德川賴圀侯のお邸は本所向島小梅にあり、小梅の水戸樣と云へば誰知らぬ者もなし、門前の料亭八百松と共に向島名物の一つである。

吾妻橋で電車を降りると麥酒會社の前を抜けて向島土堤に出やうとする枕橋を渡ると直ぐに突當るのが即ち小梅の水戸樣である。青々とした樹の葉が重り合つて、石の橋を渡つて門を潜る迄は、一寸本邸のあるのさへ解らぬ位に奥まつて居るのは、流石に古い邸跡だと肯かせる。

鐵の西洋臭い門を入ると左手に門番役が住んでゐて、頗る應柄に構へて頑張つてゐる。何れは舊水戸藩士何の某であらふが、餘り榮えぬ風彩で且つ又此番小屋も決して侯爵家として恥しからぬとは云はれない位に唐紙障子などが古ぼけてゐた。一帶に美しい砂利が敷いてあつて、樹から樹へ小鳥が飛んで渡つてゐたのが眼に入る。

左側が立派な西洋館、正面がまた立派な日本建西洋館は所謂公式の客を迎へる處らしく、私の訪ふたのは、例の井伊大老上場禁止問題の時で、侯爵は赤十字社の副社長として歐洲へ旅行中だつたから、此西洋館は悉く深く窓を閉ざして、訪ふ人も無く訪はるゝ人も無しと云ふ風情だつた。

私はざく〳〵と砂利を踏んで正面日本建の式臺附の玄關に案内を請ふと、くしや〳〵に裾の釣り上つた乞れでも上の方だけは正しく折目のついた袴をはいた老人が出て來て、私がお辭儀をするのも受けず、とん〳〵と下の式臺まで下りて來て、さて、ぴつたりと座を占めてから、今度は改めて叮嚀に頭を下げて『どちらからお越しで御座ります』と云つた。

私は一寸面喰つたが、來意を告げて家令の方にお會ひしたいと申入れると、また叮嚀に頭を下げて『はゝッ、暫くお待ち下され』と奥へ入つて行つた。

二　慇々と式臺へ出迎へる人　物音一つ聞えないからね

水戸家の家令といふ人は非常に叮嚀なそしてまた話の明快に解る人できしんと袴をはいて應接室に相對してゐて氣持の良い人だ。應接室は純日本風の疊室の中へ丸卓と椅子を四五脚、卓に掛けた立派な絹布の上には煙草盆が載つてゐて、丁度何處か宮家の事務官抔の會ふ室なやうな形式の室だ

即ち公式の應接間では無く、ほんの用談を交へる室といふのであらふ。

私のゐる室の隣りにも矢張り同じやうな室があり、其次にもその次にも、長い廊下に沿ふてこうした室が並んでゐる、勿論皆が皆應接室ではあるまいが——南に椽側があつて、隣室との間の外總て障紙、明るくて美しくて、萬事きしんとしてゐるのが流石に御三家の隨一である。

私はこんな事をきいてゐた『井伊大老を禁止したのは水戸家の壓迫といふ事ですが——』と、併し家令は笑つて『脚本は芝居です史實の修正ではありません。此の意味で當家としては何等交渉も致しませんし、また其必要もありません。たゞ私個人としては、徐りに史實を誤つた常識脫れのした事柄を、其人物其儘の名に依つて芝居にするといふ事は果して良い事でありませうか、たゞこれを考へて居りました』と云ふ。實に明快なそして條理の立つた言葉だと思つた。そしてまた私も笑つて『本當に水戸家として問題にするには徐りに事が小さ過ぎますからな』と云つた。

歸り掛けると家令と共に先程の裾の上つた袴の老人が式臺まで見送つて『御歸りなされませ』といふ——水戸家は良いお屋敷だ。皆んな袴をはいて、女氣が見えない處が殊に良い。邸としては大きいのか少さいのか、一寸玄關から入つて應接へ行つたゞけでは見當もつかなかつた。只、應接室に人聲一つ聞えず、足音一つ聞えぬから察すると、どれだけ奥行があるか大抵想像はつく筈である。

═ 阪谷男爵邸 ═

一　如何にも物臭い表門構　小書生が障子を兩方へ

●飛行協會の長岡外史中將が、辭職勸告を受けてゐながら、却々ぐつしりとして身動きもしない、しかもその彈劾の問題は軍人としては頗る不名譽な金錢上の事なので大抵の人ならば夙の昔に御免を蒙らねばならぬ筈なのだが、長岡さんは知らぬ顔だ、何んでも此問題は阪谷芳郎男が、同じ副會

長として、長岡氏に辭職をされるやうな言質を反對派に與へてあるらしいので、問題の眞相を研究して置きたいと、小石川原町の邊へ行く度に訪問して見るが、掛け違つて不在でまだ一度も私邸では會つた事が無い。

電車を原町停留場で下りて左手へ入つて行くと良い加減疲勞する位も歩るいて、突當つて左へ曲ると、左側には岡田良平氏の邸があり、それからまた少し行くと、今度は右側に妙に御高貴な宮樣の方の御邸でも眞似たやうな格好の門を構えた立派な邸がある、門の内から丈の高い松の枝が見えてゐる。これこそ即ち澁澤榮一男の女婿阪谷男の住居だ。

手入の行届いた白木板の塀で、石疊を敷いた門を入ると内は細かい砂利、右へ斜に入つて日本風の玄關である。邸も日本風、塀も日本風、邸内の庭の好みも日本風、これで男爵がも少し平民的であれば申分ない事に成るのである。

玄關は餘り大きくもけば〳〵しくもなく、よく拭掃除が行届いてゐて、奇麗な寺の納所へでも行つたやうな落付いた感がする造らへだ。ペンキとか何んとか西洋臭い物をちつとも使用していないんだから、この玄關にも少し古代色が附けば申分のないものになるのだがなと、一体がクラシカルな私は、行く度毎にそんな事を思つてゐる。

右手の方に勝手があるが、邸内一ぱいの青葉がくれでそれも見えない。或日のお晝頃、私はまた例の通り、通り掛りで訪問したが、如何にベルを押しても誰も出て來ない、不思議に思つてゐると急に障子が開いて『はい』と云つて出した小書生の顔を見ると、右の頬に眞赤な皮下充血の跡を見せて、眼をしよぼしよぼさせてゐる。『はゝあ居眠りをしてゐたな』と思つて見てゐると、今度はまたも一枚の障子を開いて、また頭を下げてゐる。中には金地に黒繪を書いた衝立があつて、壁の處に何にか飛行機に緣のあるものが掛けられてゐたと思ふ。

此日もまた例の如くに不在で私はてく〳〵と歸つて來た。



〔庭園〕

日本庭園考（六）

會員　農學士　大屋靈城

三　日本庭園年表

曩に日本庭園の變遷につき其の概要を述べしが今參考の爲往古より今日迄本邦に於て造られたる名園を大凡其の建設の年代順に並べ假りに「日本庭園年表」と名づけ左に列記せん。

日本庭園年表　（乞拙著「庭園の設計と施工」參照）

第一期　太古より平城奠都迄（自紀元元年至同一三六九年）

紀元年號	庭園ノ名稱	所有者	作者	備考
一一四七	顯宗天皇三年	顯宗天皇ノ後園	用明天皇	未詳
一二三四	敬達天皇三年	橘豐日皇子後園	用明天皇同	曲水宴ノ始
一二八六	推古天皇三四年	蘇我馬子庭	蘇我馬子馬子	名園

一三二一	天智天皇元年	滋賀花園	天津ノ宮	未詳
一三四二	天武天皇一〇年	楠島宮ノ芭池	日並子智王子尊	同
一三四五	同　一三年	浮見原ノ宮御苑	天武天皇	同
一三五一	持統天皇五年	藤原宮御苑	持統天皇	同

第二期　奈良朝時代（自紀元一三七〇年至同一四五三年）

一三八〇	養老四年	淡海公山池	藤原不比等	未詳
一三八四	神龜元年	長野王苑池	長屋王	同
一三八五	同　二年	芳野離宮	充正天皇	同
一三八五	同　二年	萬間離宮		同
一三八五	同　二年	三香原離宮		同
一三八五	同　二年	紫香樂離宮		同
一三八五	同　二年	咏原宮離宮		同
一三八七	同　四年	南苑	聖武天皇	同
一三八九	天平元年	松林苑		同
一三八九	同　元年	西苑		同
一三九〇	同　二年	大伴帥の山齋	大伴旅人	同
一三九一	同　三年	大伴帥の海園		同
一三九一	同　三年	藤原麻呂園池	藤原麻呂	同
一三九二	同　四年	藤原宇合園池	宇合	同

花園ノ始名園

一三九六	天平八年	葛井氏苑池	葛井連廣成
一四〇〇	同　一二年	相樂の別業	橘諸兄
一四〇一	同　一三年	井手ノ別業	同
一四一二	天平勝寶四年	大伴氏花園	大伴家持
一四一三	同　五年	石上朝臣ノ第園	石上宅嗣
一四一五	同　七年	南安殿内苑	孝謙天皇
一四一八	大平寶字二年	中臣清麿苑池	中臣清麿

第三期　平安朝時代（自紀元一四五四年至同一八五一年）

一四五四	延曆一三年	伊豫親王別業	伊豫親王	未詳
一四五四	同　一三年	神泉苑	桓武天皇	巨勢金岡
一四五六	同　一五年	桃園右大臣ノ別業	藤原繼繩	未詳
一四七九	弘仁一〇年	雅院ノ南池	淳和天皇	同
一四八〇	同　一一年	冷然院ノ庭	嵯峨天皇	同
一四八一	同　一二年	閑院ノ庭園	藤原冬嗣	巨勢金岡
一四八三	同　一四年	嵯峨院ノ庭園	嵯峨天皇	未詳
一四八九	天長六年	雲林院ノ庭	淳仁天皇	宇仁天皇紫野院
一四九〇	同　七年	隻丘別業	清原眞人	未詳
一五一一	仁壽元年	南殿ノ庭	文德天皇	同
一五一二	同　元年	東京染殿ノ庭	藤原良房	同

名園一部現存　仙洞御所

一五一七	天安元年	西京百花亭	藤原真相	同
一五一九	貞觀元年	花山院ノ庭	貞保親王	同
一五一九	同元年	山野山荘	人庫親王	同
一五二〇	同二年	小野別業	大納言年名	同
一五三二	同一四年	河原院ノ庭	源融	同
一五三二	同一四年	粟田院ノ庭	藤原基經	同
一五三七	元慶元年	宇治別業	源融	匝
一五三九	同三年	堀川院ノ庭	藤原基經	同
一五四〇	同四年	棲霞觀別業	源融	同
一五四七	仁和三年	朱雀院ノ庭	朱雀天皇	同
一五五三	寛平五年	山陰亭ノ庭	菅原道眞	同
一五五三	同五年	紅梅亭ノ庭	同	同
一五六〇	昌泰三年	亭子院ノ庭	宇多天皇	同
一六三二	天祿三年	規子內親王野々宮	規子內親王	同
一六三八	天元元年	東三條院庭	藤原兼家	同
一六四二	同五年	慶氏ノ池亭	慶保胤	同
一六五五	長德五年	京極第ノ庭	藤原道長	同
一六八一	治安元年	西北院ノ庭	道長ノ室倫子	同
一六八二	同二年	法成寺ノ庭	藤原道長	同
一七三五	承保三年	白川離宮	白河天皇	同

涉成園ノ前身名園

一七四六	應德三年	鳥羽離宮	同	未詳	
一七四七	寬治元年	伏見山莊	伏見修理後綱	後綱	
一七五七	永長二年	萬壽寺庭	僧覺空	未詳	
一七五九	康和元年	持明院後庭	中納言基家	同	
一七七五	永久元年	富家別業	藤原忠文	同	
一七九〇	大治五年	琳賢法師大房	僧琳賢	同	
一八三九	治承三年	洲濱殿ノ庭	藤原成親	同	
一八三九	同　三年	蓬壺	平清盛	同	
一八四三	嘉永二年	水無瀨離宮	後鳥羽天皇	同	
一八四八	文治四年	三寶院山莊	三寶院僧正	同	

一八六二	建仁二年	實積寺庭	開山行基	未詳	
一八六二	同　二年	建仁寺庭	榮西	同	
一八六五	元久二年	小倉山莊	京極定家	同	
一八六六	建永元年	中御門京極第	藤原冥經	同	
一八八一	承久三年	積翠園	妙法院宮	同	
一八八四	元仁元年	西園寺北山莊	藤原公經	同	
一八九六	嘉禎二年	押小路殿庭	藤原長實	同	
一九〇二	仁治三年	伏見殿庭	後嵯峨天皇	後嵯峨天皇	

現存名園　金閣寺前身

第五期室町時代（自紀元一九八年至同二二三二年）

一九〇三	寛元年	龜山山寺	後嵯峨天皇	
一九〇三	同元年	東福寺庭	藤原道家	後嵯峨天皇
一九三四	文永一一年	東禪寺庭	龜山天皇	未詳
一九三六	建治二年	正傳寺庭	宗覺禪師	同
一九八三	元享三年	大德寺ノ庭	大燈國師	同
一九九三	元弘三年（正慶二年）	臨川寺ノ庭	夢窓國師	夢窓國師
一九九四	建武元年	常在光院庭	足利尊氏	未詳
一九九四	同	高倉第庭	同	同
一九九九	曆應二年（延元四年）	西芳寺庭	夢窓國師	夢窓國師
二〇〇三	興國四年（康永二年）	清住院庭	未詳	未詳
二〇〇四	同康永三年（貞和五年）	天龍寺庭	夢窓國師	夢窓國師
二〇〇九	正平四年（貞和五年）	高師直居第	高師直	未詳
二〇一二	同貞治元年（一七年）	三條坊門殿庭	足利義詮	同
二〇一八	應安元年（二三年）	室町花亭	足利義滿	同
二〇二九	應安二年（二四年）	大德寺塔頭德禪寺庭		同
二〇四〇	天授六年（康曆二年）	柑國寺塔頭等持院庭	足利義政	同
二〇四二	永德二年（三年）	東光寺庭	同	同
二〇四三	同康和三年	常德院庭	同	同

現存

現存

現存

二〇五一	元中八年（明德二年）	山名氏別業	川名氏清	未詳	
二〇五七	應永四年	鹿苑寺庭	夢窓國師	夢窓國師	現存（金閣寺ノ庭）
二〇七二	同一九年	岩栖院庭	細川勝元	未詳	
二〇七三	同二〇年	崇壽院庭		同	
二〇〇〇	永享一二年	龍翔寺庭		同	
二一〇一	嘉吉元年	赤松氏園庭	赤松氏	同	
二一〇四	嘉吉四年	院庭苑園	院庭直祐	同	
二一一四	亨德三年	圓月幽棲ノ庭	畠山持國	同	
二一一四	同三年	西來院庭	建仁寺塔頭	同	
二一二三	寬年六年	若王寺庭		同	
二一二六	文正元年	東山殿ノ庭	足利義政	相阿彌	
二一二七	應仁元年	楠葉幽居庭	僧同興	未詳	
二一二九	文明元年	大德寺塔頭眞珠庵庭		同	
二一三三	文明五年	龍安寺庭	細川勝元	相阿彌	現存
三一三五	同七年	理性院庭		未詳	
二一三七	同九年	清水寺庭	坂上田村麿	相阿彌	現存
二一四〇	文明三年	慈照寺庭	銀閣寺僧	正同	現存
二一四一	同一三年	清泉寺庭		未詳	
二一四三	應仁元年	梅花無盡屋ノ庭	僧周九	同	美濃國
二一四五	文明一七年	靜勝軒ノ庭	太田道灌	同	

二一四六	文明	一八年	禪昌院ノ庭	細川勝元	未詳
二一四八	長享	二年	漆桶老人萬里ノ庭	僧周九	同
二一六四	永正	元年	豐原里庵ノ庭	大内義隆	同
二一七〇	永正	七年	僧尙柏夢庵庭		同
二一八六	太永	六年	美竹齋ノ庭	伊勢美竹齋	同
二二〇三	天文	一二年	染井藤堂別業	染井藤堂	同
二二一三	同	二二年	叡山榮光坊庭	僧宣祐	同
二二一八	永祿	元年	南陽寺庭	朝倉義景	同
二二二八	同	一一年	本國寺塔頭眞如院庭	足利義照	同
二二二九	同	一二年	二條離宮	織田信長	同

二二四七	天正	一五年	聚樂第ノ庭	豐臣秀吉	未詳
二二五〇	同	一八年	本法寺庭	本阿彌光悅	本阿彌光悅
二二五一	同	一九年	桂離宮	一品式部卿仁親王	小堀遠洲
二二五一	同	一九年	滴翠園	豐臣秀吉	未詳
二二四五	文祿	二年	伏見城之庭	同	同
二二五五	同	三年	三寶院ノ庭	同	小堀遠洲
二二五六	慶長	元年	芳春院庭	玉室和尙	未詳
二二五八	同	三年	高臺寺庭	湖月尼	小堀遠洲
二二六二	同	七年	涉成園	教如上人	同
二二六二	同	七年	丸山左阿彌庭	同	正阿彌

第六期　安土桃山時代（自紀元二二三三年至同二二六二年）

現					
存				越前國	

（續く）



『都市』

將來の『市加古市』（4）

ウオルター・デイ・ムウディ著
Z Y 生譯

第三章　都市計劃とは何である？（つづき）

都市計劃を販賣上のことゝして觀れば、之れは都市計劃に對する人々の興味を喚起し、渴望を遣り、ヨリ良き事物に向ふ精神を刺戟し、而して其等を實現する人間の活動を鼓吹す可き道に關する問題となる。先づ斯の目標に全力を打込むべきであり、新しき方法を用ふ可きである。今日文明時代に於ては商業家は第一歩として、顧客の昏睡と無頓着てふ障害物を征服し去る迄は、目的を達し能はぬことは明白である。米國に於ては都市計劃を妨ぐる反對はないが、無識、無頓着、因循、先見の缺亡てふ如き障害がある。これ除去す可き山々である。成年者諸君をして都市計劃の智慧に信服せしむるは困難であり。併し現在の困難を在りの儘に言へば、第一に彼等をして諸君の議論に對して、眞面目なる注意を拂はしむること、第二に此議論によつて彼等が確信に達せし時に之れを實

行せしむることにある。市加古市の大計劃を、未來に實現する爲め事業の基礎としては、即ち上記の觀念の上に立脚して新なる方法を用ふるにある併しヨリ重大なる凡ての問題の究極の解決策は、今日都市の兒童に、諸都市の未來の所有者たる、又市政の運命の全權者としての責任に對する、敎育を施こすことにある。

最近數年內に米國諸都市に如何に驚く可き變化が起りしことよ。社會的正義に對する要求が、吾人の頭上に臨んでゐる民衆は我等諸都市の凡てに於ける、惡しき境遇より救はれんことの爲に喧騷してゐる。新生の日が米國の都市に明けそめた。併し我等の學校にて良市民を造るために蒙を啓き、ヨリ高き理想の實現に向つて市民を發展せしむる道を備ふるに非ずんば、黎明を來らせるわけにはゆかぬ。



チヤールス・エイチ・ウエイカー氏
市俄古市計畫委員の永久の議長

米國敎育組織の本領は、頭腦の訓練と强健の躰格とが、ヨリ高き靈魂と良心との發達と相俟てる市民を造り出すことにある今や市民はその義務の一日として、第二國民の幸福に注意し、又己を保護し發達せしめる隣人と市に對する義務を、若年の時に自覺せしむる樣に敎育してあらねばならぬ時に到達してゐる。かゝる正しき市民が、都市計劃に關

して、欠く可らざる必須物である。

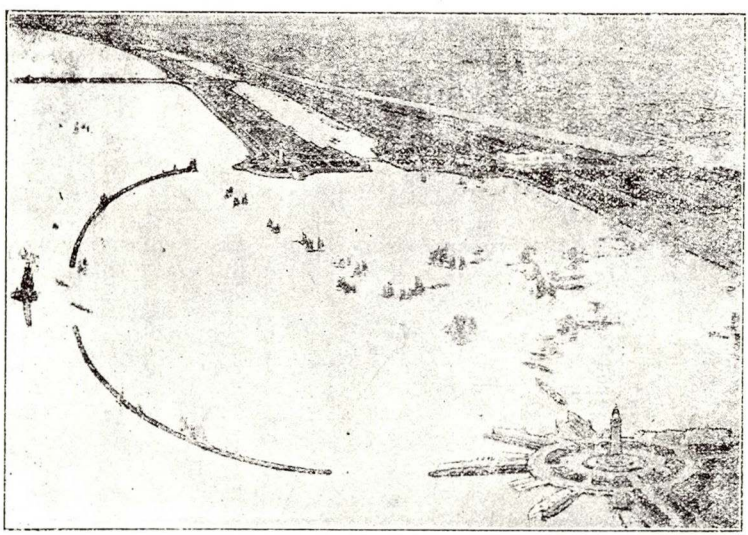
都市は今や國民を支配するの時代となつて來た若し愛國心を維持せんと欲するならば、次に來る國民の中に、良き秩序、清潔、正直、生理的生長政治的働きに、經濟的なる都市に對する衝動を創造することによつて、愛國心の發達と敎養とを始めねばならぬ。その目標に達する最も根本的の行路は、公衆學校にある。それを成就する最良の機關は、都市計劃の諸要素をもつて、兒童を敎育することにある。

我諸都市はヨリ良き狀態を獲得するために協力して居る。羅馬アゼンスの有せし光榮は、彼等市民中に市に奉仕するの熱中的精神を創造した結果である。己の市を誇り市に忠誠なる精神を養ふ事業は、少年少女の時代より始むべきものなるは、殆ど疑の餘地がない。都市計劃事業は都市の建造と同樣に古き科學であり、住宅に對する計劃と同樣に單純である。唯後者が單に我等個人の家庭を取扱ふに反し、前者が我等のヨリ大なる家庭を取扱ふの相違あるのみである。現代米國人の中に多くの事が成就され得やうが、未來の都市の建造は我等の掌中にはない。米國兒童の頭腦と心の裡とにある。米國都市の新生と米國民の保存とは敎育せられた市民として認明され科學的に創造せられた市民の努力と意志より生るべきである。

自己の都市を清潔に、住むに心地好き場所とする企を助くるは市民の義務たるのみならず、居住地、非居住地何れにせよ、各人にとりて引着力あるものたらしむ可く投資するは、光輝ある業である。その結果毎年他地に流出する莫大の金額の幾分を、其市に保留することゝもなるのである。將來の大都市を生まんとする計劃の動機は、壯麗なる建築其他の事業を起すといふに止らず、之れよりも遙に深い大なる動機に基いて居る。民衆の現在に於ける社會的智識的道德的建築事業を表現するものとしてのみ、又都市のヨリ優秀の典型を順次に發展せしむる道を開く限り、都市計劃てふものは意義あるものである。ウエイカーが說破せる如く、都市計劃即ち『人間建築』である。これによつてむさくろしき工場地の生存から、美はしき域

に引上げられ、心引かるゝ周圍により、人生の事物を高尚ならしむることに與らざる者がどこにあらうか。美はしき公園、秀麗の山々、相當に明るい鋪石せる、陰多き樹木もつて十分に備へある完備せる街路の喧騒と不潔と混亂からの救濟——凡て斯るもの又その他のものは將來の偉大なる都市を造るのみならず、市に住する全民衆に幸福と繁榮とを與ふる要素の一である。都市の理想はその市を單に商業的に工業的に優秀ならしむる以上に寄留者にも富者にも貧者にも等しく住むに引着力あり、平等的の家庭たらしむる樣現在よりも引上ぐることにある。

如斯都市は都市生活が與ふる最善の一切の便利を提供する都市を求めつゝある民衆の群を引き着けるのみならず、市民が當然己の都市が與ふべきに與へざるため、その便利を他所に求め行く者を幾分か減せしむることが出來る。市民中の富者階級は何等かの團躰によつて完備せる並木街路、遊歩街路の部分に美はしき住宅を建て得るに、通常の家庭の周圍から、最も僅少なる慰藉を享ける爲に巧妙なる計劃をたてる可き援助を與ふる團躰も金もない下層階級は如何になり行くであらうか。



市俄古市の玄關たる將來の大公園の鳥瞰圖
（提案の中案と提案中の公園たるべき濱）

最も劃の惡い地域の住民の利益は、他のどの階級地域よりも、以上に保護せねばならぬ。彼等及び彼等の子孫は聰明なる米國勞働階級の脊骨をなすものであるから、殊に左樣いふ必要がある。

第四章　米國諸都市及びその成長、缺亡、危險

今日世界國民の運命は一にその諸都市の運命にかゝつてゐる。昨日は——五十年前——即ち國民の生活に於ける昨日——合衆國民の百人中の七十七人は田園の居住民であつた。今日は百人中の五十四人が都市に住居する割合となり、更に大集團は諸都市に群れ來つて居る。都市民は國家の事象に關し卓越せんがため田園民と共に互角の競爭を爲て居る。その都市より何を生ずるか。國民の最大の遺產（都市民の健康と幸福）の能率を增加させることによつて國民の富を增進せしむるに勝る賢明なる途はない。國民の生活は即ちその國民を形成するその民衆の生活である。その民衆の生活が廣くなり發達するか、或は賤しくなり屈するかに比例して、國民生活も大きくもなり矮少にもなる。南北戰爭時代に合衆國は剛健、强健、正直、能力ある田舍人によつて養はれ來つたが、今は田舍も都市も等しく政治家海陸軍人公吏を供給する國民の倉庫となつて居る。斯る互角の提供が國民生活上に如何なる影響を及ぼすか——之れは健全であるか、又衛生的であるか、國民は男性的强力を有するか。その赤血球は正規の勢を增進する迄清さを保つて居るか。或は白血球の力衰へて貧血病が血管の中に巢喰つて居るか。これに對する答は諸都市に於て發見してある可きである。

準備——大戰は斯の言葉に新な又別樣の意味を與へた。米國は肉躰、靈魂、精神上の準備がなくてはならぬ。明日の第一流國民は强い男性的人格から成立する國民でなくてはならぬ。世界の未來が平和にせよ亂れ騷しきにせよ、强き男性的人格の國民が支配するに至るであらう。明日の世界が國民間の機智の鬪によつて始るも、又は新い更に怖る可き腕力の爭鬪によつて始るも、兎に角强き者が生存し得るであらう。而して斯る强き國民は都市に於ける民衆の爲に多くの備をなすよりして

得られる。

今日迄米國諸都市は、海綿の如く彼等の市民を空虚にして行つた。潮の如き旅行者が米國から歐洲に往つて、千九百十二年の證明によれば、遊覽者の蓄藏せる黃金を引着し保取す可く米國諸都市の勸誘が如何に寡少であつたかが解る。同年佛國は米國旅行者より六千萬弗を得た。瑞西は一千五百萬弗、伊太利は一千萬弗を得て居る。米國諸都市の男性的人格は、健康恢復のための適當の方法特色ある文學、萬人が容易に入場し得る音樂の援助によつて、强健に生長せねばならぬ。藝術と科學との聯合は容易に成就することが出來る。若し國民をして衰退墮落、崩壞の原因となる處の諸事物の追求や娛樂に行くことを防がうと思ふならば產業的であると同時に敎化的で、心理學的であると共に衛生的である產業的敎育その他の一般職業的敎育、自己進步の凡ゆる方法を、市民に供給せねばならぬ。良市民を造らんと、思ふならば、斯くせねばならぬ。又それも各人の手が容易にとどき得る施設でなくてはならぬ。これ市が市民に負へる負債で——餘りに長く支拂はずに居る負債である。若し國民の肉躰的、道德的、精神的破產を禦がんとならば、速に支拂はねばならぬ負債である。斯る施設を欠く結果は、我國民的財源と男性的人格とを破產に瀕せしめ了るが、其事の急激なる又その結果の恐慌的なる、大戰のため世界の國民が背負へる稅的負擔とは到底比較にはならぬ程である。治療の方法は唯都市計劃を樹てゝ健康恢復の爲の方法と有益なる業務とを市民に供給する外はない。これ我國民の身躰、靈魂、精神を强猛に發達せしむることであり、而してかゝる國民は唯科學的なる都市計劃によつてのみ發達せしめ得られるのである。

上記の志望の背景をなすは、又國民の成敗如何は其商業に關係して居るといふ事實である。繁榮せる商業は正當なる膨脹を助長す可く、不振なる商業は膨脹せんとする努力を阻止す可きである。當然ある可き筈の都市に改築する事業は、畢竟容易にして成功せる商業を一層進步せしめんとするに外ならぬのである。都市を正しく改善し組織立

てることは、交通運輸を便にし、商業を助長することである。或種類の運搬を膨脹せしめ便利ならしむれば、何時でもその爲に商業は益を受け膨脹してくる。公園、遊戲廣場、娯樂用棧橋、海水浴場を設くれば、一般公衆の健康を增進することによつて、國民の能率を助長する。商業はその副産物となる。

千九百十七年三月合衆國最高法院が四對五の投票によつて、アダムソン法を支えた。同法は鐵道從事員に平均一日八時間、若しくは八時間に價する勞働に對し十時間の賃金を支拂ふといふにあるのである。若し斯の法律に從ふならば會社は一年に五百萬弗の失費を加ふることとなると計算せられて居る。アダムソン法の國會に提出せらるゝや、全國の商業界は代表委員を設け、鐵道會社、鐵道從業員双方の利益になる可き樣に同問題を解決せんとする目的にて、仲裁局の設置を得んと企てた併しその努力は失敗に歸した。一般にはアダムソン法が最高法院によつて、國法として通過せしめられないであらうと思つて居たが、四對五の投票によれる裁定は今は既に歷史的のものとなつた。忽ち鐵道會社は、五パーセントの運賃値上の特權を得て、頭上に加へられた五百萬弗の重稅を相殺し、且つは事業發展に必要なる資本を得んとする目的で、全國商業會議委員會に聽訴をせんと助を求めて來た。私は此論爭に際し鐵道會社の方へ加擔はしなかつた。私は鐵道從業員の側が正しいか否かは判らない。よし一步讓つて正しいにした處で、思ふに我國近年の處置が法律を制限して資本家を惱ませ、延いて自然の發展と膨脹とを阻止して居ることを知つて居る。勞働對資本の全局に於て逆理的な或物がある。私一個の意見としては、斯の問題に關する双方側の思想も要求も修正す可き十分の餘地があると思つて居るが、又大工業會社の力を適當に正しく膨脹させることによつてのみ勞働を供給し賃金の低落を防ぐことが出來るといふことも、勞働者側として考ふ可き事實である。膨脹が制限せらるゝ時に、勞働は市場に於て不捌品となる。其當時鐵道行政部が救治せんとしたその物が、後に政府が鐵道を支配する樣になつてか

ら救治された。戰時狀態のために、忽ち運搬賃が廿五パーセント値上せられ、旅客賃も——私有鐵道當局者はその意志はなかつたが——思ひ々々に値上せられた。之れにも拘らず、初年の決算は著しい缺損を示して居る。今や全米國は知るに至つた、(政府當局者は最もよくこの事を知つて居る)宣戰布告してより間も無く、如何に我國の鐵道は恐る可き妨を受けて居るかを。その原因は戰前長期間制定せられ居たる、妨害的な阻碍的な立法のために、鐵道交通利便が妨げられ阻ばまれて居たことに歸因する。

千九百十七年合衆國の食糧不足し、その價格が如何なる方面にも先例なき迄に暴騰したが、斯る狀態を惹起した責は、唯食糧不足にのみ歸する譯に行かぬ、鐵道運送貨車の積集は、非常に目に立つて居る。斯の点に就て『シカゴ・ドリビューン』は社說に以下の如く言つて居る。

『食糧危機とその暴騰とは鐵道運送の甚しき失敗のために一層複雜となれり。正に我帝國の政治は變更してある可き筈なり。國民は責任ある食糧トラストの組織を許可するに非れば、食糧價格の自由を期待すること能はず、鐵道膨脹を許可するに非れば工業膨脹の重き負擔を鐵道が堪ゆるを期待するを得ず。我等は鐵道を蹴り、トラストを誹議す。その結果は必然に分配組織の混沌を招かざるを得ず。組織を總明に整頓なすことをせず、反つてこれを責むる思想に浸潤する間は、少數の責任ある制度の代りに無數の無責任なる投機者を出す外あらざるなり』と。

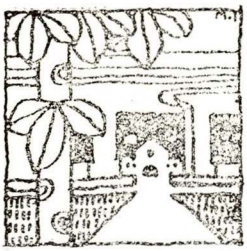
我政府は鐵道を保護し、その膨脹をはかどらせる必要を認むるを、頑固にも拒絶して居た。若し必要なる統治機關を設けなければ、經濟的疾病に對する責任を歸す可き者が明でないのを了解することが出來なかつた。調整す可き機關の設置を許可されないのであるから、如何に望むとも價格を調整するとは不可能である。又鐵道の延長を許可されないのであるから貨物運搬の完全を鐵道に望むことは出來ぬ。現在の如き食糧の狀態は、先見の明を欠く結果として實に不可避的のことである

唯一つ確實なことがある。即ち政府が鐵道所有者側勞働者側を共に自由に敎育することである。その結果は如何。鐵道公營か、或は政府が現在の所有者を同情をもつて取扱かの孰れかである、後者が最も賢き策と思はれる。米國は今は鐵道公營に對する準備が出來て居ない。此運動を五十年間續くるも、用意は不可能である。鐵道公營は劃一主義に陷る可く、劃一的米國企業は、眞實の進歩に對しては吊鐘に外ならぬ。歐洲に於ける官營例へば伊太利の如き不滿足な結果を證明して居る。大戰突發と共に、伊國は鐵路を元の私有者に返却せんとする計劃を樹てた。

或大都市若くは或團躰の生產活動には、どの業務にも伴ふ如く、或重荷を負擔せねばならぬ義務が生ずる。病氣又は死を防止する爲團躰が被る負擔は(團躰全躰として負擔す可き)殆ど百萬弗といふ甚しき重量になつて居る。合衆國にて腸窒扶斯だけの豫防失費のみにても六億弗に達して居るとの計算である。公衆はその各一弗を負擔して居るのである。これより大に生產活動を發揮せんとする頭初に、死の爲に倒され終つた樣な人々、或は健康を害せる或は廢疾となれる狀態にある人々は必然に團躰の上に責任がかゝつて來るのである。

都市を理想的に築造するによつて得る衛生上の價値如何は、市カ古市排水溝渠の建造がこれを說明して居る。市加古市の衛生委員は以下の如く述べて居るが、その言は確に權威がある。即ち若し溝渠の築造さる前にあつた窒扶斯病死亡者率が、溝渠築造後の千九百十二年迄同率を續け行くならば、その損失は七千六百萬弗に達するであらう。即ちその失費は溝渠築造費を支拂ひ且つ他の工事を起し得ることとなる。更に件の溝渠の完成された時と千九百十二年との期間に、一萬五千の市民が件の疾病より免れ生命をとりとむることが出來た。これ七千五百萬弗てふ一時の價格を示すものである。(つづく)

× × × × ×



〔談叢〕

生活の改造として何よりもローマ字を

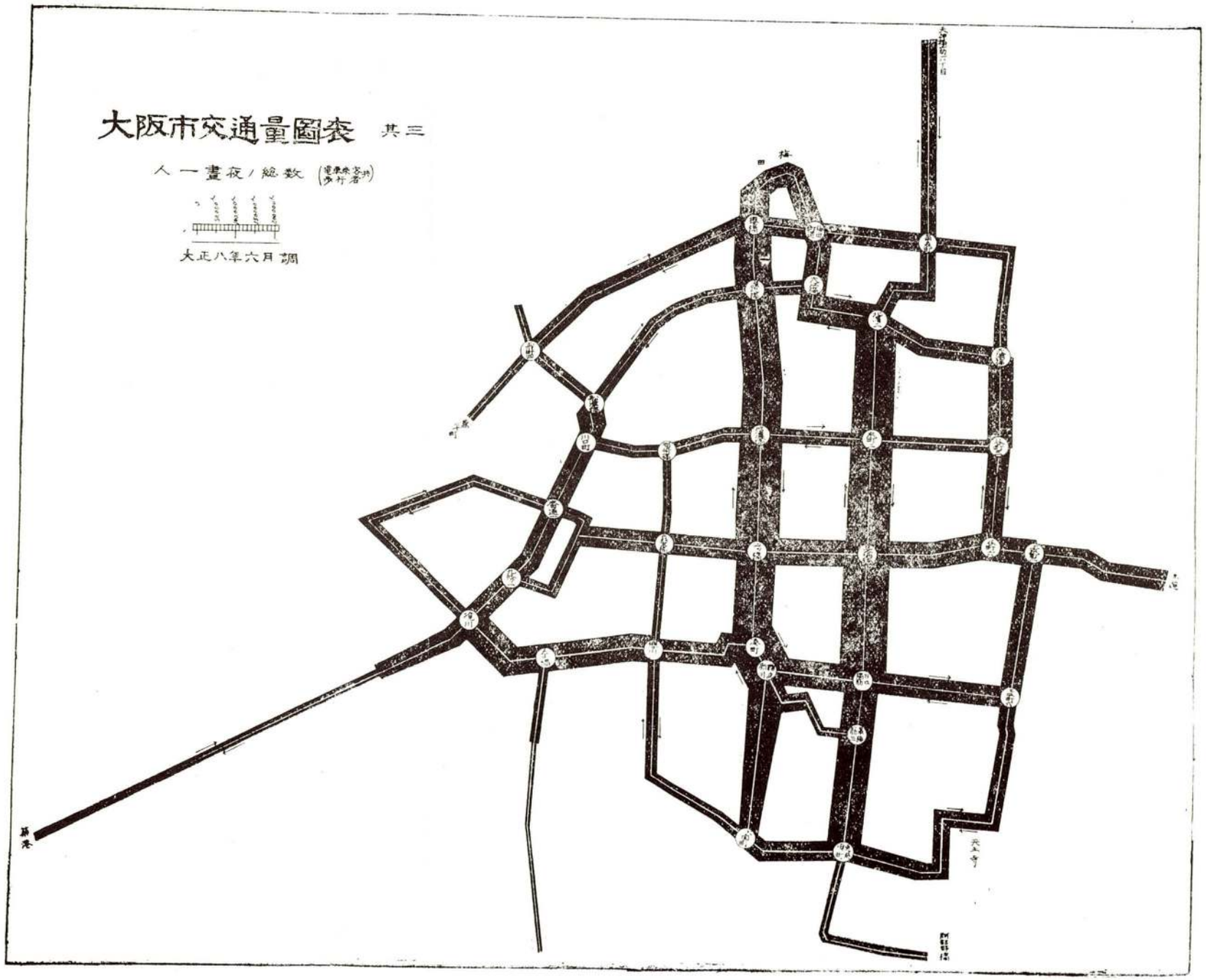
醫學博士
櫻根孝之進夫人
櫻根たか子

忙しい家庭内の仕事に追ひまくられてゐる〳〵世間といふものに接する時間も、考へる餘裕も眺める暇もないことをお恥しいと思ひます。先に生活改造博覽會には一寸寄せて頂きまして益することが多うございました。色々多方面に私達の努力しなければならないことの澤山なのを感じます。

家庭内の主婦として女としての仕事も、隨分細心に氣をつけましたら、まだ〳〵不注意な點や、見逃がしてゐる大事なことも多からうと思ひます私は宅の家内の人數が多い上に、月一回ローマ字の講習會も開いたり、夏期休暇の間は、殊に入れ替り立ち替り講習會の關係の方でお客樣が多いものですから、大方はその方の忙しさに追はれ勝ちでございます。改造とでも申しましたら、先づ形に現はれましたるよりも、何しろ私方ではもう數年來ローマ字普及の方に一生懸命になつてゐるも

のですから、殆んど理想論から出た根本の思想から築き上げて行かうといふのですから、大變に實現の上にも困難でございます。でも流石に年々にその普及の範圍も廣くなつて參りました。宅でやつてをります外に、今年抔は暑中休暇を利用して講習を受けたいといふ希望者の團体が、七ヶ所から申込みがございました。その階級は店の番頭達や職工達や其他種々有るらしうございますが、その爲めに講師は丁度京都から大變熱心な小學教師の方が宅に泊つて毎日方々へ出ていらつしやいますが、午前中と午後から二回、夜分にも又一ヶ所といふ風に一日に四回も教壇に立たれるといふ始末なのでございます。

何しろ、尋常一年に入學するなり、いつまでも〳〵學業に在る間、難解な煩らはしい漢字を無理に詰め込ませられる爲めに、どれ丈け、年少者の大切な頭腦が痛められてゐるかといふことは考へるまでもございません。西洋の小供達がわずかアルハベットの二十六文字習へばその後は、それを基礎として、どん〳〵外の智識を得てゆきます。それだのに、日本の小供は支那と同樣、益もない漢字の暗誦の爲めに、智識の收獲の程度はすつと低いのでございます。本當に、日本の文學の改良は、目下の急務だらうと存じます、中橋文相等は特にローマ字の普及にも御自身丈けは熱心な贊成者でいらつしやいますので、いづれはその目的に近づくことも餘り困難ではなからうかと思つてをります。今年等は選擧の投票にローマ字を使つたものがあつた事抔も面白い現象だと存じます。私方もいづれローマ字學校を建てたい希望なのですが、先づ、最初は小さな財團法人等にして俱樂部のやうなものから追々築いてゆきたいと、只今その許可を出願中でございます。家庭内——と申しましても取り立てゝ申し上ぐる程のものもございませんけれども、何しろ家中が今のやうなわけで臺所にもちやんと女中達の爲めに紙に書いたものを貼り出してありますので、熱心な女中になりますと、一字も知らなかつた者が一週間程で覺えてしまひます。只今では立派に手紙等も書いてゐる

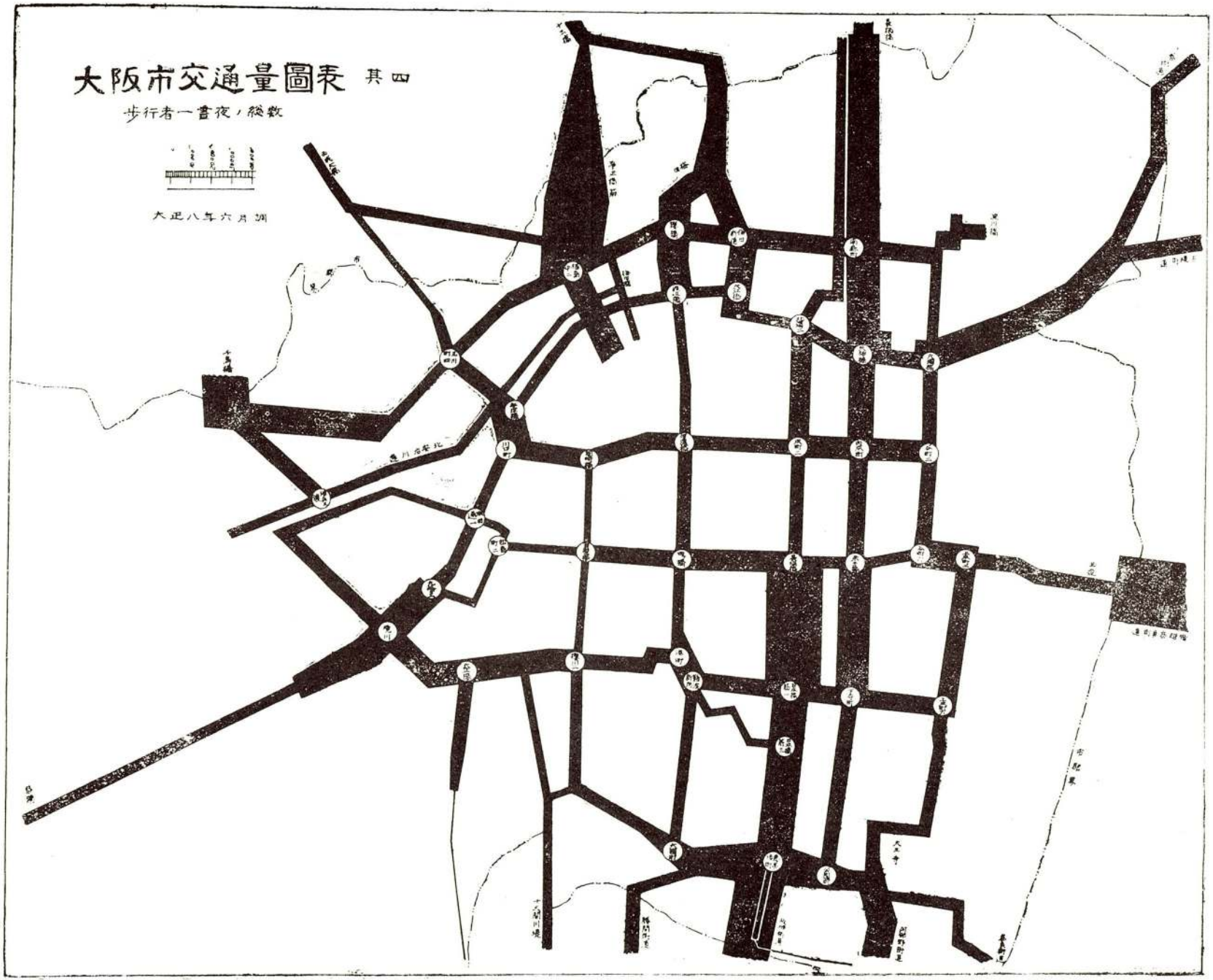




〔資料〕

大阪市都市計畫參考資料 (其六)

(VIII) 大阪市交通量表 (三、四)


大阪市交通量圖表 其四
歩行者一書夜ノ総数
大正八年六月調

ようでございます。何分にも人の出入りが多いものですから、臺所はかなり忙しうございます。以前は惣菜物等も出入りの八百屋抔から取りましたが、只今は、五日に一度位、天満の市場へ買ひ出しに行きます。講習會の例會の日等、その方のお客樣で十人分位ひは揃へねばなりませんのですが料理は一切外から取り寄せることは避けてをります。不器用ながらも料理の本抔もみたりして宅で致します。その爲めに經濟の點から申しましたら殆んど、取り寄せるものゝ半値程で結構出來上るかと思ひます。

私も、もう子供のお嫁入りにも一度ならず手を染めましたし、今又、私の姪の爲めに仕度最中なのでございますが、之れに就いて少し感じましたことは、要するに家庭に入ります女性の爲めには何よりも家庭的であること、主婦としての立場を第一義的に考へて敎育もしてやらねばならないかと思ひます。趣味も結構、お稽古等も結構、ではありますが、度を過ぎて贅澤や見榮に流れてゐる傾きが世間にまゝ有りはしないかと思つてをります。無論、生花等の家庭にあつて實用的趣味的である上から、是非子供達にも一通りは敎へて置きたいと思ひます割には、家庭の主婦としてしよつちう音樂等に浮き〳〵してゐることも如何なものかと思ひます。

矢張り、賢實な婦人、賢實な主婦である爲めには、身分、程度、といふ程を忘れないやうに有りたいと存じます。（婦人記者）

『愛』

△興ふるにも受くるにも兩つながら快きものは愛なり。（シエリー）

□

△愛は清潔ならざれば決して深かるを得ず。（カント）



「紹介」

住宅改善の方針

一記者

左の一編は、生活改善同盟會に於て、住宅改善調査委員會が我邦の住宅改善に關する大體方針を決定せるものに係る、今や我邦は凡ゆる方面に改造を叫ばれ、殊に生活問題中住宅改善の如きは最も重要にして、或は生活其ものゝ基幹問題たらざるなきかの感あり、朝野具眼の人々によりて漸く斯問題の注意せらるゝの傾向ある今、斯の一編を江湖に提供するは、正に生活の一要件に對する改善方針を提ふるの機會を供するに在なり、敢て薦む。（一記者）

□住宅は漸次椅子式に改めること

我が邦に於ける現在の住宅を見るに、座式に依るものは其の取扱に數多の手數を要し、且つ自由の活動に適しませぬので、徒に時間を浪費し、仕事の能率を減殺することが少くありません。又之を衛生の上から見ましても不利の點が寡だ尠なくないのであります。殊に近時に於ける一般生活法の變化に伴はないので之が爲め二重の生活を餘儀なくし、隨所に矛盾撞着を來たしつゝあることは、我々が日常經驗する所であります。然るに椅子式は今日世界通有の生活法で、歐米諸國は勿論、隣邦支那の如きも悉く此の樣式を採つて居りまして、これには幾多の長所があるのであります

勿論永年親んで來た在來の習慣を捨てることは、居住趣味を全く奪はれる樣な苦痛を感ずることが無いでもありませんが、諸般の生活樣式に關する改善進歩は、獨りこの座式のみを永く此の儘にして置くことを、最早許すまいと思ひます。

他邦居住の歷史に於ても、一時座式の行はれたことが無いでもなく、又我が國の古代に遡つて見ましても、中古以前は必ずしも今日の如く全然疊敷ではありませんでした。此等の事實は國民の習慣や生活樣式が時代によつて變化し、決して固定的のものでないことを證明するに足ります。更に本邦今日の實際に徵しましても、公共的建物は殆ど椅子式であるし、中流階級の住宅にしましても、書齋應接間等は漸次椅子式に又臺所は立式に變りつゝあります。尙又寢具食事等の樣樣を見ましても同樣追々變つて行く傾が認められます。勿論斯の如きことは經費の都合や、趣味の關係で、急に其の實現を見ることが困難でありませうが、今日の趨勢に鑑みて將來を豫想しますと、其の必ずや椅子式の廣く行はれる日の來るべきことは明かな事實であります。故に椅子式を將來の目途と定め漸次住宅改善の歩を進めて、之が實現を期さなければなりませぬ。

□ 住宅の間取設備は在來の接客本位を家族本位に改めること

在來の住宅は接客本位

本邦の住宅は間取及び設備が大體封建時代に發達したもので爾來殆ど進歩改善の跡を認めることが出來ません。即ち徒に外觀式を過重致しまして、寧ろ家族生活を輕視した接客本位の居住樣式を其の儘繼承したものであります。隨つて本邦の住宅には家族の日常生活を愉快ならしめる工夫設備が頗る乏しく、却つて舊慣に囚はれた居住の樣式と之に附隨する生活法との爲めに、常に非常な不便と不快を感じて居るのであります。

住家の間取設備は常住の室を主とし客間を從とすること

將來眞に意義ある生活を營まうとするには、先つ以て上述の如き接客本位の居宅に改善を加へて、多年の因襲から脫しなくてはなりませぬ。彼の客間に對しては住居の樞要な部分を充て、眞好な方位に於て、多大の面積を割き、過大の設備をして居るにも拘らず、茶の間居間等常住の室に對しては、其の位置及び面積に於きましても遠く客間に及ばず、僅に附隨的たるに過ぎない樣な從來の通弊を矯めることは、實に今日の急務であります。故に將來の住宅は客間及び玄關よりは、寧ろ居間食事室寢間竈所に重きを置いて家庭生活を大に愉快にして、常に清新の氣を漂はせることを主眼としなければなりません。即ち此の新方式に依つて其の間取を定め或は設備を行ふ事に一層の力を用ゐなければなりませぬ。殊に小住宅では接客用の特別の室を廢め、居間寢間及び竈所等に充分な面積を充て、それに出來るだけ便利で且つ衛生的經濟的な設備をするやうに致したいものであります。

□ 住宅の構造及び設備は虛飾を避け衞生及び防災等實用に重きを置くこと

在來の住宅は虚飾に偏する嫌があること

本邦在來の住宅構造は徒に舊慣形式を墨守し、妄りに工作を繁鎖にし、或は無用の部分にも美材を使用する等、之が爲め無意味な失費を要することが少くないのであります。故に今後斯様な舊慣形式を排し、專ら清新な趣味と自由な工夫に重きを置き、一切の虚飾を避けて成るべく浪費を省くことは、今日の一大急務であります。

住宅の構造設備は實用を主とすること

在來の住宅は餘りに外觀虚飾に偏した結果、住宅としての實用的方面を閑却した傾があります。隨つて住宅に必要な防寒防暑の用意、耐震耐火及び盗難に對する防備、並に保健衛生に適する構造設備等に於て大に缺けて居る所があります。故に將來の住宅に於ては、此等の缺陷を除き、家屋をして眞に能く其の居住の目的に適し、充分安慰を求め得られる場所とすることに努めなければなりませぬ。

之を要するに、在來の建築は餘りに舊慣に囚はれ、科學の應用を閑却して社會の進歩に伴はない傾があります。將來の住宅は宜しく實用を主とすることに力めると同時に、趣味の方面にも深く顧慮して、住宅としての職能を充分發揮させるやうに致したいのであります。

庭園は在來の觀賞本位に偏せず保健防災等の實用に重きを置くこと

本邦庭園の通弊

在來の庭園は其大小に拘らず、一般に築山泉水の樣式を採り、觀賞を本位として居ります。殊に住宅が一般に接客本位でありましたので、庭園も亦自ら玄關客間等に面する部分を甚だしく過重視した傾があります。其の結果在來の庭園は家族の休息運動等に適せず、其の實用的價値を全く沒却して居ります。殊に在來の庭園は多年の因襲形式に泥み、迷信に囚はれ、科學の應用を怠つて居たので自ら住宅の採光、通風、防火、防塵排水等の方面に多大の不利を來たして居ります。

在來の庭園に見る缺陷は單に此等の諸點にのみ止まりませぬ、經濟的方面に於ても、亦大に缺けて居る所があります。即ち果樹蔬菜、花卉等の栽培、養鷄、養蜂其の他の實利的應用を怠つて居ります。且つ其の庭園に使用する、材料や局部の構造等に於ても一般に外觀に囚はれ、虚飾に流れて居るので、之が設備及び維持に多額の經費を要します。之が爲め頗る經濟的生活に適せず、時代の要求に遠ざかつて居ります。

庭園は家族本位に設備すること

庭園は在來の接客並に觀賞本位に偏せず、寧ろ家族全體の利用に重きを置き、其の地割の如きも住家の間取と親密に關聯させて、常住の居室に面する部分を全庭園の中心にしなければなりませぬ。又在來の築山泉水式に偏しないで、主婦子供等の爲めに芝生、綠蔭、花圃、菜園、砂場等の如き設備を爲し、之と同時に日蔭地、空地及び空間の利用に努め特に塞所廻りの整理を行つて、其の不潔や亂雜を避ける樣に工夫することが大切であります。

庭園は成るべく開放的にすること

在來の住宅は一般に墻塀を高くして割據的の弊がありますが、將來は家屋の改善と相俟つて成るべく街路から透見し得られる樣にし、村落市街の美觀を增す

ことに努めなければなりません。

□ 家具は簡便堅牢を旨とし住宅の改善に準ずること

家具は其使用の目的に適し體裁好く構造を堅牢にする事

家具の改善に就きましては、從來之を試みたものが無いでもありませんが、徒に外部の工夫に沒頭して、全體の改造に努力するものが尠なかつたことは甚だ遺憾であります。家具は一般に其の使用の目的に適すること、外觀體裁の醜くないこと、構造の堅牢なこと等を必要な條件とし、從來のものに比べて、一層有效便利なものでなければなりませぬ。

折疊式又は兼用式の家具は、一般に空間の節約になり、且つ使用に便利でありますから、之を推奬したいと思ひます。

特に兒童用家具の改善に注意すること

兒童用の家具を椅子式に改めるべきことは、彼等の本性に顧みて寧ろ當然の要求でありますから、其の改善には特に留意したいと思ひます。尙ほ改良家具の使用は成るべく子供の幼少の頃から始めるやうにし、其の年齢に應じて意匠と寸法とに注意しなければなりませぬ。

□ 大都市では地域の狀況に依り共同住宅（アパートメント）並に田園都市の施設を奬勵すること

共同住宅

本邦在來の住宅は、市内に在ると郊外にあるとを問はず、一般に經濟的生活に適しませぬ。殊に大都市では市街の急激な發展と地價の著しい昂騰の爲めに、住宅が櫛比して、採光換氣等衛生上の缺陷が多いので、健全な簡易生活に適しませぬ。然かも一方に於きましては都市内に居住すべき必要がある者、並に都市居住の利便愉快を欲するものが益々多きを加へる情勢にあります。故に今日大都市の斯かる情勢に在る地域に對して、適當な共同住宅の建設を推奬することは、頗る其の當を得たものと考へます。

共同住宅の利點は、建築費の節減、共同暖房其の他衛生上設備の簡易安値、廣濶な庭園及び堅牢安全な家屋の共有等にあります隨つて比較的少ない使用人で、或は全然使用人の手を借らないで衛生的に而かも、便利に愉快な簡易生活を營むことの出來るのは即ち其の特色であります。そして之が實施は獨身者及び小家族に對するものを先きに致したいと思ひます。

田園都市及び郊外住宅區

近時郊外の發展が意外に急速であります。其の結果住宅及び道路の建設等が未だ統一的計畫の下に實施せられる運びに至りませんので、之が爲め生活上の利便や居住の情趣の減殺せられることが頗る多いのであります。然るに田園都市及び郊外住宅區は田園及び近郊の一區域に住宅、商店、學校病院、公園、道路、廣場等を適當に配當したもので、家屋間取の自由、庭園の豐富、空氣の新鮮、風景の佳美は勿論、建築費及び生活費の低廉、共同設備の利用等、其の特點として擧げるべきものが甚だ多いのであります。之に依つて精神上の慰安と生活上の安定を得ると同時に衛生上に好結果を齎らし、死亡の率を激減することは、統計の既に明示する所であります。故に大都市では特に田園都市及び郊外住宅區の施設を推奬する必要があります。

□□□在須磨西尾氏本邸新築工事概要

一位置　須磨寺上平林

一建物坪數

平面坪　百二拾坪壹合壹勺五才
（壁眞々坪）

但

地下室　百九坪七合七勺七才
一階　百二十坪一合一勺五才
二階　百四坪四合〇三才
塔家　三階　九坪
四階　四坪
外ニ　テレス　一ケ所

一工程

着手　大正六年十月
竣功　仝　九年六月

一建物高サ

軒高　地盤ヨリ　三十五尺
塔家棟高　仝　六十一尺

一構造概要

基礎　コンクリート打
外壁　壁周圍煉瓦二枚積地中室二枚半積
内仕切壁　木造木摺地
床　地下室金庫倉庫臺所等ノ天井ニ當ル一階ノ床ハ鐵筋コンクリート造リ其他ハ木造

小屋　木造
外部腰　鐵平石亂積張
腰上壁　擬石タイル張
階上窓外柱形長押類檜材ペイント塗
軒裏　化粧垂木木材ペイント塗
石材　北木産花崗石
家根　日本式瓦葺
車寄　床鐵平石敷屋上バルコニーダンプユース上タイル敷

テレス　煉瓦造鐵平石張入口迫持六方岩積階段手摺花崗石床鐵筋コンクリート打タイル敷

造作　室内ノ腰羽目幅木建具廻リ階段共檜、チーク檜樫等ニシテ全部、ヴワニシラック塗仕上トス

玄關腰羽目各窓入口ノ額縁階段等全部大理石張リトス

階上ニ純日本式居間二室ヲ設ケ檜材白木造トス

一室内裝飾　食堂客室居間等ハ壁紙張リ床寄木張リトシ天井ハ木造及色漆喰塗ノ混用トス

其他ノ壁及天井ハ水性色ペイント及色漆塗喰仕上各窓ニハ『ブラインド』ヲ用ヒ主要ノ各室ハ曇帳及絨氈敷トス

各室ニ相當スル家具類ヲ備フ

一暖爐設備　地下室ニ『セクショナルボイラー』ヲ据付各室ハ『スチームヒーター』ヲ配給シ階上日本室等ハ廊下ノ窓臺下ヲ貫通シ放熱口ハ竹格子造リトシ其他ノ室ハ總テ『マントルピース』ヲ設ク

一電燈設備　配線ハ『ノップ』及『チューブ』ノ混用ニシテ各器具類ハ『ブロンズ』製トス

一給水及衛生工事　給水ハ堀井戸ヨリポンプニテ揚水シ衛生工事ハ總テ水洗式トス

一工費概算　總建築費　貳拾萬圓

一設計監督者　設樂建築工務所

一工事受負者　建築受負　旗手榮三郎

暖房衛生工事受負（舊清水工務所）　機械貿易株式會社　大阪營業所

電燈工事　みよし組



漫錄

××太平洋を横ぎりて

□五□

會員　工學士　波江悌夫

海上には海上の樂しみがある。陸には陸の面白味がある樣に、鄕に入つたら鄕に從へといふ筆法から割り出せば、船に乘つてからは、縱へ荒れやうが、はたまた晴れやうが、船の樂を樂むこそ、船に乘つた甲斐があるといふものではあるまいか聞く處によると桑港通ひの定期船では橫濱を離れると直ちに運動會のプログラムが出來上つて、連日面白おかしく暮らして行くそうである、これは運動好の白人連が多く乘り込む爲めであると聞いた。さういへば本船には日本人の數が多い爲でもあるが、船の上での運動會の催しは一週間の荒波を越へて來ても、更らにないのは心細い話である尤も契煙室にはトランプを遊ぶ者、圍碁をやる者將棋に凝る者、夫々のパーチーが居るが、頗る物靜かであるのはあながち海神の怒に恐縮して居る爲でもないらしい。

印度洋を越へる船では赤道を橫ぎるの日を期して一大演藝界を催すさうである。茲に於て、大平洋の航路では、百八十度の經線を橫ぎるの日を以て御祭騷ぎをやるのだそうである。

明廿三日午後八時半より一等食堂に於て
素人劇を相催すべく候間御笑覽被下度候
演藝部員一同
一等御客樣

といふ掲示が中央の階段室に張り出されたときは、船客一同夫々に興味を以て之を迎へたのであつた。

處が其晩から海の神樣は亦荒れ返つて、さらでだに恐縮してゐる船客は皆御自分の室に蟄居せざるを得ぬ事と相成つた。仍て、朝張り出された廣

演藝會は天候不良の爲め延期仕候

告の下にといふ緊急廣告が掲げられた。さればといふて、海神の怒を靜むるの祈も捧げられないので、荒れるは荒れるは、船の中はまるで化物屋敷の樣になつてしまつた。椅子や卓子のフラ〳〵と躍り出す奴はボールトを締め付ける、皿や食器の轉落は枠を嵌めて之を防ぐ事ば出來ても、室内のトランクがズル〳〵移動するのはベツドの上からどうともする事が出來ない、喫煙室では、五六人一所に將棋殪になつたさうな。

波から離れて空回りをやるスクリユーの響きがドヾドヾと來る。次の大波に船首が衝突する物凄い音がズシーンと船内に鳴り渡る頃は、何れの甲板も人影なく、看護に通る船員の影のチラホラするの外、蒸し暑い室内の丸窓は潮のシブキに曇つて、やゝともすると波頭が注入するといふ有樣、陸ならば桑原々々とでもいふ所である。

四五日過ぎて漸く波も靜まつた、久し振りに御天道樣の御顔も拜まれる事となつた。或時食堂の一隅で一人の外人がをらく怒鳴つて居たのを見た聞けば伊太利の客ださうな、覺束ない英語で船長を罵つてゐるのだ。船の速度の出ないのに業を煮やしたのであるが、天候の不良は船長の罪でない萬々承知の上で怒るのだから、餘程此の大荒れに逆せたものに相違ないとの評判であつた。だが比較的神經質な日本人が伊太利人に御株を取られたのは聊か調子が拔けてゐる。電車の停電でさへ文句の多い日本人が平然たる所を見ると天命を知る

事にかけては世界一であるのかもしれない。

それは夫れとして海も靜まつた其夜は、ともかく一大演藝會が食堂内で開催されて、下級船員一同の大車輪で喜劇二幕勸進帳一幕の大芝居が、ヤンヤといふ喝采裡に目出度千秋樂と相成つた。

すると、若手連の世話役が鬱勃たる元氣を振り起して、翌晩は船客連の大演奏會が開かれる事と相成つた。某令嬢の琴、某學生の詩吟、某夫人の清元、某紳士の鉢の木、某氏の一人狂言、某客の尺八、なんど玄人そこのけの大出來に、例の伊太利客さへ手を打つての大喝采、續いて某船員の落語があり、某留學生のメスメリズムの實驗、さては某船客の大奇術に次いで得意の咽喉を鳴らす長唄があり、とう〳〵其夜はいたく更け亘り、海の上とは思はれぬ逸興となつて、喫煙室に流れ込んだ連中は丑三頃まで酒場を賑はしたそうである。

こうなると、ムッツリ返つて居た日本人は、大いに景氣付いて來て、目禮で濟ました同士も名刺を交換し、他人行儀の連中も一所に話を始めるといふ事となつて、漸て持上つたのは茶話會の催しとなり、轉じて講演會の擧行を迄に立到つた。

本日三時半のチータイムを利用し食堂に於て同船者相互の紹介に資し申度候間全員奮勵御出席相成度此段謹告候也

發起人

といふ掲示が出た。次の日は、

傍聽歡迎

實驗上より觀たる睡眠に就いて

某醫學士

疊と日本人

某工學士

といふ廣告が出る。

第二日には、

日本に於ける獸毛産業

某農商務省技師

在米邦人廿五ケ年間に於ける發展の印象と排日の裏面

某在米邦人會長

第三日には、

甲板上より觀たる化學工業
　　某工學士
船の話
　　船長

第四日には、

勞資爭闘の第一落着點と若干の問題
　　某新聞記者
住宅問題の前途
　　某會社員

といふ演題で、連日眞面目なる智識の交換が行はれた。恨むらくは日本人本位の講演會で、外人を容れ得なかつた丈が頗る遺憾であつた。

さうかと思ふとこんな急告が張り出される。

明日午後一時より二等食堂に於て百八一首かるた會開催候に付老幼男女上手も下手も御遠慮なく振つて御參戰あらん事を
　　二等船客有志
一等船客御中

それでも好きな連中は、ぎん〳〵推し掛けて行く樣になつたのだから不思議である。

◆上陸準備

船脚は靜まれる海の面をすべつて、毎夜三十分以上を進ませねばならぬ程の速力が增大して來た吾等の航路は海圖の上に現はるゝ旗の位置を見ても殘り少なくなつて來たのである、事務長は上陸準備に忙しく、夫々必要の注意事項を掲げ、又船客を呼では住所姓名生年月の調査を始めるので船客も夫々トランクの整理、上陸後の研究に沒頭するのである、氣の早い連中は無線電信を打つてホテルの室を交涉する、船內何處となくざは付いて來る、カメラを引づり出してバチ〳〵記念の寫眞を撮る連中がある、双眼鏡を手にしてもう大陸が見ゆさうなものとヤキモキするのがある。

「此邊は時々鯨が浮きますよ」

とステワートの一人が通り掛りに話をして行くとき、

「帆船が見ゆますよ」

と某夫人はアタフタ良人を尋ね廻つてゐる。

甲板へ出て見ると、三本檣の漁船が大きな帆を傾けて水平線上に横つてゐる。右舷甲板には船客の山をなすといふ有様である。寔に二週間の航海の荒れで倦き〳〵してゐる連中には、物靜な洋上の帆影も懐かしいものゝ一つであるに相違ない。

「アレ！いつの間に來たんでせう？嘴の黄色い鷗が澤山にゐるのではありませんか！」

と某令嬢は高く低く船を取り廻いてゐる鷗の群を振り返つた。

「大陸からの御迎へですよ。」

と肥れた船長はニッコリと微笑する。

「もう明朝には△△島が見えませう。」

と長い髯をコスリ〳〵事務長は近づいて來る。

かくて、其晩は、最後の餘興とあつて夜食の時に各自仮裝を疑らして食堂へ集まれ、との急告が掲げられた。物好きな日本人が、御名殘狂言として各自勝手な仮裝に身をやつして繰り込んだ有様は、繪にも筆にも示めれぬ次第であつた。スチワートの連中には、其成績によつて賞金迄與へられた、その賞金は船客の寄附金から成り立つて居たのである。食事が濟むと、無宿になつた一同は、樂隊を先頭に船中を廻り廻つて、むさ苦しい三等船房へ迄も押し込んで喝采を求めたのであつた。

御名殘を惜しむ御連中が、徹宵喫煙室に呑み明かしたる有様は、さすが禁酒國への首途とて無理ならぬ次第であるが、此連中が横濱を離れた時には、何處の誰やら知らぬまゝに目禮もせなかつたのであるから、面白からざるを得ないのである。

海

親(した)しめば海(うみ)の嘆(なげ)きも
われは知るわがかなしみも海は知るらむ

——いさむ——



〔批評〕

※『建築物語』を讀む

會員 T N 生

江村君足下。殘暑尙堪へ難き折柄、愈御健筆奉慶賀候。とんと御無沙汰に打過ぎ居り、寔に御無禮至極、御宥免を乞ふの外なく候。されど時には足下の健在を祈りて私かに神の恩惠の偉大なるを感謝し、又思を馳せて、足下の活動せられつゝある三階の事務室を想配する場合なきに非ず。實に大阪は西風を喜ぶ、足下が西側の室を打開きて煤煙の林を眺めつゝ筆を走らする雄姿?を心に浮べて微笑を禁ずる能はざる事も有之候。協會の雜誌が君の努力に負ふ所頗る多き丈、それ丈足下の健在を祝福し且つ益奮勵あらん事不堪希望候。

江村君足下、愚生不相變頑健なれど、又筆無精は例によつて例の如く、いつも足下の心勞の種ならずとせず、忙中閑なきに非ずと雖、亦閑中亦忘を叫ぶの折のみ多きを卿ち居候。愚生が草廬は幸に海風南より來る處に在るが故に、時に蘧硯を洗ふて、摩耶六甲の碧巒に對して、私かに莞爾たる折も有之候。

江村君足下、足下が特に愚生に送られたる小冊子は折からの涼風に乘じて再讀更らに三讀仕候。題して『建築物語』といふ。會員須藤眞金君の著寔に近來罕に覩る快著と奉存候。編中の大半は曾て須藤君が協會雜誌へ寄稿されたるものに御座候今改めて通讀すれば、涼味自から起り、著者の才筆に魅せられて、三千年の昔を今に、恍惚たらしむるもの有之、東西の古跡を偲び、古藝術の眞味に觸るゝを得て、三嘆を惜まざる所に御座候。

江村君足下、古代希臘の藝術は西人の風に推賞する處に御座候。されど「戀の柱頭」に出て來るカリマカスの苦心慘憺の跡、「バルテノン哀話」に現はれ來たるフイヂアス並びに彼れが親友イクチノスとの對話を讀みて、脈々通ひ來る一道の熱血は愚生が鈍なる感覺をも動かす力有之候。

江村君足下、須藤君の想像の双翼は紀元前亦數千年の昔に溯つて「バビロンのいわつくり」に帝王の溫かき戀情を畫き、「ラメスの靈魂」に宏業の偉風を傳へて、之を近代人の胸裏に響かしむる者有之候。「ポンペイの藝術」の不朽なる所以や、「フロレンスの誇り」の興味ある由來を說き、讀者をして首肯せしむる處あり、或は「老建築師の思ひ出」に大匠の淚を語り、「スコットの紀念塔」に英才の努力を讃しては、若き建築家に無限の趣味を起さしむる處、著者の手腕頗る大なるを覺ゑ候。

江村君足下、須藤君は我建築界が產んだ賴もしい文才に御座候。著者は建築學の研鑽に努力するの餘暇を利して、多年史學並びに文學の攻究を怠らず、よく他人の企て及ばざる荊棘を拓いて獨得の別天地を創造しつゝあるは、敬服措く能はざるもの有之候。

著者が所謂建築史の領域に滿足せず、更らに深く廣く幽妙なる藝海の奥底に觸れ、各時代の妙味なる舞臺を畫き來れる筆致は、三嘆の外無之候。

江村君足下、「神話の建築」より「頓鳥の華」に及び、「猪名部の工匠」「向原寺」を擧げて、大陸文化の由來を穿ち、「長岡京の造營」及「東大寺再建」に當代巨匠の苦心を語り、清新典雅なる建築趣味を讀者に頒たんとするは、寔に嬉しく且つ喜ばしき限りと覺ゑ候。

惟ふに、著者の抱負は「卷後に」堂々と說かれたる如く、かゝつて日本建築界の前途に或物を寄與せんとするに在りと覺え候。されば、著者は徒らに「古を溫ぬる」の學者でなく、又「新を知る」の豫言者でもなく、古往今來の流に掉差し、多くの迷へる人々に向つて藝術の眞の泉を掬せしめんとするの意を此小冊子に宿らしめたる事と覺えしめ候

江村君足下、著者が「ジバングの建築」を物し、「一九九五年のこと」を語るの間、過渡期に迷ひつゝある現代建築界に向つて、滿腔の熱血を湧かしめつゝあるを看取して、愚生は著者の心事を諒とするものに御座候。

恨むらくは、著者が、本編に、覇氣縱橫興味津々たる桃山期の藝術を書かざりし一事に御座候。されど、これ著者が處女作にして、著者が世に問ふの第一歩なれば、愚生の注文は敢えて茲に告白するの必要を見ずと存じ候。唯愚生をして言はしむればハイカラか知らねど橫讀みの文章は讀みにくふて困り入り候。內容の順列も今少し工夫ありて然るべきかと存候。先づは注文に應じて、愚生の所感を茲に述べ、斯界のため著者の健在と奮鬪を末かけて奉祈候。

一往きにし事ども

三代の榮耀、一睡の中にして、大門の跡は、一重こなたにあり。秀衡が跡は、田野になりて、金鷄山のみ形殘す。先づ高か舘ちにのぼれば、北上川は南部より流るゝ大河なり。衣川は泉か城をめぐりて、高舘の下にて大河に落入る。康衡等が舊跡は、衣が關を隔て南部口をさしかため、にぴすを防ぐと見えたり。扨も義臣すぐつて此城に籠り、功名一時の叢らとなる。國破れては山河あり。城春にして草青みたりと。笠打ち鋪て時移るまで涙を落し侍りぬ

夏草や兵どもが夢のあと





藻苑

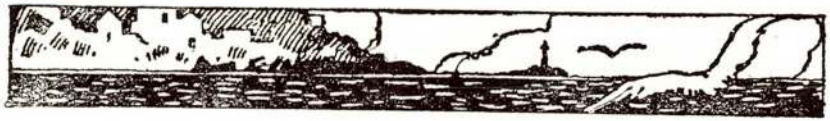
募集俳句

町

（秋季）

蘆田秋双選

新開町の石炭壺や秋の風　東京　福新
町の中に畑があるや天の川　神戸　工人
町に入る二つの橋や飛ぶ蜻蛉　同　柱石
踊ある丘や月さす町はづれ　大阪　浮月堂
町の灯に押されて暗き切籠哉　大阪　同
町に沿て流るゝ川や星月夜　門司　すゞ虫
町を行く乞食親子や星月夜　同　同
大聲に町ゆく夜學戻りかな　大阪　春光
燈の入りて町時雨るゝや渡る雁　同　同
秋洪水渡船に乘りて町に入る　同　同
草砧牛の涎が町に入る　同　同
町はづれ白帆の見ゆて秋涼し　大阪　路月
町に迷ひ鯛のなく暮となり　同　同
初秋の町や金魚屋店閉ぬ　同　同
町ぬけて松原に入る月夜かな　大阪　矩水
寺町になりて淋しき切籠哉　同　同
町いつか野道に出たり月曇る　同　同
町裏に續く鳴子に風強し　大阪　尚巾
軒燈のなき町であり虫の聲　同　同
裏町の靜かさに落つ一葉哉　同　同
避暑より戻りし町の蜻蛉かな　大阪　雨
柩出し裏町の夕や赤蜻蛉　同　同
温泉の町の干せる湯桶や秋晴れて　同　同
行軍に殘暑の町の長さかな　大阪　幽谷
秋祭白砂を敷ける町靜か　同　同
湯の町へ來て歌留多たゝる夜長哉　同　同
秋出水小田原町を泥にしぬ　大阪　曉天
鐘撞いて行林の町見て居たり　同　同
秋出水夜々を焚火や山の町　同　同
菊佳節國旗の町となりにけり　東京　無外
葛咲くや野袴はきし町の人　同　同
町の名に殘る哀話や葛の花　同　同
寺町に出れば明るし葉雞頭　同　同
秋も早や町々に栗見ゆ初めて　同　同
町人の駕籠に乘り行く若葉哉　同　同



曳船の煙町に入る殘暑かな　一帆
層樓の町コスモスの窓高し　同
朝寒の町に入る橋踏みにけり　同
蚊の多き町に住み馴れ殘暑哉　井雨
濱の町軒低くして殘暑かな　同
赤蜻蛉町出はづれて川廣し　同
更け歩く廣き町なり稻妻す　大津
町はづれ木立があれば芒かな　大津
船下りて町まで遠し月の虫　同
町の燈が見ゆる二階や蚊帳の秋　同
町過ぎて肌爽かや稻の月　同
暮れかゝる場末の町や柳ちる　同
裏町の塀沿ひゆくや虫の聲　大阪
町の灯をあてに行くなり虫の聲　鳩口
新開町裏は虫なく畠かな　同
町へ移りて親しみもなし虫の聲　同
虫の音に浸りて町の灯を見入る　同
街路樹に雲垂れて來し野分かな　同
町の片側ポプラ並木や初嵐　同
花野から橋を隔てゝ町寫生　同
大阪　木羊
夜霧の中に微かに町の明かき哉　同
秋洪水の鐘町にまで響く哉　同
秋の雨夜の町白く明けにけり　同
土塀つゞく屋敷町なり夢虫　同

野分して町へ吹かるゝ凉かな　同
遠くボート明きは町や虫の聲　同
山下りて來て町中や霧深し　井雨
町裏は湖に續きぬ稻の花　同
朝霧や肥舟下る町の川　同
町を出て野路冷かな村灯　同
舟に見る馬關の町や秋の風　同
秋時雨廊の町も更けにけり　同
町の空五位鳴きつれて三日の月　同
横町の闇に虫賣り來りけり　大阪　青耳
裏町や晝廻り居る走馬燈　同
町の上に秋の海見ゆ光る哉　同
秋雨の町に久しき空家哉　同
鬼灯や町の子供は智慧敏く　同
秋の蝶町高々とわたりけり　同
柿を戸板に並べ賣るなり町はづれ　同
蜩や町は黄色に暮れて行く　同
大掃除の埃來る町や秋暑し　同
町はづれに家鴨飼ふ家や柿赤し　同

大掃除の埃來る町や秋暑し　青耳
人　大阪惠比須町
地　大津驛前
町の燈が見ゆる二階や蚊帳の秋　大津



天

大阪内久寶寺町二

町へ移りて親しみもなし虫の聲　鳩口

選者險

町へ來て足踏まるゝや天の川
町の中飛び疲れて蟲ありにけり
町よりも海が見ゆるや秋涼し
子供つれて町を歩けば殘暑かな
町の燈のあかるさに柳散りにけり
寂し町に一軒起きて朝の霧
町の名をしらず歩きぬ夕蜻蛉
霧深し町を歩いて疲れたる

懸賞俳句募集

□次號課題　橋（秋季）
□句數一人三十句以內
□締切期日　九月十五日
□「建築と社會」原稿と必ず表記の事
□賞金　天位（金二圓）地位（一圓）人位（五十錢）進呈
□住所氏名明記ありたし

大阪東梅枝町
投稿所　蘆田秋双宛

晩凉鈔

冷奴抽を苦きまで入れよかし　月斗
冷奴風味水より淡きかな　同
眼を閉じて打れゐるなり天瓜粉　宋斤
夜の水の音に驚き釣蕊　同
島に來て深き井水や冷奴　風人
冷奴水を替へたる崩れかな　同
庭の樹々朝の濕りに光る枇杷　月四
參埃家を覆ひぬ枇杷熟れる　同　廊如
川風に吹かれに出たる浴衣哉　同
灯す町ぬけて風ある浴衣哉　凡童
行水をつぎ〳〵すませ皆男の子　同
日盛に棕梠の葉のいたき尖り哉　苦水
行水のあとに病葉浮びゐる　同
葉そよぎに町が見ゆ透き日の盛　王者香
日盛の沖から雲が出そめたり　同
行水の肩へ夕刊投げ込みぬ　百草
秋の海の廣き方より帆がふえぬ　同
山の人さしられて月に歩きゐる　伏兎
奏でゐる人の想ひを夜の秋　同
峰の色を窓に親しみ秋扇　秋双
降り足りて庭樹の冷えや天の川　同
鯛に桐の實はぜて落つるかな

【募集】

一和歌
一川柳
一小品
一小說

投稿無制限　薄賞を呈す

審査の上相當稿料を呈す

當協會編輯室宛振つて投稿あり度し



〔時報〕

都市計畫

●都市委員任命さる

都市計畫中央委員會委員被仰付

辭令

農商務次官　田中　隆三

都市計畫中央委員會委員被仰付

從四位勳三等　原　熙

從三位勳三等　淺野　應輔

都市計畫中央委員會臨時委員被仰付（各通）

法制局參事官　鵜澤　憲

都市計畫中央委員會幹事被仰付

農商務省商務局長　鶴見左吉雄

都市計畫東京地方委員會委員被仰付

農商務省農務局長　岡本英太郎

同上被免

東京府會議員　森田　節

同　朝倉虎次郎

同　鈴木儀兵衛

同　上篠　房輔

同　市倉　兼治

同　堀江正三郎

同　脇田　勇

同　木內傳之助

同　大野　菊三

都市計畫東京地方委員會委員被仰付（各通）

●地方委員會議案

都市計畫地方委員會は既報の如く九月上旬大阪府廳內に開會の筈なるが第一回委員會に於ては議事規則を制定して可成的問題に觸れざる事とし第二回委員會の席上にて大大阪の區域、都市計畫の年度割及都市計畫の財源の三問題につき討議することに決したり上記三問題中都市計畫の財源中第一期一億三千餘萬圓は既に三分の一を國庫補助其他は市內通行稅の融通を受け又は特別賦金及市民一般より募集すべき愛市公債の四大目に依るべく右愛市公債の償還財源は土地自然增加稅間口稅間地稅、遊興、觀覽等の諸稅より捻出すべく愛市公債募集に就いては木南助役專ら研究中なり今日まで決定せる募集額は四千五百萬圓年利七分の見當なるべしと。

●不良地區の整理

大阪府都市計畫課にては都市計畫の一事

業として不良地區（貧民部落）の整理調査を行ひつゝあるが右は市内及接續町村中衛生上より見て不良なる地區を團體的に他の衛生地區へ移轉せしめんとするものにて內山都市計畫課長は語る。

此事業は却々實行困難ではあるが各方面委員等の盡力に依り非衛生的惡臭部落を別に衛生的に新築した區劃內に移轉せしめんとするものであつて其方法は社會事業として遣るか家主の贊同を得て實行するか未だ具體的の方法は定つて居ないが何等かの方法に依りて不良地區の整理を實行することになつて居る。

因に大阪市に於ける細民部落數は南區西濱二千一戶、木島町一千百廿一戶、北區南濱二十三戶、葉村町五十八戶、東樋現町四十五戶、計三千二百四十八戶にして又接續町村にては西成郡今宮町元木津四十一戶、中津町七十七戶、東成郡莵生二百四十六戶計三百六十四戶なりと。

●都市計畫の財源

大阪市の都市計畫財源に就いて市當局は目下頻りに調査を取急げるが最も重なる財源たるべき土地增加稅に關しては過去十年間の登記面土地臺帳騰貴率等に就て頗る綿密なる調査を遂げ既に大體に於て調査完了せるも是れが課率に方つては他の財源と振合もありて研究中なるが既報の如く大阪市にては土地增加稅の外に新稅として電鐵沿線の特別遊興稅觀覽稅閑地稅（庭園稅）を起して更に府稅の車稅及び國稅通行稅市稅の交付を請ひ尙ほ今日の軒下稅を移し電鐵敷地の組替等を以て是れが財源に充填せんとするにあるも府當局にては車稅を市稅に移す事は絕對に反對す可きは勿論遊興稅の如きも都市計畫財源の勅令中に明記され居らざるを以て府に於て徵收せんと計畫せる如きが市當局に於ても一億四千萬圓の三分の一の四千六百七十萬圓は國庫の補助に俟つも殘る九千三百三十三萬圓を如何にして捻出すべきか容易ならざるを以て目下研究中なりと。

●建築警察設置案

大東京の建設に就ては都市計畫を進めて建築警察なるものを設け各個人が土地利用の氣儘を押へ相當の土地利用の制限を加へるの必要ある爲め內務省にては市街建物法に依る施行細則を審議中なりしが此程脫稿愈々法制局に廻附したり右は八月末迄には制令を以て發表せらる筈にて之を東京、大阪、京都、神戶さへ提唱せられし程なるが橫濱、名古屋其他六大都市に實施すべく東京にては警視廳が施行の任に當り新官制に依り建築監督官二人監督補五人を置き保安部直屬とし新たに建築課を設くることゝなれる由。

●大公園系統具案

大大阪市都市計畫に就ては既に道路、商工業住宅地區等部分的の計畫の公表を見しが大阪府都市計畫課にては大都市の完成と共に市の裝飾ともなり兼ねて殺風景なる都市居住者にとりて其の無味乾燥の生活を潤すべきヴァーシスともなるべき公園計畫に就き之れが系統施設を調査中なるが土地の買收等に就きて支障を生ぜんことを慮り未だ公表の期に達せざるも。其計畫案は昨今完成し運くも來る九月開會の都市計畫地方委員會に提案上程せらるゝ運びとなれり其計畫に依れば大阪市の郊外北東南の三面に六箇



會員馬場善一君、眞に二愷の侵す處となつて病褥に在りしが、終に去る七月召されて白玉樓中の人と成る、哀愁の極みにこそ。君は明治四十一年三月福岡縣立工業學校建築科に業を卒へ、爾來、諸多の建築設計に其手腕を振ひ、青年建築家として前途頗る嘱望され、我協會亦君を會員の一人に推ぜるを以て光榮とせり。然るに、君や、今悠然として逝く、我建築界に望み多き一技術家を喪ふこと、寔に惜悼の感轉た深からざるを得ざるなり。されど、比較的短かき君の生涯も、其遺ぜる君が人格的抽寫たる數多の建築物は、永へに君を語らむ、今茲に君の肖照を掲げ、謹で哀悼の誠意を捧ぐ。

所の大公園を適當に分布し此の公園を連絡する爲め幅員八間の循環道路を造り路上には並木と芝生を植る筈にて從來の公園と異なる點は夫々公園の種別分布を明かにすることゝ即ちこの六箇の公園を森林公園、河岸公園、平野公園、林間公園、水池公園、大運動場兼飛行機着陸場公園等各異なれる特色を有するものに造り此總面積二百萬坪平均一公園三十餘萬坪で有名な東京日比谷公園の五六倍あり現在府市の管轄に屬する中之島、天王寺、箕面、住吉、大濱等の公園面積合計五十餘萬坪に比し三四倍の大いさあり此の經費は總額三千萬圓の豫算なるが此計畫は頗る大袈裟な大事業なる故になか〳〵一朝一夕に完成する譯には行かざるを以て都市計畫課にては差當り當面の公園計畫として既設公園の改良を行ふとゝなるべく箕面、住吉は既に略々最初の改良工事を終へしより尙引續きて大正十年度、十一年度にかけ濱寺公園大改造に着手し漸次大阪の公園整理を行ふ筈なりと。

社會施設

◉市美術館建築案

大阪市立美術館の建築設計に關しては客月二十一日午後一時より市役所に調査委員會を開き

京大の澤村、武田兩教授を始め今井大阪府立圖書館長、堀居市民博館物長、片岡安博士外市教育部關係者

出席し武田氏の設計せる三階建築（地下室を含む）案に就き協議したる結果二、三階に各二箇所休憩室を設くべく一部分の修正を行ひたるのみにて全部承認したれば九月二十日前後第五回委員會を開きて愈々一般に懸賞募集を爲す豫定なるが

一等賞一人三千圓、二等賞一人二千四、三等賞三人各一千圓宛位

として募集期間は約三箇月位の時日を存すべし尙募集條件となる武田氏設計の大要左の如し。

地下室、二階三階總延坪數三千二百坪、間口五十八間、奥行三十間にして地下室には食堂、厨房、物置、修理室、倉庫、製本室、荷解所、便所等あるが中央兩側に通路を設けて一を公衆入口、一を職員等入口とし二階には繪畫陳列室、美術工藝品陳列室を始め建築物彫刻の陳列室を適當に設け三階には繪畫陳列の二室を除きて一般者中所有の美術其他の品物を陳列する特別陳列室を二室取り此外古文書及び印刷物陳列一室、研究の五室、館長及び事務各一室閲覧書庫貴重品閲覽特別閲覽各一室等を周圍に配置して中央に講演室を設くるにあり。

右設計の最も注意すべきは從來の斯の種設計の如く只陳列にのみ重きを置かず講演並に研究に便なる所謂動的設備を爲す點にありと。

◉貯蓄銀行市營案

大阪市當局者は多數市民の金融機關として貯蓄銀行の市營計畫を進めつゝあるが何分之を實現せしむるには現行貯蓄銀行法條例改正を要する事にて手續上面倒なる事情あり尙仄聞する處によれば政府當局に於ては市營貯蓄銀行の設立を認可せば郵便貯金の預入に影響を及ぼす懸念あるのみならず一般銀行業者の影響並に反對を顧慮して市當局の交渉を容易に肯諾せざるが如し曩に衆議院銀行條例委員會に於る赤田代議士の質問に對しても神野大藏及小橋内務兩次官より市民の貯蓄は唯市營貯蓄銀行のみに依ゝ能はず之に比すれば郵便貯金の如きは零

碎の預金を廣く吸集するに至極便利なりとの要旨を答辯したりコハ政府當局に於て市の腹案内容を知悉せざる爲め郵便貯金並に一般銀行業影響のみを懸念する結果と觀らるゝが寔に現在郵便貯金の利用狀態を見るに僻陬の地に於ては一般銀行業者は營業不引合の爲め手を延ばさず大體に於て郵便貯金に依るも住民の職業上時間を多少犧牲に供するも然まで大障なきを以て先づ之にて忍び得るが各都會に於ては職業若くは境遇上時間の餘裕少き爲め郵便貯金の如き副業的にして官廳と同樣の時間内にて取扱はるゝより不便尠からず殊に夏季午前中の取扱には痛切に不便を感ずるのみならず三等局中には預金又は拂出請求者の多數來るを喜ばざる傾向すらあり況して預金高には制限を置き利率四朱八厘と云ふも預入拂出の月は算入せざるを以て實際に四朱に過ざる有樣なり更に私立貯蓄銀行は眞に信用の確實なるものは殆ど數ふるに足らざる有樣なれば市當局者は此二の理由により是非とも市營の下に市民に安心して貯蓄し得る機關を設置すべく政府當局に迫る手筈なるが之を實現せしむるには現行銀行條例の規定を改正するに止めず市營貯蓄銀行法を制定する必要あれば短日時に新設を見る事は困難なるべきも市當局は飽迄實現を期し之れにより社會政策の精神に基きて極めて極力市民の預金を奬勵し其吸集せる預金は他に利用せず社會事業方面に放資し市民の福利を增進する意にて經營する考なりと。

●勞働兩法案成行

勞働組合法案は産業調査幹事會が議會に引續き暑中休暇の爲め會合するに至らざるより其後何等の進捗を見ざるが暑中休暇終了と共に幹事會を開き附議したる後今冬の通常議會に提出する豫定なるが勞働爭議法は目下立案中にて省議決定するも産業調査會の審議を經ざる可らざるを以て勞働組合法と共に來議會提出の運びに至らざるやも知れずと。

土木建築

●五省改築委員會

各省諸官衙中には新築以來既に相當の歲月を閲し改築の必要に迫られたるもの尠からず例年豫算編成に當りては常に二三省より改築費を要求するを例とすれども其都度閣議に於て削減せられ近き將來に於て實現の望み無きを遺憾とし大藏省の立案に依り各省聯合の委員會を組織して改築に關する協議機關となすに決し曩に四十二議會に於て之に要する經費を豫算に計上せしも議會解散の爲遷延今日に及び漸く臨時議會に於て七千圓の經費を得たれば向後折々委員會を開催して特に大藏、内務、農商務、文部陸軍の五省改築に關し場所選定、改築の順序建築の規模等に就き凝議する所有る可しと云ふ尚ほ右委員會は公式任命等の形式に依らず右五省の會計課長を委員として懇談的に協議せしむる方針なりと。

學事

●京大建築科成る

京大工學部に九月一日より新設さるゝ建築學科の講座組織と擔當教授割當等は今般全部終了主務省の裁決を得次第近く發表さるべし。

新學科の内容は四講座を置き第一講座を建築息匠第二講座を建築構造第三講座を建築史第四講座を建築衛生並に設備とし第一講座の擔任には名古屋高等工業學校長武田五一博士を迎へ第二講座は現京大教授日比忠彦博士第三講座は内務省古社寺修繕監督技師たる工學博士天沼俊一氏を助教授とし第四講座は現京大教授大井清一博士の兼擔と内定せり。

武田博士は我國建築圖案界の泰斗として曩に京都高藝の教授として令名あり天沼博士は明治三十五年東京工科大學建築科の出身にして學界屈指の建築及美術史通なると新に講師として洋畫家太田喜二郎氏を迎へたれば京大の新學科は東大の夫に比して清新の氣横溢せるものあるべし。



〔會報〕

編輯

○三伏燦金の暑も、編輯だけは不斷の大車輪を續けねばなりません、編輯同人も隨分暑いのです、却々苦しいです、けれども、雜誌の內容が每號何處かに新しき創造があつて、雜誌の出來上る事が大層嬉しいのと是が私共の藝術的天眞な生活であると思ひますれば、伏暑も何もあつたものではありません非常に愉快に思ひます。

○何時もながらの事でムいますが、一般會員各位が本誌を御利用被下事に於て、今一層充分に御心安く願ひ度うムいます、原稿は何んでもよろしふムいますから、編輯室へ御送りを願ます。別項の通り編輯會議を重れて絕へす本誌の改善に竭くして居りますから、御承知置を願います。

會合

◉編輯會議

日時　八月十八日午後六時半——八時

會場　日本建築協會事務室

出席者　葛野、波江、江村

記事　新に和歌、川柳、小品、漫畵等を掲ぐる事として、弘く募集する事

來年一月號より會報を別冊として配付する事、一月號より表紙圖案を改める事、其二三の決議を爲せり、因に、當月は例會並に理事會を休止せり。

會員消息

◉渡米

會員濱邊節君は、建築界視察の爲、九月四日橫濱發渡米されたり、因に、本年末歸朝の豫定なりと。

◉逝去

會員馬場善一君は去る七月二日(?)、終身贊助員松村雄造君は八月十二日逝去せられたり、仍て當協會より深厚なる吊意を表したり。

轉任

會員矢島一雄君は先般大阪府技師を辭し、

八月廿五日大阪發東上せられたり、因に、同君は遞信省に奉職せらるゝ筈なりと。

疾病

會員安井武雄君は過般來病痾にて入院療養中の處近來漸く全治され依然大阪毎日新聞社建築現場主任及片岡建築事務所技師として活動されつゝあり

移轉

（會員）（移轉先）

松室　成貞君　東京市外代々木山谷一三四番地

岡　大路君　大連市滿鐵技術部建築課

魚住　儀一君　神戸市湊町三丁目一ノ八神明工務所

矢嶋　一雄君　東京市（住所ハ追報告ス）

（普通贊助員）（移轉先）

小林已之造君　横濱市本牧小港

中川　將君　大連市但馬町ノ區五號地

大島屋哲三君　名古屋市中區南鍛冶屋町三ノ八平岩源七方

芝田　知重君　神戸市國香通り五丁目六番地竹中工務所

會則變更

通信決議の結果會則中左の通り變更し大正九年九月一日より實施す。

會則第五條第二號中『終身贊助員——金百圓以上』とあるを『終身贊助員——金三百圓以上』と變更

寄贈圖書

◉書　籍

◉雜　誌

建築物語　須藤眞金君著

建築雜誌第三四輯第四〇三號（建築學會）

建築世界　第十四卷第八號（建築世界社）

住　宅　第五卷第八號

電氣學會雜誌　第三八四號（電氣　學會）

材木新聞（毎號）（其　社）

建築評論　第二卷第七號（建築評論社）

工業の友　第一五九號（工手學校同窓會

日本美術協會報告　第七輯（日本美術協會）

大阪工業會々誌　第二十七號（大阪工業會）

樂しき庭園「新住宅」特別號（洪洋社）

新住宅　八月號（洪洋社）

通俗衛生　二六三號（大阪府衛生會）

藏前建築　第八號（東京高工建築研究會）

建築業協會會報　第二卷第七號（其　會）

庭　園　第二卷第六號（庭園協會）

都市公論　八月號（都市研究會）

建築新報　第二卷第六號（建築新報社）

國民經濟雜誌　第二十九卷第二號（定　文　館）

電氣評論　第八卷第八號（電氣評論社）

ベネチヤ市建築條例



ベヲチヤ市建築條例〔上〕

第一章　總　則

第一條　豫メ許可ヲ受クルノ必要アル建築工事

第二條　第四條第五條（建築工事ノ許可申請書ニ添付スベキ書類及之ニ記載スベキ事項）

第六條　（建築工事ニ關スル法令ノ遵守）

第七條　（工事認可書ノ下附）

第八條　（土地使用料ノ納付ト保証金ノ供託）

第九條　（認可書ニ添付セラルベキ書類）

第十條　（申請書ノ却下）

第十一條　（認可ノ有効期間）

第十二條第十三條　（緊急工事）

第十四條　マヲモツコ區。本條例中ニ包含スル規定ノ適用）

第二章　公私ノ安全及衛生ニ關スル規定、新築ニ關スル規定

第十五條　建物ノ新築及現ニ存在スル建物ノ修繕ハ技術上善良ノ法式ニ則リ其用途ニ應シテ堅牢及安全ニ關スル必要條件ヲ悉ク具備セザルベカラズ

健康ニ有害ナルカ若クハ危險ナル工場

第十六條　人口ノ最モ稠密ナル所ニ於テハ主ナル陸路若クハ水路ニ沿ヒ或ハ其附近ニ於テ健康ニ有害ナルカ若クハ危險ノ虞アル工場ヲ設置スルヿヲ得ズ

烟突ノ陶冠竈暖爐等

第十七條　爐、其被覆、竈、暖爐、暖室等及一般ニ熱及煙ノ導管ハ火災ノ危險ヲ避クルニ適スル物質ヲ以テ建築セラレザルベカラズ且又其通過セザルベカラザル所ニ燃燒シ易キ建設物ノ存在スルトキハ其種類ノ如何ヲ問ハズ成可ク之ヲ避クルノ設備ヲ爲スベシ

烟突ノ陶冠ノ外部ノ開口ハ少クモ屋根ヨリ一米突高キ所ニ之ヲ設クベシ烟突若シ石炭泥炭若クハ近隣ニ損害或ハ迷惑ヲ蒙ラス燃料ヨリ發生スル煙ヲ吐出スルトキハ半徑十五米突ノ周圍内ニ存在スル建物ノ最モ高キ屋根ノ頂上ヲ越ユルヿ少クモ一米突半ナラザルベカラズ但人家ノ存在スル所ニ於テ公認セラルヽ工業ノ煙筒ノ高サノ最大限度ヲ定ムルノ權ハ參事會ノ權限ニ屬ス

高サノ甚シキ煙筒ハ鐵ノ支柱及繩索鏈鎖等ヲ用ヰテ適當ニ其安固ヲ圖ラザルベカラズ

階梯

第十八條 新築ノ家屋ニ於テハ一層ヨリ他層ニ通ズル階梯ノ一箇ハ少クモ石材若クハ金屬ヲ以テ造ラレザルベカラズ

劇場及其他ノ興行場ノ檢查

第十九條 劇場及公衆ノ觀覽ヲ目的トスル常設或ハ假設ノ興行場ハ法令ノ規定ニ遵由スベキハ勿論堅牢及安全ニ關シ市ノ當局者ニ依リ豫メ檢查ヲ受ケタル後ニアラザレバ公開スルコトヲ得ズ

建物危險ノ狀態ニ在ル場合ニ施スベキ設備

第二十條 加何ナル種類ノ建物若クハ製造所タリトモ危險ノ狀態ニ在ルトキハ市ノ當局者ハ其所有主ニ對シ相當ナル期間內ニ所要ノ設備ヲ施スベキコトヲ催告スル催告ニ應ゼズシテ之ガ設備ヲ行ハザルトキ若クハ一刻モ猶豫シ難キ危險アルトキハ市長ハ法令ノ規定ニ基キテ之ヲ處置ス

新築建物ノ高サ

第二十一條 新築若クハ增築ノ建物ノ高サハ陸路若クハ水路ノ幅員三米突以下ナルトキハ九米突三米突以上ナルトキハ其幅員ノ三倍ヲ超過スルヿヲ得ズ

改築ノ場合ニ於テハ建物ノ取扮シ後少クモ三箇年以內ニ改築ヲ了スル場合ニ限リ其從前ノ高サ本條所定ノ高サヲ超過スルモ別ニ之ヲ改ムルヿヲ要セズ

川幅ハ河ノ兩側ニ在ル基地ノ間隔ヲ測定シテ之ヲ定ムマラモツコ區ニ於テハ建物ノ高サハ道路ノ幅員ノ二倍ヲ超過スルヿヲ得ズ

第二十二條 道路ノ境界線ヨリ全ク引込ミテ建築セラルヽ建物ノ高サハ道路ノ幅員ニ空地ノ幅員ノ二分ノ一ヲ加ヘテ之ヲ算定ス

引込ミガ一局部ニ止マルトキ即チ建物ノ最上床ノミ全ク引込ミテ建築セラレタルトキハ引込ミタル部分ノ高サハ殘リノ建物ノ高サヲ加ヘ其全高引込ミタル箇所ノ幅員ヲ加ヘタル道路ノ幅員ニ比例スルコトヲ要ス

但市長必要ト認メタルトキハ該規定ノ適用ヲ拒否スルノ權ヲ有ス

第二十三條 著名ナル記念物ノ附近ニ於ケル建物ノ新築若クハ其高サヲ增ス場合ニ於テ該建築或ハ其高サノ增加ニ依リテ附近ノ記念物ノ內部若ヽハ外部ヲ暗黑ナラシメ若クハ其眺望或ハ遠望ヲ妨グルトキハ市長ハ裝飾委員會ノ意見ヲ聞キ第二十一條所定ノ高サ以下ニ其高サヲ制限スルノ權ヲ有ス

第二十四條 道幅ノ不揃ナル道路ニ於テハ建物ノ高サハ其面スル道路ノ幅員ノ平均數ヲ取リテ之ヲ定ム

第二十五條 二箇ノ道路ノ角ニ建築セラルヽ建物ノ高サハ廣キ道路ヲ標準トシテ定ムベシ但シ廣キ道路ヲ標準トシテ定メタル高サトナスベキ狹キ道路ニ面スル建物正面ノ高サハ必ズ廣キ道路ニ面スル前面ノ長サニ等シカラシムベシ

第二十六條 建物ノ高サハ陸路ニ在テハ道路ノ水平面上、水路ニ在テハ普通滿潮ノ表面上一米突二十珊ノ所ヨリ長押若クハ軒上平階ノ最上ノ線マデヲ計算ス

被覆ヲ有シ若クハ有セザル持送リ椽、平場若クハ望樓及長押若クハ軒上平階ノ上方ニ於ケル局部的突出物ハ其種類ノ如何ヲ問ハズ建物ノ前面ト同一垂直線上ニ在ル場合ニ限リ高サノ中ニ含マルベシ

前項所揭ノ各部分ヲ引込メテ建設スルトキハ便宜第二十二條ノ規定ヲ適用セラル

ベシ但市長ハ建設物ノ性質形狀大サ及土地ノ狀況ニ應ジテ該規定ノ適用ヲ制限スルノ權ヲ有ス

建物ノ高サニ關スル規定ノ適用ノ制限

第二十七條 建築術ノ上必要ノ顯著ナル建物若クハ特殊ノ用途ヲ有スル建物ニ在リテハ市會ハ建物ノ高サニ關スル親定ノ適用ヲ制限スルノ權ヲ有ス

第三章 棧架防禦物及目標

工事ノ爲メニ使用スル公有地ノ板圍ヒ

第二十八條 建物ヲ取崩シ、新築、改築、修繕及其公有地若クハ公衆ノ通行ニ充テタル土地ノ占有ヲ必要トスル工事ニ在テハ市ノ當局者ヨリ其都度規定セラルベキ特別ナル方法ヲ以テ工事ヲ行ノ場所ニ板圍ヒヲ爲スコトヲ要ス

第二十九條 入口及窓ノ戸扉ニシテ市有ニ屬スル土地ノ板圍ヒニ暫時用ヰラレタルモノハ常ニ外ヨリ內ニ開カレザルベカラズ

公ノ點燈ノ圍繞

第三十條 公ノ點燈ヲ包圍スルトキハ之ガ圍ヒノ建設ニ着手スル二日前ニ工事ヲ命ジタルモノ或ハ臨時ノ處置トシテ之ガ工事ヲ行フモノ土木課ニ之ヲ通告スベシ

電線瓦斯管ノ如キ地中及空中ニ於ケル傳体布設權ヲ有スルモノニ對スル豫告

第三十一條 撐材、圍ヒ或ハ防禦物ヲ設クルガ爲メ鋪道若クハ其他ノ道路上ニ存在スル建設物ヲ除去スルノ許可ヲ得タルモノハ地中及空中ニ於ケル傳体布設權ヲ有スルモノニ其旨ヲ通告シ同傳体ノ破損ヲ豫防スルノ目的ヲ以テ其者ノ指示セル指圖ニ從フノ義務ヲ有ス

棧架（アシバ）

第三十二條 公衆ノ通行ノ必要若クハ其他特別ナル事情ニ依リ土地ノ包圍ヲ許可セラレズシテ棧架ヲ建テザルベカラザルトキハ闌杆蓙ヲ据付ケ碎片及粉末ト爲リタル原料ノ墜下及流動性原料ノ漏泄滴下ヲ防止スベキヤウニ地板（ヂバ）ヲ張ラザルベカラズ

第三十三條 前條所定ノ場合ニ於テハ棧架ハ陸路ニ於テハ道路ノ表面上二米突五十以上ノ所ニ河流ニ沿フ所ニ在テハ普通滿潮ノ表面上三米突以上ノ所ニ之ヲ設ケザルベカラズ

通行人ノ安全ヲ保障スベキ規定

第三十四條 板圍、棧架、階梯、機（カラクリ）及其他ノモノハ通行人ハ勿論工事ニ從事スルモノヽ安全ヲ保障ベキヤウニ建設セラレザルベカラズ

第三十五條 取崩シ若クハ其他ノ工事ノ擧行中壁ノ塊ヲ顚覆シ重キ材料ヲ高所ヨリ投下スル事ヲ嚴禁ス一般ニ材料ヘ籠又ハ箱ニ入レテ地上ニ取卸シ若クハ相當ナル豫防ヲ施シテ承（トセ）ノ中ヲ流通セシメザルベカラズ

工事附近ニ於ケル土地家屋ノ防害物及撐材

第三十六條 建物ノ取崩シ若クハ建築ニ方リ其附近ニ存在スル土地家屋ノ安全ヲ保ツニ必要ト認メタル防禦物若クハ撐材ノ建設工事ヲ行ハザルベカラズ

施行中ノ工事中止ノ場合ニ於ケル施設

第三十七條 工事施行中之ガ中止ノ必要ア

ルトキハ利害關係人ハ運滯ナク建設ヲ了ハリタル部分ノ安固ヲ保全スルノ義務ヲ有ス不履行ノ場合ニ於テハ法律ノ規定ニ依リテ之ヲ擧行ス

通行人ニ對スル目標

第三十八條 單ニ懸垂スル棧架、大ナル箱若クハ楷子ヲ防禦物ヲ使用シテ工事ヲ行ハザルベカラザルトキ及一般ニ必要ナルトキハ常時道路ニ於ケルト河上ニ於ケルトヲ問ハズ斜ニ堅ク檣壁ニサンカケタル小梁或ハ交錯スル架材若クハ場合ニ應ジ最モ適當ナル手段ヲ以テ通行人ニ工事施行ノ旨ヲ知ラシメザルベカラズ

圖ヒノ角ニハ赤色ノ瓦斯燈ヲ備付ケ工事ヲ行ハシムルモノヽ負擔ニテ夜中點火シ置クベシ

建物ノ附近ニ於ケル土地ノ開放

第三十九條 建物ノ附近ニ在ル公共ノ土地ニ於テハ工事ヲ行フモノ破壞物ノ碎片、材料及通行ヲ妨ゲ若クハ通行ニ不便ナル物品ハ種類ノ如何ヲ問ハズ他所ヘ運搬セシメテ全ク開放シ置カザルベカラズ

市設鋪道ノ復舊及整頓

第四十條 棧架及圖ヒヲ取毀シタルトキハ位置ヲ改メ若クハ損シタル鋪道及其他市設ノ建設物ヲ原狀ニ復シ修繕ヲ加ヘザルベカラズ

河底

防水枠若クハ防水楯ノ取毀シ後ニ於テハ工事中河ノ疏通ヲ沮害シタル碎片ヲ除去運搬シテ河底ヲ成規ノ原狀ニ復セシメザルベカラズ

同上ノ義務ノ遂行ヲ確保センガ爲メニ市長ハ同義務遂行ガ全部若クハ一部缺如シタルトキ利害干係人ノ費用ヲ以テ必要ナル施設ヲ行ハシムル事ヲ得

利害干係者ガ義務ノ遂行ヲ全ク怠リタルトキハ市長ハ市ヲシテ必要ナル工事ヲ行ハシメ之ニ要シタル費用ハ第八條所定ノ供托金ヨリ控除スルモノトス

共同塵芥捨場ヘ材料ノ運搬

第四十一條 共同塵芥捨場若クハ其他ノ場所ヘ不用物ヲ運搬スルニ方リテハ現行ノベ子ス潟條例ノ規定ヲ遵奉スベシ

特別ノ場合ニ於ケル本章規定ノ適用ノ制限

第四十二條 本章ノ規定ノ一ヲ遵奉スルコト不可能ナルカ若クハ非常ノ困難アリト認メタルトキハ市長ハ工事ノ正當ナル施行ニ最モ必要ナル範圍内ニ於テ該規定ヲ制限スルノ權ヲ有ス

第四章 道路及河川

公衆ノ通行ニ充テラレタル

私有ノ土地ニ於ケル導管ノ布設ト鋪道ノ整理

第四十三條 公衆ノ通行用ニ充テラレタル私有ノ土地ニ出入口ヲ有スル土地及家屋ノ所有主ハ下水及擔水ノ導管ノ布設ヲ爲サザルベカラズ

且又該所有者ハ鋪道ノ正當ナル保存ヲ努ムベシ此場合ニ於テハ市ノ必要ノ大小ニ應ジテ補助金ヲ下附セラルヽモノトス

河ノ緣邊

第四十四條 河ニ面スル個人ノ所有ニ屬スル土地ハ其種類ノ如何ヲ問ハズ河中ヘ土砂若クハ其他ノモノヽ流下スルヲ阻止センガ爲メ普通滿潮ノ表面上少クモ七十珊ノ高サヲ有シ壁ヲ以テ作リタル緣邊ヲ設ケザルベカラズ

同上ノ壁ノ最上部ニハ石若クハ突瓦（タガイナガイ）ニ煉瓦ヲ組合セテ作リタル飾ヲ附スベシ

スクエー(Dock Yard)ニ對シテハ同上ノ規定ヲ適用セズト雖モ其水中ノ周圍ニ沿フテ泥土ノ流下ヲ妨グル爲メニ單ニ材木ニテ造リタル冠頂ヲ設ケザルベカラズ

河流ニ臨ム正面ノ最下部

第四十五條 直接河流ニ臨ム建物正面ノ壁ハ普通滿潮ノ高サ以下ノ部分ニ於テセメントヲ以テ密着セル浮凸(ウキアゲカサリ)飾ヲ有シ其中ニ接合セル材料ノ基底ヲ表示スルヤウニスベシ

建物ノ所有主ハ壁ヨリ分離セル物質ハ其種類ノ如何ヲ問ハズ河底ヨリ遲滯ナク之ヲ除去セシメザルベカラズ

物料ノ排除ト臺

第四十六條 河流ニ臨メル家屋ノ所有者ハ同家屋ヨリ投入セラレ又ハ流下セルモノト認メラレタル物質ノ排除及特ニ上陸岸ニ沿フテ作リタル臺ニ關シテハ所要ノ經費ヲ支拂フノ義務アルモノトス

河水ヲ乾(ホ)シテ之ヲ掘鑿スル場合

ニ於ケル所有者ノ義務

第四十七條 河流ニ臨メル家屋ノ所有者ハ該河流ノ水ヲ乾シテ之ヲ掘鑿スル場合ニ於テハ公示若クハ特別ナル訓示ニ基キ自己ノ所有ニ係ルモノヽ修復及其基地ノ保全ニ關スル施設ヲ行フベシ

所有者若シ之ガ施設ヲ忘ルトキハ市ハ同所有者ノ負担及費用ヲ以テ公衆ノ安寧及衛生ノ点ヨリ必要ト認メタル總般ノ工事ヲ行フ

第四十八條 河水ノ乾涸中家屋ノ水中ニ在ル部分ニ於テ着手シタル修繕工事ヲ完了センガ爲メ市ノ工事ニ對シテ定メタル期限ヲ越ヘテ防水枠ヲ以テスル包圍ノ繼續ヲ必要トスルトキハ利害關係人ノ申請ニ基キ之ガ延期ヲ許可スル事ヲ得但豫メ確然タル延期ノ期間ヲ定ムル事ヲ要ス

前項ニ依リテ延期セラレタル河流ノ乾涸工事ニ基ク費用ハ此場合ニ於テハ一切利害關係人ノ負担トス之ヲ以テ市ハ該許可ヲ下スト同時ニ該費用ニ對スル保証トシテ相當ナル金額ヲ供托(イカダ)セシムルモノトス

筏及大鵜嘴ヲ以テスル掘鑿

ノ許可

第四十九條 市長ヨリ正當ナル許可ヲ受ケ其都度規定セラルベキ規程ヲ遵守スルニ非ラザレバ筏及大鵜嘴ヲ以テ市ノ河川ノ土ヲ掘鑿スル事ヲ禁ズ

何レノ場合ニ於テモ家屋及其基礎ノ附近ニ於テ土ヲ掘鑿スル事ヲ禁ズ

第五章 裝飾委員會

第五十條 (裝飾委員會其組織)

第五十一條 (議長ノ權限)

第五十二條 (集會)

第五十三條 第五十四條第五十五條(投票)

第五十六條 第五十七條(委員會ノ提議)

第五十八條 (委員ノ作成ニ係ル提案)

役員及職員

理事長　安岡片藏（主記）
理事　宗兵寅（編輯）
池田葛野壯一郎（編輯）
吉井長七（編輯）
舟橋喜一（主計）
設樂貞雄
編輯補　波江悌夫
佐藤四郎
江村郊邨
越山達繁
書記　渡島

會員	一八二	會員（地方）	五四
名譽賛助員	七一	終身賛助員	四一
特別賛助員	一一	普通賛助員	二六二
合計	六二〇		

本誌及廣告料定價表

本誌	冊數	定價	郵稅
	一冊	金五拾錢	貳錢
	十二冊	六圓	貳拾四錢

廣告料	種別	金額
	半頁	八圓
	一頁	拾五圓

特別頁モ料金一定シアリ御照會アリ度シ

大正九年八月三十一日印刷
大正九年九月一日發行（毎月壹回一日發行）
大阪市北區相生町一三四
電話（東一八八三番）
發行兼編輯人　伊藤幸太郎
印刷兼印刷人
大阪市東區內淡路町地一丁目卅一番
印刷所　大阪活版所
大阪市西區京町堀上通一丁目
不動貯金銀行ビルデインヂング內
事務所　日本建築協會
電話土佐堀一九七三番
振替口座大阪三九七五番
大阪市東區今橋一丁目二番地
發行所　片岡建築事務所內
大阪市西區京町堀羽子板橋北
特約販賣店　柳々堂書店
電話（土佐堀二四四〇番）
振替口座二〇八四番

●第三集　第九号　掲載広告一覧（掲載順）

日本エレベーター製造
住宅改造会
浅海商店
池田稔事務所
出浦建築事務所
新海工務所
葛野建築事務所
渡辺建築事務所
片岡建築事務所
横河工務所
宗建築事務所
真水工務所
真水三橋建築事務所
遠藤於菟
木子建築事務所
設楽建築工務所
茂、野村建築事務所

加藤工業事務所
国枝工務所
舟橋建築事務所
池田勘蔵
大倉土木組大阪出張所
橋本料左衛門
大林組
竹中工務店
長瀬兵馬
山本鑑之進工務所
山中建築部
山本組
鴻池組
松村組
小西組
安藤組大阪出張所
清水組大阪支店

木村組
清水工務店
銭高組
山縣組
熊取谷熊次郎
喜平商会
共同大理石商会
中岡商店
河村青写真調製所
矢橋商店
服部与兵衛商店
松本陶業
青木化学製油所
松尾和助本店
山本窯業商店
内外土木建築材料
新田ベニヤ製造所

東洋工業社
日本商会
東京電気
砂崎
村井工業所
野沢幸三郎商店
山本コンベス商会
大野正営業所
栄進社
日本石綿盤製造
須賀商会
有田製陶所
宇野沢組スティンド硝子製作所
東京建鉄大阪支店
川崎工場
北木島石材大阪出張所
萩原煖房工務所
高田商会銀座販売店
日本建築紙工

銀座建築用品店
共同建材製作所
浅野スレート大阪出張所
横河橋梁製作所
高田商会
米国貿易会社
大阪金物商会
日本建築協会
南満鉱業
米山商店大阪支店
日本水道衛生工事
大阪窯業
明正社